

2025

研究紀要

第40号



秀 光 中 学 校
仙台育英学園高等学校
仙台育英学園沖縄高等学校

巻 頭 言

仙 台 育 英 学 園 高 等 学 校
校 長 加 藤 雄 彦

2024年の幕開けは、元旦の早朝、石川・能登地方を襲った最大震度7の大震災でした。その後も政治資金問題で、安倍派の議員の逮捕が続き、混沌とした幕開けとなりました。しかし、8月に行われたパリオリンピックにおいては、日本は、金メダル20個、銀メダル12個、銅メダル13個、計45個を取得し、金メダルの総数とともに海外の夏季五輪では過去最多となりました。世界に目を向けると、アメリカではトランプ氏が返り咲きで大統領に就任し「アメリカ・ファースト」を掲げ、経済、外交、環境、移民など多岐にわたる分野でアメリカ国民と国内産業の利益を最優先する政策が始まりました。また、ウクライナを侵略するロシア軍に北朝鮮が援軍を派遣し戦争が拡大し、イスラエルにおいては、ネタニヤフ首相が、「ハマスの壊滅」と「全人質の帰還」を掲げて戦闘を続けています。

本学園におきましては、東日本大震災の教訓から、ハード・ソフト両面にわたる整備を進め、教育環境の一層に充実を努めております。先の新型コロナウイルス感染拡大期には、全国に先駆けてオンライン授業を導入し、学力向上と感染防止の両立を実現しました。秀光中学と秀光コースでは、グローバルシティズン教育を目指し、国際バカロレアのMYP・DPを取り入れております。また、特別進学コースのMAP、外国語コースのケンブリッジ国際教育、英進進学コースのBTECプログラムが認定を受けています。さらに、3つの国際教育プログラムを1つの高等学校で受けている事例は国内では本学園のみとなります。また、教職員向けの研修体制やシラバス作成支援など指導力の向上にも力を入れております。

さて、本学園の職員による研究・研修内容をまとめた「研究紀要」は今回で40号を数えます。これまでの研究紀要に掲載した研究・研修については、巻末の総目録で紹介しております。今回寄稿された先生方の報告内容を見ますと、トピックには、秀光中学校・仙台育英学園沖縄高等学校加藤聖一校長の「専門性を有する移住者の定住に関する実証的研究」についての博士論文の報告を始め、在職教諭による大学院派遣による修士論文報告、英進進学コースBTECプログラムの進捗状況。そして2年目を迎えた沖縄高等学校「勝浦運動場」の施設紹介。研究報告では、各教科によるBrush Up研修報告、外国語コースで取り組んでいる第二外国語授業の実践報告、特別進学コースと英進進学コースで実践した生成AIの授業活用報告、沖縄高等学校の6つの学校設定科目の取り組みと成果など、多岐にわたる本学園ならではの特色ある取り組みを見て取ることが出来ます。今後も本学園の教育活動が、生徒一人ひとりの希望に寄り添いながら、すべての本学園生の進路に的確に対応できるよう一層研究を重ね、仙台育英学園の信頼をさらに高めるよう努力していきます。

研究紀要 40 号

巻 頭 言	加藤 雄彦
-------------	-------

トピック

(1) 宮城大学大学院博士論文（ダイジェスト版） 「専門性を有する移住者の定住に関する実証的研究」について（報告） 秀光中学校 仙台育英学園沖縄高等学校 校長 加藤 聖一	1
(2) 仙台大学大学院修士論文（ダイジェスト版） 「高校運動部活動における指導者及び部員の満足感を規定する要因について」 英進進学コース 田辺 巧	5
(3) BTEC（Business and Technology Education Council）プログラムの紹介 BTEC センター長 千葉 慎	9
(4) 仙台育英学園沖縄高等学校について（第2部） 仙台育英学園沖縄高等学校 教頭 庄司 昌弘	12

I 研究報告

教科教育センター

(1) 「企業の教育プログラム」を活用した授業実践 社会科コンダクター 小松 敦	17
(2) 令和6年度国語科BrushUp研修会報告 国語科コンダクター 須藤 尚	23
(3) クリエイティブな教材研究 ～AIの活用とその創造性～ 特別進学コース 安部 宏紀	26
(4) 第二外国語・中国語授業における実践事例 外国語コース 王 霄漢	35
(5) Copilot（コパイロット）の実践について 英進進学コース 五十嵐春祐	42
吉野 裕貴	
(6) 研究紀要第39号（2024）「主体的な学びの支援ツールの有効性と数学の授業展開の研究」 の継続研究～Canvaの活用～ 技能開発コース 舘 和廣	47
(7) 「学校設定科目で学ぶ」資格取得を見据えて 仙台育英学園沖縄高等学校 外間 智行	62

II 令和6年度 研修報告

情報科学コース

沖縄校との交流会報告	情報科学コース 布施 晃伸	65
------------------	---------------------	----

外国語コース

第1年次 ハワイ研修報告	外国語コース 武田由紀子	70
	我妻 紗菜	

III その他

総目録（第1～39号）

編集後記

トピック

博士論文

『専門性を有する移住者の定住に関する実証的研究』について(報告)

秀光中学校
仙台育英学園沖縄高等学校
校長 加藤 聖一

はじめに

私事で恐縮ですが、2025年3月19日、宮城大学大学院事業構想学研究科事業構想学専攻の博士後期課程を修了し、博士(事業構想学)の学位を得ることができました。2022年4月からの3年間で博士号を取得できたのは、理事長 加藤 雄彦 先生をはじめとする仙台育英学園の先生方のご理解・ご協力があったことに他なりません。この場をお借りして感謝申し上げます。

本稿では、そもそも現職中に宮城大学の博士後期課程へ私が進学することになった経緯の説明とそこでの研究成果である博士論文『専門性を有する移住者の定住に関する実証的研究』の概要について報告させていただきます。

博士課程への進学経緯

まずは経緯についてご説明いたします。端的には外国人介護人材の育成に本学園が挑戦していることが背景にあります。本学園では、高齢化進展に伴い介護現場の担い手の確保が益々必要な中で、少子化により担い手が不足しているという現状が直接的・間接的に中高生のヤングケアラーの問題をより深刻化させる恐れがあると考え、介護人材の育成に取り組むことを決意しました。そのため2019年度より、インドネシアの姉妹校から日本において介護人材となることを目指して留学する生徒を受け入れており、パイロットケースを踏まえて、2022年度から正式に「仙台育英学園高等学校 外国人介護士育成プログラム【ICP…International Care worker Program】」を開始しております。同プログラムでは本校在学中や介護福祉士資格取得にむけた養成施設在学中の生活費を奨学金として支援するスポンサーを募りながら留学生募集を行っておりますが、これまで2019年度は2人、2020年度は0人(コロナ禍により受け入れ中止)、2021年度は4人、2022年度は8人、2023年度は14人、2024年度は10人を受け入れ、2025年度は12人の受け入れを予定しております。そして、この教育的成果は本学園HP「東和蛸雪校舎インドネシア留学生日記」にあるとおり目覚ましいものがあります。

このように社会的背景から外国人介護人材の育成に本学園が取り組み、2022年度から本格的にプログラムを始動させようと準備していた中、こういった人材の日本、東北地方、宮城県への受入れについて学術的背景を理解することなく進めていくことについて一抹の不安がありました。というのも、日本政府では「政府として国民の人口に比して、一定程度規模の外国人やその家族を、期限を設けることなく、受け入れることで国家を維持する」移民政策(2024年5月24日参議院本会議での岸田前総理の発言)について2021年度当時も慎重な立場をとっている一方で、本学園で受入れ始めていた介護福祉士を目指す留学生はこれまで本学園が受け入れていた留学生よりもより中長期的なキャリア観・人生観をもって留学してくることが想定されたためです。このような不安を払拭するために、留学生が介護士としてのキャリアをスタートさせることと、本学園のICPによる人材育成が学術的にどのような位置づけにあるといえるのかを明らかにする必要性を感じました。こういった考えを理事長先生に打ち明けたところ、ご自身も仙台ロータリークラブなどで本学園のICPを説明している中で、ロータリーアンの方から外国人介護人材やICPを学術的に捉えていくことは、本学園はもとより宮城県・東北地方・日本にとっても、意義のあることであるとお話を頂戴したとのことで、私が研究することを応援してくださいました。そのため、私が着目しているのが宮城県・東北地方といった地域の介護人材の育成という一つの事業に関わるものであることを踏まえ、事業構想学の研究科がある宮城大学にご相談をした次第です。

宮城大学には当時、地域イノベーションの創発を研究テーマとしながら、少子高齢社会を支える人材育成に取り組んでおられる青木孝弘先生(現、東北公益文科大学 公益学部 教授)がおられ、その青木先生にご相談申し上げたところ、私の師匠となる藤澤由和先生(事業構想学群 教授)をご紹介いただきました。藤澤先生は海外での研究生活を通してご自身も国際的な移住の経験がある中、保健・医療・福祉領域での公共政策学やソーシャル・キャピタル論を長年研究されておられます。この藤澤先生のご指導のもとで宮城大学にて3年間修学したというのが一連の経緯となります。余談ではありますが、この藤澤先生のご縁により宮城大学と仙台育英学園高等学校英進進学コースならびに仙台育英学園沖縄高等学校でのアントレプレナーシップ教育に関わるDX(デジタルトランスフォーメーション)をテーマとした高大連携講座を2023年度および2024年度に開講できております。

在学中の研究成果

宮城大学の後期博士課程で修学したことで得た研究成果には、3つの成果を挙げることができます。1つ目は先のとおり博士論文『専門性を有する移住者の定住に関する実証的研究』となります。所定の単位を修得し、この学位（博士）論文の審査及び最終試験（口頭試問）に合格することで学位である博士（事業構想学）を得られました。2つ目はこの博士論文の研究過程において専門誌に投稿した論文となります。具体的には、以前は厚生労働省情報統計部企画課所管の財団法人であった厚生労働統計協会が発刊する月刊誌『厚生指標』に、論文『外国人介護人材の異文化適応が職業定着に係る意思に与える影響』（加藤聖一、藤澤由和2024）を投稿し、掲載されました。3つ目は日本地域政策学会の第21回全国研究【宮城】大会での発表『外国人介護人材育成プログラムの開発：地域の介護人材確保に資する「高校留学型養成施設ルート」の構築』（加藤 聖一、青木 孝弘、藤澤 由和2022）となります。本稿では後者2つの成果も用いて書き上げた博士論文の概要についてご紹介いたします。

博士論文の構成

博士論文は145ページの全7章および文献目録で構成しました。まずは社会的・学術的な背景、研究の目的、研究の意義を序章で述べました。続く2章では国際的な移住に関わる先行研究を整理しました。そして3章ではこの先行研究を踏まえて、本研究が新たに論点とする箇所と仮説を示しました。この3章を踏まえて、4章では具体的な仮説検証のための方法について記しました。4章の方法に基づいて得られた結果を5章で示し、結果に基づく考察については6章で示しました。最後に、7章ではこれまでの6章分のまとめと本研究に関連する研究領域における学術的な貢献と社会的な貢献について明らかにした上で、本研究の限界について記しました。

外国人介護人材の抽象化

博士論文を書き上げる上で最も苦慮したのが、外国人介護人材の学術的な位置づけでした。なぜならば、社会科学においては、単に外国人介護人材を研究対象とするといった研究を進めると、社会的な貢献を主とした事例研究に留まってしまう可能性が高く、学術的な貢献を求められる博士論文に至らない場合があったためです。そのため、外国人介護人材という対象を研究するにあたって、博士論文における研究対象の具体的な調査対象にするといった論理性が求められました。このようなことから、外国人介護人材が来日する事象を抽象化するとなんといえるのか、外国人介護人材という存在を抽象化して捉えるならばどのような存在といえるのかといったように、具体的事象・対象を抽象化することを試みた上で、抽象化して捉えた存在から外国人介護人材を調査対象として選択する論理的妥当性が果たしてあるのかといったように、再度、抽象的事象・対象を論理的に具体化できるかを検討し続ける必要がありました。

結果、外国人介護人材が来日する事象を「国際的な移住」として、外国人介護人材を「就労を目的とする移住者の中でも専門性を有する移住者」として抽象化して捉えることができました。そして、国際的な移住についての研究が進展する異文化間心理学（Cross-cultural psychology）と就労を目的とする移住者の研究が進展する経営学の知見をもとに、「国際的な移住」と「専門性を有する移住者」の学術的な同定を行いました。

博士論文における論点と仮説

まず異文化間心理学分野における「国際的な移住」では、移住者本人が移住を一時的なものとして捉えている一時滞在と移住者本人が移住を永続的または長期的なものとして捉えている定住が、その移住形態に関する論点としてあることを明示しました。

次に異文化間心理学分野と経営学分野において「専門性を有する移住者」は、一時滞在意図する一時滞在者である自己主導型駐在員（Self-initiated expatriate）と、定住を意図する移民である専門職移民（Immigrant professionals）に同定できました。

一方で、これまで職業におけるキャリア形成の成功を重要な移住動機とするとされる自己主導型駐在員では、その移住動機のために、「組織的・地理的境界を物理的に越えることへの傾倒」とされるモビリティ選好を有するとされ、一時滞在意図する自己主導型駐在員の移住期間については一時的であるということが前提とされてきました。このため、移住当初は一時滞在の意図であった自己主導型駐在員が、滞在の過程で移住を永続的または長期的なものとして捉え直すといった、自己主導型駐在員における定住はこれまであまり目が向けられてこなかったという学術的な課題がありました。こうした課題に対応するために、自己主導型駐在員を研究対象として、

その移住形態が定住へと変化する要因の実証的検討とその知見に関する体系的な整理を行うことを目的としました。また、一時滞在と定住といった移住形態に関わる論点はこれまで独立して検討されていた中で、この目的の達成により、関連する論点として新たに検討する上での実証的知見が見出し得るという学術的意義がありました。

このような目的や学術的意義のもと、先行研究を踏まえ、移住形態の変化を伴う自己主導型駐在員の定住を「自己主導型駐在員から専門職移民への移行」という事象によって同定しました。併せて、経営学分野のキャリア論の知見などを踏まえ、自己主導型駐在員のモビリティ選好を抑制し、自ら選択した職業で働き続けることを促すものとして、職業におけるキャリア形成の心理的成功の一つである適応（Adaptation）を検討し、「自己主導型駐在員から専門職移民への移行に適応が影響する」といった仮説を導出しました。

仮説の検証を行う対象としての外国人介護人材

導出された仮説の検証にむけて調査対象を特定する必要がありました。そのため先行研究を踏まえ、「自己主導で移住する」、「受入国が移住・永住を認める専門性がある」、「現在居住し正規雇用で就労している」、「移住時に一時滞在の意思がある」、「滞在中に永住する意思と就労継続する意思を抱くことがある」といった要素で、自己主導型駐在員から専門職移民へと移行し得る調査対象を特定することにしました。

博士論文では、まず就労を目的とした移住者の数がOECD加盟国の中で近年増加している国として日本があることから、調査対象を選定する上で日本に着目しました。そして、その日本で将来的な労働市場の需要に対して人材供給が十分でないことから移住者の受入れが盛んに行われている専門職である介護職に焦点を当てました。こういった論理的な展開の上で、先の要素を満たす者として外国人介護人材を特定し、その個人を調査対象にして仮説の検証を行うことにしました。この特定過程の中で、本学園のICPのような外国人介護人材の育成形態を「高校留学型養成施設ルート」として学術的に位置づけました。

このようにして、抽象化して捉えた存在から外国人介護人材を調査対象として選択する論理的妥当性が果たしているのかといったように、抽象的事象・対象を論理的に具体化できるかを検討した次第です。

実際の調査では、介護福祉施設に現在勤務している外国人介護人材のうち、介護福祉士の国家試験受験経験がある東北地方・北陸地方の養成施設における卒業生を対象とし、調査票を配布いたしました。

調査・分析結果から得られた示唆

博士論文では調査票から得られた結果を用いて相関分析、重回帰分析を主とした統計的分析を行いました。その結果、「自己主導型駐在員から専門職移民への移行に適応が影響する」といった仮説の一部は支持され、一定の全体像をもったメカニズムの存在が、「自己主導型駐在員から専門職移民への移行」、すなわち専門性を有する移住者の移住形態の変化の中で示唆されました。その全体像の一部を端的に説明すると、「職業におけるキャリア形成の心理的成功（適応や職務満足度）を経験することで、受入国におけるキャリア上の利益への期待値と再移住で生じるコストが高くなり、モビリティ選好を抑制するとともに、受入国で選択した職業への関与を強め、就労継続を促す。これらの過程の中で家族の存在は、移住者に生活を安定させようさせ、地域移住を抑制することや就労継続することを促す。」といったものになります。

博士論文の学術的・社会的な貢献

この博士論文の貢献には3つ挙げられます。1つ目は、一時滞在と定住という移住形態に関わる論点はこれまで独立して検討されていた中で、関連する論点として新たに検討を進める上での実証的知見が先に示した結果・示唆のとおり得られたことであり、このことは学術的な貢献といえます。2つ目は、日本における外国人介護人材の受入れが2008年の経済連携協定（EPA）から本格的に開始され、2017年の在留資格「介護」の整備によって日本での永住申請が入国管理法上可能になったという背景から、日本における外国人介護人材の研究は萌芽的な状況にある中、今回、外国人介護人材が日本の地域における介護人材として定着するための要因を見出せたことであり、このことは社会的な貢献といえます。3つ目は、私の博士号の学術領域となる事業構想学への学術的な貢献となります。介護事業における事業運営に欠かせない人的資源の中でも外国人介護人材に焦点をあてて、地域、職業に定着するメカニズムを経営学分野や異文化間心理学分野等の知見をもとに学際的に見出したことや、この外国人介護人材がこれらに定着するためにどのような育成が図れるかという着想・計画・実現について、「高校留学型養成施設ルート」などの育成実態を整理し検討を行った点が具体的な貢献となります。

おわりに

以上のようにして博士論文を書き上げました。この博士論文を書き上げる過程や博士論文そのものにおいて、外国人介護人材と本学園のICPの学術的な位置づけを明らかにするという当初の進学目的は達成したと考えております。博士論文の「本研究の課題」の箇所に記載いたしましたが、介護職・地域といったものに適応できるようにスキルを育成することがこれらへの定着にどのような影響を及ぼすのかといった次の研究テーマも見出し得ました。この研究の調査対象として本学園のICPは欠かせないものになると考えております。そのため本学園のICPに対して、これまでの社会的ニーズによるスポンサーからの着目だけでなく、今後は研究領域からも広く着目されることを期待しております。

今回取得した博士号（事業構想学）が本学園の発展、そして私自身のキャリアにとってどのような価値を発揮するかは未知数ではありますが、社会科学領域で博士論文を書き上げる中で培った研究能力、中でも具体的な事象・対象を抽象化した上で論点を調査・整理し新たな意義のある論点を見出すリサーチ能力と思考能力といったものは、本学園で新たな事業を構想する上で力を発揮できることに繋がるのではないかと期待しております。そして、博士課程の学びの中で得られたご縁や、研究を担う人としての在り方を伝授いただけたことが私にとって一番の収穫でした。

冒頭にもありますように理事長 加藤 雄彦 先生をはじめとする仙台育英学園の先生方のご理解・ご協力によりまして、このような学び多き3年間を得ることができました。中でも2年目以降は仙台育英学園沖縄高等学校長としての職責もある中で研究活動が続けられましたのは、理事長先生のご支援はもとより、同校の先生方のご協力あってのことです。先生方に支えて頂きながら沖縄県に「移住」し、その風土に妻・子供（4歳児・1歳児）と共に「適応」するという実体験は、研究の中で様々な気づきに繋がりました。改めまして皆様に感謝申し上げます。

本報告の引用文献

- 加藤聖一．専門性を有する移住者の定住に関する実証的研究．公立大学法人宮城大学2025.
- 加藤聖一，藤澤由和．外国人介護人材の異文化適応が職業定着に係る意思に与える影響．厚生指標2024；71(6)：9-16.
- 加藤聖一，青木孝弘，藤澤由和．外国人介護人材育成プログラムの開発：地域の介護人材確保に資する「高校留学型養成施設ルート」の構築．日本地域政策学会第21回全国研究【宮城】大会2022：46-47.

高校運動部活動における指導者及び部員の 満足感を規定する要因について

英進進学コース 田辺 巧

I. 緒言

学校教育活動において教育課程外活動に分類される中学校・高等学校の運動部活動は、多くの生徒の心身にわたる成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たし、様々な成果をもたらしている（文部科学省2013）。しかし今日では、社会・経済の変化等により、教育に関わる諸課題が複雑化・多様化したことで、学校や指導者だけでは解決することができない課題が増加している（スポーツ庁2018）。ではどのようにして指導者、部員が満足した活動が行えるのか。

II. 目的

本研究では、文部科学省（2013）が告示した「運動部活動での指導のガイドライン」並びに、スポーツ庁（2022）が告示した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を主な参考として調査用紙の作成を行い、高校運動部の指導者及び部員の満足感を規定する要因を明らかにし、その要因が「部活動ガイドライン」のどの項目と関係しているかを検証する。また、先行研究では、満足感を規定する「楽しさ」要因は有意傾向ではあるが比較的低い値で、他にも満足感を表す要因があることと示唆されることから（深見・岡澤2016）、満足感を多角的に捉え、より詳細に実態を明らかにすることを目的とする。

III. 研究方法

本研究は指導者用と生徒用の2種類の調査用紙を作成した。本調査は令和6年1月24日ー令和6年2月22日にかけて宮城県内の高校2校（私立1校、公立1校）の運動部（指導者62名、部員は313名）を対象に調査を行った。収集した調査用紙から指導者及び部員の質問項目を因子分析（潜在的に似た質問同士をまとめる）し、その因子得点（まとめた因子の回答5段階評価を平均した点数）から指導者及び部員のクラスタ分析（回答の傾向が似ている対象者同士をまとめる）及び、クラスタと満足感との関連性の分析（対象者のまとまり毎に回答を見比べて、どの回答が満足感と関係しているかを分析する）を実施した。

IV. 結果

因子分析の結果、指導者は、**指導者のやりがい因子**（心身の疲労がなく働き方や部員との関係が良好である等のやりがいに関する因子）、**チームマネジメント因子**（部員への安全配慮や指導運営等のマネジメントに関する因子）、**適切な指導因子**（部活に全力を注ぎ、自分の経験を基に指導をおこなう等の指導に関する因子）、**指導運営体制因子**（指導者の人数や保護者の協力等の指導の体制に関する因子）の4因子、部員は、**指導者の民主的行動因子**（指導者が部員を尊重し、寄り添う等の指導者の民主制に関する因子）、**生きる力育成因子**（社会で生きるための能力に関する因子）、**良好なコミュニティ因子**（様々な交流関係に関する因子）、**部活動懸念因子**（部活動の懸念に関する因子）の4因子が抽出された。

上記の各因子の得点をもとに、似ている回答傾向の対象者同士をまとめるクラスタ分析をおこなった結果、指導者は3つのクラスタに分類された。そのうち、チームマネジメント因子と適切な指導因子に特徴があった「**高管理高指導群**（マネジメントを行い指導熱量がある指導者）」、チームマネジメント因子と指導者のやりがい因子の得点に特徴があった「**高管理高充実群**（マネジメントを行い部活動にやりがいを感じる指導者）」の部活動に対する満足度は有意に高い値を示し、チームマネジメント因子のみに特徴があった「**高管理群**（マネジメントのみを行う指導者）」は有意に低い満足度を示した（図1, 2）。

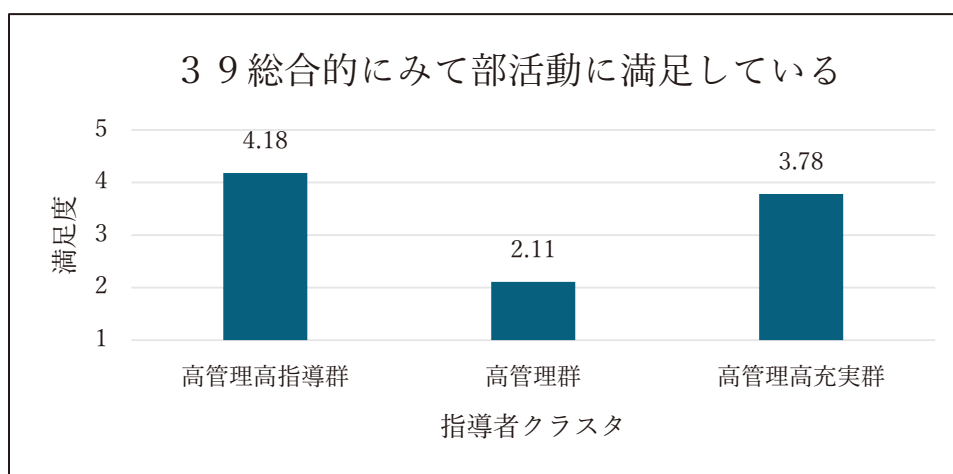


図1 総合的満足感に対する指導者クラスタの比較

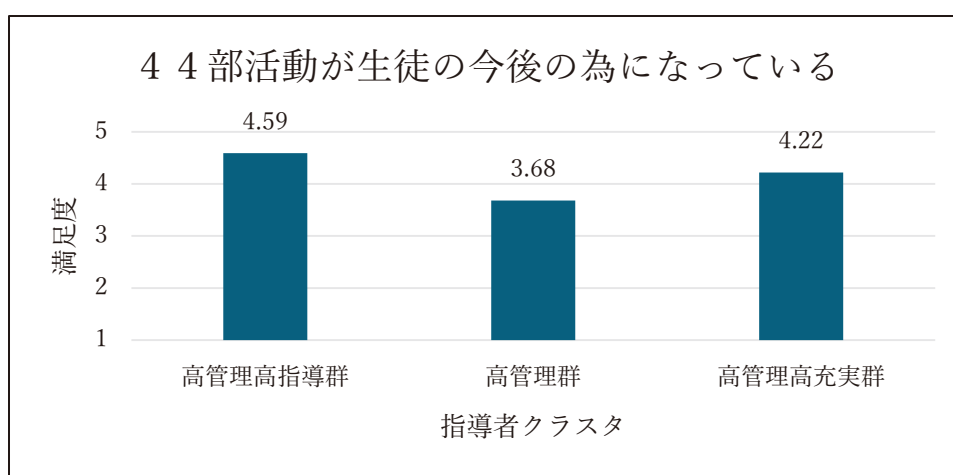


図2 部員有用感に対する指導者クラスタの比較

そして、部員は4つのクラスタに分類された。そのうち「多高民主中利得群（大いに指導者が寄り添ってくれると感じる部員）」の部活動に対する満足度は有意に高い値を示し、続いて「少高民主中利得群（ある程度指導者が寄り添ってくれると感じる部員）」「中民主高利得群（やや指導者が寄り添ってくれると感じる部員）」「低民主高利得群（指導者が寄り添ってくれないと感じる部員）」というように、指導者の民主的行動因子（指導者が部員を尊重し、寄り添う等の指導者の民主制に関する因子）の得点が減少するほど、部員の満足度は減少していた（図3、4）。

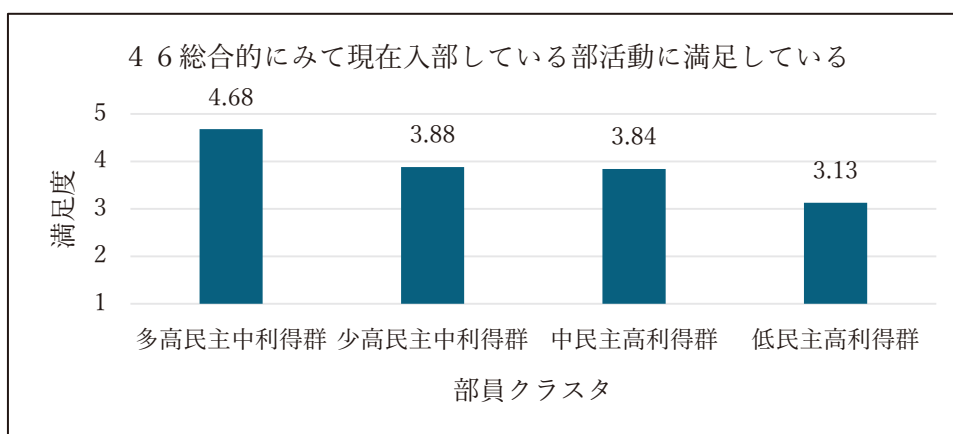


図3 総合的満足感に対する部員クラスタの比較

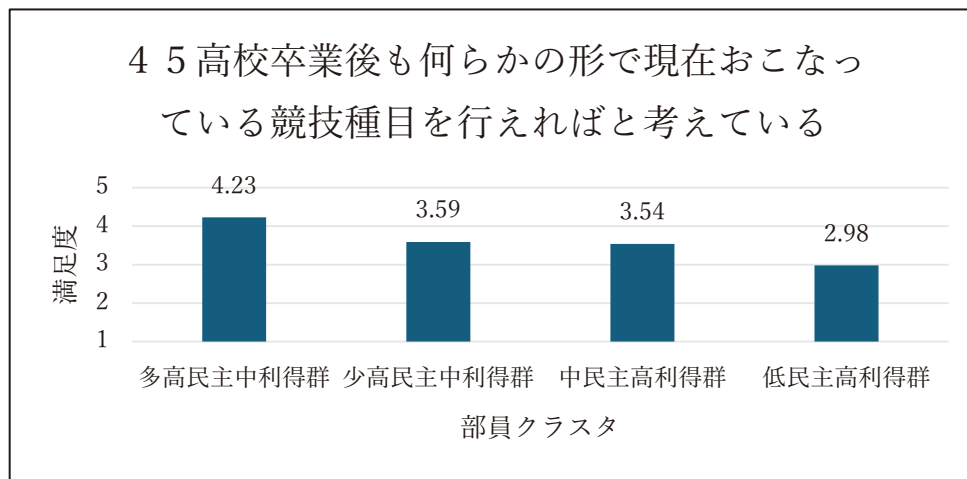


図4 競技継続意志に対する部員クラスターの比較

V. 考察

指導者クラスターの満足度について、「高管理高指導群（マネジメントを行い指導熱量がある指導者）」「高管理高充実群（マネジメントを行い部活動にやりがいを感じる指導者）」の満足度は有意に高く、「高管理群（マネジメントのみを行う指導者）」の満足度は有意に低いことから「指導者のやりがい因子（心身の疲労がなく働き方や部内の人間関係が良好と感じる）」と「適切な指導因子（部活に全力を注ぎ、自分の経験を基に指導や練習計画の作成を行っている）」が指導者満足感を規定する要因と言える。

部員クラスターの満足度について、各部員クラスターの「指導者の民主的行動（指導者が部員の意見を尊重し、疲労状態を考慮した練習を行うなど寄り添う姿勢がみられる）」の因子得点の差が満足度の差に影響していることから「指導者の民主的行動」が部員満足感を規定する要因と言える。

しかし、指導者及び部員それぞれの満足感を規定する要因を比較した結果、「高管理高指導群（マネジメントを行い指導熱量のある指導者）」は「自身が主体となって指導や練習計画を行うこと」に満足感を得る傾向にあるが、部員は「部員の意見を尊重する指導者の姿勢」に満足感を得る傾向にあり、双方の満足感を規定する要因に矛盾が生じていることがわかった。

VI. 結論

指導者の満足感を規定する要因として、「指導者のやりがい（心身の疲労がなく働き方や部員との関係が良好）」、「適切な指導（部活動に全力を注ぎ、自身の経験を基に指導や練習計画の作成を行っている）」が関係していることが明らかとなった。部活動ガイドラインの項目では、肯定的な指導や部員の状況を把握しながら指導すること（文部科学省2013）、指導者の負担を軽減する体制の構築（スポーツ庁2022）等が関係していると言える。指導者の満足度が向上することは、部活動や働き方に満足し、部員のために指導する気持ちの高まりに影響を与え、指導が魅力的に感じること、指導者を増やすことに繋がると考える。

部員の満足感を規定する要因として、「指導者の民主的行動（部員の意見を尊重することや、疲労状態を考慮した練習を行うなど部員に寄り添う指導者の姿勢）」が関係していることが明らかとなった。部活動ガイドラインの項目では、肯定的な指導や部員の状況を把握しながら指導をおこない（文部科学省2013）、部員の心身の健康管理、外傷の予防、事故防止（安全対策）を徹底する（スポーツ庁2022）等が関係していると言える。部員の満足度が向上することは、楽しさ、入部してよかったという気持ちや、高校卒業後も競技を続けたいという意志の高まりに影響し、競技人口の拡充及びスポーツ振興に繋がると考える。

また、「高管理高指導群（マネジメントを行い指導熱量のある指導者）」は「部員の意見を傾聴し良い意見を尊重する姿勢を持つこと」、そして「目的を達成するために必要な競技特性や、様々な状況を鑑みた戦術等の“競技に対するものの考え方”を部員に伝え続けること」で部員が自主的、自発的に考え行動する部活動本来の活動となり、指導者と部員双方の満足感を増加させることに繋がると考える。

今後の研究は指導者及び部員満足感の規定要因を基にした部活動指導ロールモデルの確立が課題となるだろう。こうした活動が、指導者の拡充やスポーツ振興に繋がっていき、一人でも多くの指導者及び部員が「部活動をやってよかった」と心から思える世の中を切に願う。

VII. 謝辞

2年間仙台大学大学院スポーツ科学研究科での修学をお認めいただきました理事長加藤雄彦校長先生はじめ、英進進学コースの教頭先生方、同学年の先生方、体育科の先生方、そしてBTECの先生方に深く感謝申し上げます。おかげさまで、保健体育分野、BTEC分野の科学的根拠に基づく知識だけでなく、課題解決に対する考え方、そして、部活動を発展させていくために必要な指導者の姿勢について学び考えることができました。この2年間で学んだことを教育現場で発揮しながら、その都度生徒が良くなるための指導を考えていき、変化する社会を常に先回りする思考を持って職務に臨んでいきたいと考えております。

参考文献

- ・スポーツ庁2013『運動部活動での指導のガイドライン』P1-P11
- ・スポーツ庁2018『運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』P1
- ・文部科学省2022『学校運動部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン』P8-P12
- ・深見・岡澤2016『運動部活動における目標設定、勝利志向性、意見反映度の実態並びにそれらが生徒の満足度に及ぼす影響』P781-P795

BTEC (Business and Technology Education Council)

プログラムの紹介

BTECセンター長 千葉 慎

1 プログラム導入のねらい

BTECプログラムは、世界中の70を超える国でGCSE中等教育修了一般資格（1-2レベル）、GCE一般教育修了上級レベル（レベル3）、大学学位（レベル4-7）と同じように認められている資格です。BTEC資格は教養科目の知識とキャリア重視の実践的な応用を組み合わせ、大学進学と就職の両方の道に進むことを可能にしています。

英進コースでは、2021年12月に日本初のピアソンBTECセンターの承認を受け、ピアソンとリバプールフットボールクラブが共同開発したピアソンBTEC インターナショナル レベル3 スポーツ ディプロマのプログラムを導入しました。学習指導要領では、総合的な探究の時間、評価の観点における「学びに向かう力、人間性」、批判的思考などが重視されています。これは変化の激しい予測不可能な時代（VUCA）を生き抜くための力を育成することを目指しています。本学園は建学の精神の理念のもとに一条校としてのIBの実績があります。不易を大切にしながら、キャリア重視の国際資格であるBTECプログラムを導入し、BTEC資格の取得を通して、グローバル社会で実践的に活躍できる生徒の育成を目指しています。

具体的には、様々な教育機関や社会人外部講師と連携を図り、デザイン思考やアントレプレナーシップを取り入れた起業体験などを組み込んだカリキュラムマネジメントにより、合理的で効率的な教育課程を編成し、変化の激しい時代を生き抜くための力を育成していきます。特に部活に熱心に取り組んでいる生徒にキャリア重視の経験を通して、なりたい自分をイメージし、将来への希望を持って、グローバルな社会で活躍できる力を育成し「逆転の仙台育英」のもう一つの形を実現します。

2 プログラム導入の方法

- (1) 英進進学コースにおける文武両道策の一つとしてBTEC クラス（定員30名）を設け、2年時と3年時の2年間で720時間のBTECプログラムによるスポーツのキャリア形成と資格取得のための教育課程を編成し、教科との関連を図ったカリキュラムマネジメントを行います。
- (2) BTECプログラムの英語教材を翻訳し、仙台育英版として確立するとともに、様々な教育機関や社会人外部講師と連携を図り、デザイン思考やアントレプレナーシップを取り入れた起業体験を導入するなどの実践を重ね、日本版BTECプログラムの開発や普及に取り組みます。
- (3) 大学や専門学校、各種企業などへの周知を図り、大学入試や就職採用試験における認定資格を目指します。



【ベガルタ仙台での職場体験の様子】

3 プログラムの内容

ピアソン BTEC インターナショナル レベル 3 ディプロマ 「スポーツ」 720h	指導時間は 2 年間で 720 時間 サイズは 2 つの国際 A レベルに該当します。少なくとも 11 のユニットを履修し、5 つの必須ユニットを含む。そのうち 2 つのユニットは Pearson Set Assignment (PSA) で評価されます。必須のコンテンツは 25% 以上必要です。	この資格は、2 年間のフルタイム学習プログラムとして、スポーツを主な要素として、補完的または対照的な他の分野の学習と並行して学びたい学習者を支援するために設計されています。また、本資格は他の BTEC インターナショナル レベル 3 資格や国際 A レベルを含む学習プログラムの一部として取得された場合、大学等高等教育への進学をサポートします。 (Pearson BTEC 仕様より抜粋)
---	--	---

履修ユニット ピアソンが定める課題* 必修ユニット M 選択ユニット O

ユニット（番号とタイトル）	指導時間	必修選択構成
1 健康とウェルビーイング、スポーツ *	90	M
2 スポーツとアクティブレジャー業界のキャリア*	90	M
11 スポーツビジネス	60	M
22 ビジネスとしてのリバプールフットボールクラブ*	60	O
24 応用スポーツ解剖学・生理学	90	M
26 身体能力のための栄養学	60	O
27 スポーツ心理学	60	O
29 スポーツにおける技術的・戦術的スキル	60	O
32 スポーツパフォーマンス分析	60	O
34 スポーツ開発	60	M
35 実践的なスポーツパフォーマンス	30	M

は 2 年時、 は 3 年時

4 2期生(令和7年3月卒業)のBTEC 認証取得状況

BTEC Diploma 成績段階	2期生の成績 (在籍15名)	UCAS Point	GCE Level	OUCASはイギリスの大学に 入学する際の総合出願機関 OGCEはイギリスとその連邦 諸国における学業修了認定 制度 ○評価段階 優良可の3段階 において Distinction は優に相当 Merit は良に相当 Pass は可に相当
Distinction* Distinction*	3名	112	A*A*	
Distinction* Distinction	6名	104	A*A	
Distinction Distinction	2名	96	AA	
Distinction Merit	3名	80	BB	
Merit Merit	1名	64	CC	
Merit Pass		48	A	
Pass Pass		32	C	



【日本政策金融公庫出張授業】



【外部講師によるビジネスの授業】



【外部講師によるジェネリックスキルの授業】



【外部講師による戦術の授業】

仙台育英学園沖縄高等学校について（第2部）

仙台育英学園沖縄高等学校 庄司 昌弘

1. はじめに

「なぜ、沖縄に仙台育英が？」という背景については、すでに前号である「2024研究紀要第39号」のトピック冒頭にて書かせていただいた通りでございます。本稿はその流れからの「第2部」となっておりますので併せてご覧いただければ幸いです。第1部となる前号では、仙台育英学園沖縄高等学校の概要や取り組みについて、かいつまんで説明を進めて参りましたが、今回のトピックスは「勝連運動場」と「ICT教育」になります。本編では、「勝連運動場」についてご紹介させていただき、後頁にて沖縄高等学校が取り組んでいるICT教育について説明させていただきます。

2. 勝連運動場の概要

去る2025年3月12日（水）に沖縄校では待望となる「勝連運動場」の開所式が行われました。眼下にはコバルトブルーの太平洋（中城湾）を眺望し、目を少し上に向ければユネスコ世界遺産である勝連城址を仰ぎ見ることができるこの地に、9,399平米の多目的運動場が完成しました。もともと山林や使用していない牛舎のあった土地を、ただ単に切り開いて一面のグラウンドに整地するのではなく、上手に高低差を活用して環境にも景勝にも配慮した優しい設計の運動場となっています。ちなみに、勝連運動場は低いところでも海拔25m、高いところで40m近くあり、津波対策にも十分配慮しています。沖縄市にある栄光校舎から車で20分ほど。生徒は体育活動の際に学園所有のマイクロバスで移動します。

運動場に入ったグラウンドレベル1段目には、3×3のバスケットコート2面、壁打ちテニスコート2面、管理棟が整備されています。管理棟には、保健室機能を持たせた管理室、男女トイレ、男女シャワー室（各4基）、多機能トイレも完備されています。管理棟の屋根には、ソーラーパネルを配備することで、勝連運動場で使用する全電力を賄うことができます。

中央の階段を上るとグラウンドレベル2段目には、天然芝のグラウンドが設置されており、フットサルコートを2面（3,500平米）とることができます。ここには、AIを搭載したロボット芝刈り機を2台備えており、アプリを使用して遠隔で管理運営しています。雨水や山から出た湧き水を活用して芝生への散水用タンクを備え、同時に管理棟のトイレ排水にも使用しています。

さらに、山の起伏をそのまま活用した外周のアスファルト歩道は300mほど。トレーニングにはもってこいの高低差となっています。運動場の外側からの雑草の入り込みに対応するため、外側をセメントで2mほど固め管理運営に支障がないように工夫されています。さらに、管理棟を含めた勝連運動場は、学校専用のフリーWi-Fiが設置されています。生徒や先生方が体育活動などでも、surfaceや手持ちのスマートフォンでICT活動ができるような仕組みになっています。

3. 写真で見る勝連運動場



上空より勝連運動場 北側には勝連城址。一の曲輪（くるわ）を見上げることができます。



上空より勝連運動場 左側は 2020 年 3 月 右側は 2025 年 3 月

Google earth より

<https://earth.google.com/web/@26.32532345,127.87992874,17.57726867a,556.21310906d,35.000012y,345.36505102h,0t,0r/data=ChYqEAgBEgo yMDI1LTAzLTewGABCAggBMikKJwolCiExdFNfN1VYWGFzQWVmNVIMLUw1bVNBKQ0aGFaMVp0QmQgAToDCgEwQgIIAEoHCJTLoWAQAQ>



勝連運動場の入口



勝連運動場管理棟



外周の一部「心臓破り」の坂



将来、日よけのパーゴラにはブーゲンビリアを



天然芝グラウンド 遠くには首里城まで眺望



天然芝グラウンド 眼下には太平洋



3×3コート2面 北谷アラハビーチに倣って



本格的な壁打ち専用テニスコート2面



管理棟内部 保健室機能としても使用可能



管理棟内部 多機能トイレも備え付けられています



管理棟内部 更衣室・シャワー室4基（男女各）



管理棟内部 女子トイレ3台



太陽光発電ユニット



学校 Wi-Fi はグラウンド上部まで接続可能



ロボット芝刈り機2台を設置 GPS・AI 搭載



ロボット芝刈り機のドッグ（充電ステーション）



勝連運動場には市道を挟んだ向かい側に駐車場も



勝連運動場の銘板 加藤雄彦理事長先生の御揮毫



紺碧の青空のもと生徒がのびのびと体育活動しています。何よりも生徒の笑顔が素敵です。

4. 謝辞（中締めにて代えて）

以上のように、今号は写真がメインではありますが、勝連運動場の紹介をさせていただきました。加藤雄彦理事長・校長先生、加藤聖一校長先生には、竣工に至るまで様々なご配慮やお気遣いを賜りましたこと心より御礼申し上げます。広大なジャングルのような原野を整地して勝連運動場へ竣工していく過程で、丁寧に地元住民の方々に対して説明会を行い、耳を傾けながら進めていく加藤雄彦理事長・校長先生のお姿に、沖縄に対する深い理解と慈愛を感じ入りました。特に勝連地区については、半島の先にホワイトビーチ地区と言われる米海軍の物流拠点軍港があり、海上自衛隊の基地とも隣接している重要な施設が設置されています。それ故、本地区では軍事拠点以外での大型整地は近年稀になく「本当は地対艦ミサイル基地を作るのではないかと」勘繰られるほど、静かなる声も聞こえて参りました。結果的に、近隣の方々からは「とても見渡しが良くなった」「不法投棄がな

くなった」「治安が良くなった」などなど、心からの賞賛とご理解をもって受け入れられております。事実、勝連運動場が整備された後から、勝連南風原地区の宅地化が進み始めており地価の上昇も副次的に起こっていると伺っています。

お陰様で今年度から、体力を持て余した生徒たちが十二分に体育活動を楽しんでおります。今後は、ILC沖縄の生徒を含め沖縄高等学校3学年揃ってのレクリエーション利用や、仙台育英学園高等学校の体育会運動部の皆さんが来沖した際の合宿利用など、様々な期待が高まっております。ぜひとも有効活用いただければ幸甚でございます。

さて、2025年度3月には、進路の報告をもって沖縄高等学校の真価が問われることになります。後頁では「『学校設定科目で学ぶ』資格取得を見据えて」として、情報科担当から報告があります。沖縄高等学校では報告事例やコンテンツが目白押しになっており、さらに年度をまたいでの研究紀要が予想されます。それ故、こちらで中締めとさせていただきますこと、どうぞご了承いただければと存じます。

I 研究報告

「企業の教育プログラム」を活用した授業実践

社会科コンダクター 小松 敦

1 はじめに

社会科（地理・歴史科、公民科）のBrush Up研修会は初年度から今年で6年目となる。これまで毎年、多くの先生方に様々な授業実践を公開していただいていたが、今回は第2回の研修会で授業公開された、これまでに本研修会では発表されたことがない「企業の教育プログラム」を活用した授業実践を紹介する。

2 概要

（1）授業研究（授業実践）

実施日時：令和6年7月3日（水）13:00～17:00
授業者：水野 善仁 先生（特別進学コース所属）
対象クラス：特別進学コース 2T8（生徒数 40名）
教科書：新詳 地理探究（帝国書院）
単元：第1章 自然環境 4節 地球環境問題

（2）「企業の教育プログラム」の概要

「企業等による教育プログラム」については、文部科学省のHPには以下のような紹介が掲載されている。（一部抜粋）

文部科学省では、多様な民間企業・団体・大学等に「土曜学習応援団（注）」にご賛同（参画）・登録いただき、提供可能な教育プログラムの情報を集約して、それらプログラムを学校や教育委員会等で実施することを推進しています。子供たちの豊かな学びを支えるために、特色・魅力のあるプログラムが多数登録されています。

（注）「土曜学習応援団」となっていますが、プログラムの実施は土曜日に限られません。

- ・教育プログラムを受ける対象：未就学児、小中高学生、特別支援学校生
- ・教育プログラム開催時間：平日の授業や放課後、土曜日、日曜日、祝祭日、夏休みなどの長期休暇など
- ・教育プログラムの内容：理科実験、キャリア教育、環境、ものづくり、礼儀・道徳、プログラミング、スポーツ、社会・地理、食育、金融、文化・伝統、国際理解など

「企業の教育プログラム」は、文部科学省をはじめ、経団連や自治体などがそれぞれポータルサイトを開設しており、様々な教育プログラムを集約し、企業別・内容別・形式別などで検索できるようになっている。

（3）授業内容概要

今回、授業で活用した「企業の教育プログラム」は、「ネスレ サステナビリティ プログラム」で、これを利用した特別進学コース所属の水野善仁先生の授業を、最初に全コースの社会科の先生方に見学していただいた。公開された授業は2-T8の「地理探究」の「第1章 自然環境 4節 地球環境問題」という分野で、現代的な環境問題で身近なテーマを扱った内容であった。今回の授業のポイントは、ネスレ日本株式会社が提供している「ネスレ サステナビリティ プログラム」を利用した探究型の授業ということである。「ネスレ サステナビリティ プログラム」について、ネスレ日本株式会社のHPで以下のように紹介している。

本プログラムは、ネスレの社会課題に対する取り組みを映像を通して紹介する中学生、高校生向けの探究学習教材です。課題発見や解決にむけて物事を捉える視点や考え方を育み、主体的、協働的な学びをサポートします。

プログラムの特長

1. 「課題を見つける」視点が身につく！
プラスチックごみやコーヒー農業の課題に対するネスレの取り組みを知ることが、「課題を見つける」ヒントとなります。
2. 主体的・協働的な学習を实践できる！
プログラムは、自分の考えをグループワークで話し合い、グループの考えとして発表する形式です。
3. 授業を自由に組み立てられる！
構成は映像視聴とグループワーク・発表の2つのパートに分かれています。授業時間のコマ数に応じて自由に組み立てられます。



水野善仁先生は、これを事例として「マイ サステナビリティ プログラム」の作成を目標に、グループ学習を通して他者と共同しながら主体的に取り組む授業を展開した。公開された授業は2時間連続授業の2時間目で、「ネスカフェ 沖縄コーヒープロジェクト」の映像を参考に、身近な問題・取り組み事例についてPCで調べ、それをグループで共有して「マイ サステナビリティ プログラム」を作成する。その後、それをグループごとに発表してクラス全体で共有するというものであった。

生徒たちは「ネスカフェ 沖縄コーヒープロジェクト」の映像を視聴した後、宮城県の産業の問題として、農業（特に稲作）や林業、漁業、伝統工芸（例えば「こけし」）といった事例をあげ、それぞれの従事者数の減少や採算性、将来性などの課題を上げ、それに対する現在行われている取り組みなどをネットなどで調べてまとめていった。その後、各班の代表がその内容を発表し、クラス全体で情報を共有した。



今時の授業内容は、企業の教育プログラムを授業の中で有効に活用できるかどうか大きなポイントになっていると考える。また、環境問題やSDGsという学習テーマとどのように結び付け教育目標を達成していくかという、チャレンジ的な取り組みに興味を持てる授業だったと考える。



個人ワークシート①

ネスレ サステナビリティ プログラム
～はじめよう、探究学習～

1. ネスレの紹介
第1問 ネスレ本社がある国は？ ①アメリカ合衆国 ②フランス ③スイス
第2問 ネスレ製品を販売している国は？ ①88か国 ②158か国 ③188か国

2. プラスチックごみを減らす
ネスレがプラスチック使用量を減らすために取り組んでいることは？
① パッケージを紙製にした ② 紙ストローを紙製にした ③ 商品ラベルをなくした

3. 世界のコーヒー農業を支援しよう
西非諸国への経済を支援するために、ネスレは農家にどのようなサポートをしているか、考えてみよう。

4. 沖縄コーヒーで新たな価値をつくろう
「ネスカフェ 沖縄コーヒー プロジェクト」には、どのような価値・立場の人と一緒に取り組んでいるでしょう。

マイ サステナビリティ アクションのアイデアを

個人ワークシート②

ネスレ サステナビリティ プログラム
～考えよう、マイ サステナビリティ アクション～

課題に対するあなたの解決策を1～3の順に整理して考えてみましょう。

1. 課題：自分の関心のある課題や問題について考えてみよう
ネスレの例：環境のプラスチックごみ問題

2. 課題の背景：なぜその課題が起きているのか考えてみよう
ネスレの例：製品やパッケージのプラスチック使用量を減らさないか

3. 取り組み：具体的に何をどうする（というアクション）のゴールを思い描いてみよう
ネスレの例：ネットカートの包装をプラスチックから紙製に変更する

4. 成功の指標（目標・効果）：何を、誰と、どのように進めていこうと考えてみよう
ネスレの例：「何社」新しいパッケージ素材を（誰と）採用し、（どのように）削減し削減する

得意
難し
どのように

5. プロジェクト名：目標に達成や取り組みの進捗を測ろう
プロジェクト名

6. このプログラムの価値や発見を伝えてください。

＊「ネスカフェ 沖縄コーヒープロジェクト」の概要

○「沖縄コーヒープロジェクト」とは？

2019年4月、沖縄県名護市で開始された「沖縄コーヒープロジェクト」は、ネスレとサッカー元日本代表、高原直泰さんが率いる「沖縄SV（オキナワ エスファウ）」が協業、名護市・琉球大学と連携し、沖縄で初となる大規模な国産コーヒー豆の栽培を目指しています。

沖縄県内の耕作放棄地などを活用し、これまで限定された量にとどまってきた沖縄県産のコーヒー豆の生産量を拡大することで、コーヒー豆やコーヒー製品を新たな特産品とすることにチャレンジしています。

『「沖縄コーヒープロジェクト」』は、沖縄初となる大規模な国産コーヒー豆の栽培を目指すとともに、沖縄県の一次産業が抱える問題解決への貢献につなげていきたいと考えています。

ネスレは、コーヒー生豆のサプライチェーンを継続的に改善することを目的としたプログラム「ネスカフェ プラン」に世界中で取り組んでいます。10年以上にわたって、苗木の配布や技術支援、買い付けなど、コーヒー豆の栽培から製品の製造・流通・消費まで全ての工程に関与し、持続可能なコーヒー栽培の実現をサポートしています。

「沖縄コーヒープロジェクト」もこの取り組みの一環です。ネスレは沖縄でのコーヒー栽培に適したコーヒー苗木の種の提供や、コーヒーを栽培する上で必要となる技術支援などを行い、沖縄SVはコーヒー栽培に関わる農作業に従事。沖縄県の気候・土壌に精通する琉球大学は、農学的見地からコーヒー栽培を行う上で必要となるノウハウ・情報の提供を行い、三者が協力し合ってプロジェクトを進めてきました。そして、2021年夏、わずかながらコーヒー豆の収穫にまでこぎ着けることに成功したのです。

2021年は新たな取り組みとして、沖縄県立北部農林高等学校(名護市)と連携したコーヒー豆の栽培もスタートしました。「沖縄県の農業は、農業就業者の高齢化や後継者不足という課題を抱えています。今回は高校生の皆さんと取り組みをスタートしましたが、このような将来を担う若い人たちにコーヒーの栽培の楽しさや魅力を知ってもらうことは、沖縄の一次産業のために意義のあることだと考えています。」

(「ネスレ日本」のサイトから抜粋)

(4) 授業研究(研究授業検討会)

水野先生の実践授業をもとに、宮城教育大学の吉田剛教授の指導の下、授業研究を行った。以下の内容は、今後、同様の授業を展開するときに大いに参考になると思われるので、可能な限り討議された多くの意見を掲載する。

水野先生自身の振り返りの内容は以下のとおりである。

- ・ネスレの教材を授業に活用したことが大きな試みである。
- ・企業教材を地球環境問題と関連させて授業を展開した。
- ・身近なテーマを調べさせることにより、自分の問題として考察させたかった。
- ・本来なら自分でしなければならないことも生徒に取り組みさせてしまった。
- ・短時間で取り組んだので、準備が不十分だった。
- ・もう少し踏み込んだ話し合いにすべきだった。
- ・発表時間も短く、質問のタイミングなどをもっと工夫すべきだった。

これに対して参観した先生方の意見や感想は以下のとおりである。

- ・学習指導案に関して、目標と評価の関係において、その整合性が明確になっていないのではないか。
- ・グループ学習のために4人を一組に10組の班編成を行っていたが、10組を机間巡視しながら指導するには班数が多すぎる。指導しきれないのではないか。適正な班編成をする必要がある。
- ・授業構成について、動画を先に見せた方が良かったのではないか。アクションプランまで通して一連の流れを作った方が良かった。
- ・アクションプランに関して、具体例を挙げた方が良かった。テーマの選び方について幅が広すぎて具体の適切な事例を選定するのが難しかったのではないか。
- ・アクションプランの作成の後、具体例を発表させてクラス全体で共有した方が良かった。
- ・ワークショップが慣れていない生徒が多かったようなので、教師の細かな働きかけが必要であった。
- ・ネスレの動画の内容は沖縄の事例であったが、アクションプランは宮城県内の内容であった。もう少し、沖縄の内容を深めた方が良かった。
- ・SDGsとコーヒー栽培の関係が分かりにくかった。もう少し動画の見せ方を工夫した方が良い。
- ・様々な角度の視点で問題を捉えるようにした方が良い。

- ・各グループのテーマを見ると「公民」的な内容だった。地理の学習なのでテーマ設定に指導が必要ではなかったか。
- ・企業の教材を利用したが、授業の中では企業との連携が意識されていない。
- ・アクションプランに関して、しっかりと方向付けをして取り組ませれば、1時間で完結できた。
- ・生徒からの意見をもっと出させることが可能だったと考える。
- ・沖縄と宮城県の関係が全くなかったのが残念である。
- ・指導案に関して、誰に何をどのように教えるかをもう少し明確にした方が良い。

これ以外にも多くの質問が出され、活発な質疑応答がなされた。その内容については割愛する。外部講師の吉田剛先生から、以下のような指導・助言があった。

- ・地球環境問題をテーマとした系統地理的考察を目的とした授業だったが、自分だったらもっと身近な自然環境問題を扱った。例えば、自然破壊をテーマにすれば、森林伐採やソーラーパネルの設置問題、仙台駅周辺に見られる水害といった都市公害など、「宮城県」というよりは「題材」を設定して、大きなテーマから小さなテーマに絞っていく方法がある。
- ・グループ活動においては、4～5人の班を作って、それぞれに役割分担を与えた方が良い。
- ・沖縄のコーヒー園の動画は良かったと思う。総合的探究向きだった。

今後、授業内容を組み立てるにあたり、新カリキュラムでは「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱が育成すべき資質と能力と定義されて、さらに「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点が重視されている。こうした学習を進める上でも、企業の教育プログラムの活用も選択肢の一つとして考慮できる可能性を見出せるのではないかと考える。

以上、本年度の社会科Brush Up研修会の中で実施された「企業の教育プログラムを活用した授業実践」を紹介した。

【参照】

「ネスカフェ 沖縄コーヒープロジェクト」の内容

<動画サイト>

<https://www.youtube.com/watch?v=qJAH5YXdg10>

<関連サイト>

<https://www.nestle.co.jp/stories/okinawa-coffee>

<https://www.nestle.co.jp/csv/japan/communities/okinawa-coffee>



It all starts with a
NESCAFÉ

2022 年 5 月 24 日
沖縄 SV 株式会社
ネスレ日本株式会社

2022 年冬からの初収穫に向けて順調に生育中 国産コーヒーの大規模栽培に挑む「沖縄コーヒープロジェクト」 新たにうるま市と連携し、取り組みを加速

～栽培地をさらに拡大し、将来的には「ネスカフェ」ブランドでの製品化も視野に～

沖縄 SV 株式会社(本社:沖縄県豊見城市、代表取締役:高原 直泰、以下「沖縄 SV」と)とネスレ日本株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役 社長 兼 CEO:深谷 龍彦、以下「ネスレ日本」)は、発足から 4 年目を迎えた「沖縄コーヒープロジェクト」(※参考資料)について、さらなる取り組み加速のために、新たに沖縄県うるま市(市長:中村 正人)と連携を行います。



苗木の農地への移植の様子(2022 年 3 月撮影)



コーヒーの花が咲いた様子(2022 年 5 月撮影)



沖縄県産のコーヒー(イメージ)

現在、日本の一次産業(農業・漁業など)は就業者の高齢化や後継者不足、農業においては耕作放棄地など、様々な問題を抱えています。沖縄 SV とネスレ日本は、沖縄県の一次産業が抱える問題解決の一助となるよう、大規模な国産コーヒー豆の栽培を目指す「沖縄コーヒープロジェクト」を、2019 年 4 月より開始しました。これまで限定された量にとどまってきた沖縄県産のコーヒー豆の生産量を拡大することで、沖縄県産のコーヒー豆やコーヒー製品を新たな特産品とすることを目指しています。名護市の農地でコーヒーの苗木を移植、栽培を開始して以降、この 3 年の間に、地元住民や農家の皆様との連携も広げ、現在では沖縄本島および離島(石垣島、宮古島)の農地、沖縄県立北部農林高等学校の合計 11 カ所で、2022 年 4 月末時点で累計約 6,500 本のコーヒー苗木の植樹を終え、2022 年冬からの初収穫(※1)に向けて順調に生育中です。(※1)2022 年冬から 2023 年春にかけて、ある程度まとまった量のコーヒーチェリーの収穫を予定しています。

■うるま市に新農場を開設するとともに、“コーヒーを活用した地域活性化”を協働で推進

このたび「沖縄コーヒープロジェクト」では、さらなる取り組みの加速のために、名護市に続く第二の自治体として、うるま市との連携を開始します。沖縄本島中部に位置し、県内第三の人口規模をもつうるま市は、沖縄 SV のホームタウンのうちの一つです。コーヒー栽培地の拡大とともに、コーヒー栽培だけにとどまらない新たな取り組みを模索していた沖縄 SV・ネスレ日本と、地域が抱える課題解決を行いたいうるま市との想いが一致し、連携に至りました。

取り組み概要:

- ・ **耕作放棄地を活用した新農場 (2022 年 7 月整備開始予定)**
うるま市内の耕作放棄地を活用した新農場“(仮称)TsumugU Farm supported by NESCAFÉ”を開設します。コーヒーをはじめとした農作物を栽培する農作業には、沖縄 SV の選手・関係者のほか、福祉事業者のスタッフも従事します。
- ・ **市民の憩いの場となるユニバーサルカフェ (2023 年 3 月オープン予定)**
新農場をはじめとした地元で栽培された農産物を提供するカフェ“TsumugU Café supported by NESCAFÉ”をオープン予定です。福祉事業者のスタッフが従事するほか、オールバリアフリーで誰でも楽しめる仕様で、誰もが、働き、楽しみ、憩えるユニバーサルカフェを目指します。



ユニバーサルカフェ(イメージ)

そのほか、将来的には子育てに関連したサービスや、“(仮称)TsumugU Farm supported by NESCAFÉ”でのコーヒー栽培・収穫体験ツアーなど、様々な取り組みを計画中で、“コーヒーを活用した地域活性化”を行っていきます。

■今後の展望

今後も播種(はしゅ)(※2)と苗木の移植を継続して行っていくとともに、プロジェクトへの参画者や県内のコーヒーの栽培地をさらに拡大していく予定で、将来的には「ネスカフェ」ブランドでの製品化も視野にいれています。(※2)種まきのこと。

コーヒー生豆のサプライチェーンを継続的に改善することを目的とした、ネスレが世界各地で取り組むプログラム「ネスカフェ プラン」(※参考資料)での知見を活かし、ネスレ日本は、沖縄でのコーヒー栽培に適したコーヒー苗木の種の提供や、コーヒーを栽培する上で必要となる技術支援などを行い、沖縄 SV や地元農家によるコーヒー栽培のサポートを行っています。

Good Food, Good Life カンパニーであるネスレは、食の持つ力で、現在そしてこれからの世代のすべての人々の生活の質を高めてまいります。

貢献する「SDGs:Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」項目:

目標 8
働きがいも経済成長も



目標 12
つくる責任つかう責任



■栽培状況などのイメージ一覧



結実の様子
(2021 年 11 月撮影)



琉球大学ハウス内、移植前の苗木の様子
(2022 年 5 月撮影)



耕作放棄ハウス(うるま市)の様子
(2022 年 5 月撮影)



プロジェクト発足時の農場(名護市)の様子
(2019 年 4 月撮影)



防風林を植えた現在の農場(名護市)の全景
(2022 年 5 月撮影)



現在の農場(名護市)の様子
(2022 年 5 月撮影)



開墾前の農場(大宜味村)の様子
(2021 年 2 月撮影)



現在の農場(大宜味村)の様子
(2022 年 5 月撮影)



コーヒーの苗木の提供を行っている
中山コーヒー農園(名護市)の様子
(2022 年 5 月撮影)



沖縄県立北部農林高等学校の皆様
(2022 年 5 月撮影)



沖縄県立北部農林高等学校での作業の様子
(2022 年 5 月撮影)



農園に立つ高橋氏
(2022 年 1 月撮影)

以上

出典： https://www.nestle.co.jp/sites/g/files/pydnoa331/files/2022-05/20220524_nescafe.pdf

令和6年度国語科BrushUp研修会報告

国語科コンダクター 須藤 尚

令和6年度国語科Brush Up研修会は計5回実施された。職員研修においては教育顧問の田本正子先生と宮城教育大学の児玉忠先生からご指導をいただき、新鮮な気づきや知見をいただくことができ、学習指導の改善に役立てることができた。

また、各コースの教員による研究授業の実践は、それぞれのコースの特色に応じた、工夫の凝らされたものであり、参加者にとって、指導の在り方を再確認する貴重な機会となった。

1 国語科BrushUp研修会の概要について

第1回 令和6年5月24日（金）

研究授業	授業者	英進進学コース 渡邊 明 教諭
	対象クラス	1年A1組教室（対象生徒数38名）
	授業内容	現代の国語「届く言葉」（東京書籍「精選 現代の国語」）
講話	講師	教育顧問・河合塾講師 田本 正子 先生
	テーマ	「大学入学共通テストの分析、傾向と対策」

第2回 令和6年9月11日（水）

研究授業	授業者	特別進学コース 板垣 みなみ 教諭
	対象クラス	2年T4組教室（対象生徒数39名）
	授業内容	論理国語「分人とは何か」（東京書籍「精選論理国語」）
講話	講師	宮城教育大学 教授 児玉 忠 先生
	テーマ	「観点別評価を生かした授業改善～『思考・判断・表現』編」

第3回 令和6年10月30日（水）

研究授業	授業者	フレックスコース 島倉 尚子 教諭
	対象生徒	受験小論文講座選択者（31名）
	授業内容	受験小論文講座

第4回 令和6年11月13日（水）

研究授業	授業者	秀光中学校 蓬田 香織 教諭
	対象クラス	秀光中学校3年S1組教室（対象生徒数21名）
	授業内容	国語 鲁迅「故郷」（東京書籍「新しい国語3」）
講話	講師	宮城教育大学 教授 児玉 忠 先生
	テーマ	「観点別評価を生かした授業改善～『主体的に学習に取り組む態度』編」

第5回 令和6年12月11日（水）

研究授業	授業者	特別進学コース 近藤 希美 教諭
	対象クラス	2年T6組教室（対象生徒数40名）
	授業内容	論理国語 高階秀爾「日本人の美意識」（東京書籍「精選論理国語」）
講話	講師	教育顧問・河合塾講師 田本 正子 先生
	テーマ	「図表分析型小論文・共通テスト試作問題『国語』の対策」

2 国語科BrushUp研修会における研究授業について

第1回 授業者 英進進学コース 渡邊 明 教諭

内田樹の「届く言葉」をテキストに、第二段落後半を対比表現に着目して理解を深めていく授業実践であった。本年度の国語科の目標でもある、ICTやグループワークの効果的活用を意識し、「メタモジ」を使いながらのグループワークは、入学後二か月足らずの一年生ながら、生き生きと互いの考えを尊重しながら読解を進めていく丁寧で堅実な学びのプロセスがあった。また、やや難解な文章の読解に生徒が苦戦する場面もあったが、臨機応変にヒントを与えたり、グループごとに助言したりするなど、教師の円転滑脱な指導が効果的だった。

引き続き行われた授業検討会においては、授業担当者による自評として、抽象的な表現やや難解な言い回しを正確な理解に導くことの困難について言及があった。生徒のICTの習熟具合はまずまずの水準にあること、本格的なグループワークは今回が初めてであること等説明された。参加者による質疑応答・意見交換においては、グループワークをする上でのグルーピングの方法が話題となり、「性別」のみならず「スタディサポート学力到達度」なども加味して編成していることが紹介され、その緻密さによって、難解な表現の解釈も何とかできていることを実感した。最後に、田本先生からの指導助言では、今回が初めてとは思えないほどグループワークが積極的かつ生産的に行われていること、さらに、「小学生でもわかるように説明を」等、適宜生徒がイメージしやすいような誘導を行っての配慮への賛辞があった。

第2回 授業者 特別進学コース 板垣 みなみ 教諭

平野啓一郎の「分人とは何か」をテキストに、円グラフを用いて「自分の『分人』の在り方」を検討し、その内容をペアで紹介しあい、さらには「分人」の定義づけをグループワークを通しておこなう、という内容であった。特に「自分の『分人』の在り方」に係るディスカッションは大いに盛り上がり、「分人」という概念の理解を楽しんでいる様子が認められた。また、ペアを入れ替えて二度ディスカッションを行うことで、より深い省察につながっていた。さらに、「分人」の定義づけは、短時間でのやや難度の高い課題だったが、どのグループも一定の理解に到達できていた。短い時間で区切って課題を提示し、そのプロセスから能動的な学びにつなげるスタイルで、生徒は、いい緊張感を持続したまま学習に臨んでいた。

引き続き行われた授業検討会においては、担当者による自評として、評論を読解したり自分の考えをまとめることに苦手意識を持っている生徒が多い中、抽象的でやや難解な概念理解に向けて、グループワークや個人の経験や感情に根差したワーク等を効果的に取り入れたことが奏功した、とあった。参加者からは、「円グラフ」のアイディアや成功規準等について、音読の効果について、漢字習熟の方法等について質問があった。また、授業に寄せてのコメントとして、「『論理国語』の授業を考え直すきっかけをもらった」「指導案の書き方に改善点があるのでは」「『論理国語』の授業における、『読む』以外の学習、ICT活用等参考になった」等寄せられた。宮城教育大学の児玉先生から、まさに「令和の国語」の実践が企図されているという評価があり、さらに「ややタイトな印象、本時の学習内容を二時間かけて行うくらいがちょうどよかった」「授業展開のつながり方が微妙で、『分人』の定義づけを最後に持ってきた意図がはっきりしない、授業の組み立てをより検討したい」といった助言があった。

第3回 授業者 フレックスコース 島倉 尚子 教諭

富山県立大学・看護学部・看護学科（全国の小・中・高校生の読書に関するデータから、読み取れる内容をもとに、自分の考えを述べるもの）、奈良教育大学・教育学部・学校教育教員養成課程・社会科教育専修（後期）（『投票に行きたくなる国会の話』の抜粋部分を読んで筆者の意見について自分の考えを述べるもの）、大阪教育大学・教育学部・用語教諭養成課程（前期）（運動習慣の有無等に関するデータから、読み取れた内容をもとに自分の考えを述べるもの）の過去問題を前時に実際に書いていたうえで、本時については、それらの課題についての攻略法について一斉講義スタイルで指導するというものであった。難易度的に言えばそう難しいものではないものの、いずれも、文章やグラフの読み取りという関門があり、その正確な認識のもと自分の考えをまとめていくというもので、「認識」と「表現」という二つのステップで、文章やグラフの「確実な理解」を求める部分の指導が中心となった。小論文の一斉講義形式の解説型授業というものには限界もあるが、実際に前時に取り組んだ課題に係る指導であり、また、実際の試験も近づいて来ている段階での授業とあって、一定の緊張感の持続した実践形式の授業として成立していた。

第4回 授業者 秀光中学校 蓬田 香織 教諭

「故郷」を読解したうえで、「故郷」を映画作品と想定して、その予告動画（トレーラー）をグループ単位で作成していく起点として、実際のトレーラーを複数視聴したうえで、それらの動画における工夫について分析し、「故郷」の予告動画を制作するうえで工夫すべきポイントについて考察するのが本時の内容だった。ICTを効果的に活用しながらグループワークを展開していき、活発にグループとしての分析を行っていた。生徒は、中学三年間の着実な積み重ねを感じさせるような、学習スキルと学習姿勢を発揮していた。また、教師は、グループワークの中で適切に助言をしたり様子を細かに観察したり、効果的な関わり方をしていた。

引き続き行われた授業検討会においては、授業担当者自評において、生徒がいつになく緊張していたこと、視聴させた予告動画をあえて三本に絞ったこと等が話された。質疑としては、単元の構成、紹介動画の選択の意図、予告動画分析の際の4観点の意図等について寄せられた。児玉先生からの助言としては、小説を読解して、その小説の映画作品があることを前提に予告動画を作成するという学習プロセスにおいて、「小説の読み手」（作品の読解）「予告動画の受け手」（効果の分析）「予告動画の作り手」（動画の作成）等、様々な立場に立ちながら視点を移動していくことになる学習であり、その学習プロセスを俯瞰させ、その時その時に必要な思考を主体的かつ効果的に引き出していけるように促す重要性について指摘があった。

第5回 授業者 特別進学コース 近藤 希美 教諭

授業内容 論理国語 高階秀爾「日本人の美意識」(東京書籍「精選論理国語」)

ワークシートを用いて評論の丁寧な読み取りをしていく授業であった。ワークシートは、「予習用ワークシート」「授業用ワークシート」「要約ワークシート」と三種類を用意し、生徒の「予習⇒授業⇒要約(まとめ)」のサイクルを主体的に展開させていくのに効果的なツールとなっていた。本時においては、3-4人単位のグループワークをベースに、タイマーで制限時間を示しながら、次々とタスクを指示し、読解を進めていった。生徒は真摯に課題に取り組み、教員による丁寧な机間巡視指導もあり、スムーズな授業展開ができていた。

引き続き行われた授業検討会においては、授業担当者による自評では、「詰め込みすぎ」に対する反省の弁もあったが、記述力を伸ばすために生徒が論述する場面に固執しているというコメントがあった。質疑応答において、担当教員から「意味段落ごとに100字要約を課し、教員が添削し評価するということを続けている」とあり、その献身的な作業量に感嘆の声が上がった。参観者からは「ワークシートに取り組む生徒の姿勢がいい」「一人一人の生徒に力があるということを前提にした授業設計」等の感想が寄せられ、また、「教員対生徒だけでなく、生徒同士で見合う場面があればなお学びが活性化する」という助言もあった。田本先生からは、プロジェクター利用の巧みさ、グルーピングの工夫、多彩なワークシート活用の効果について指摘があった他、要約を授業に取り入れる上でのポイントについて助言があった。

3 国語科BrushUp研修会における講話について

第1回 講師 教育顧問・河合塾講師 田本 正子 先生

テーマ 「大学入学共通テストの分析、傾向と対策」

田本正子先生に大学共通テストの分析と対策をテーマとする講話をいただいた。昨年度実施された問題について具体的に触れながらの分析で、大変わかりやすい内容だった。また、次回から新課程の問題に移行することによってその変更点についての説明があった。従来の「現代文・評論」「現代文・小説」「古文」「漢文」の大問四問構成に「図・グラフを含む実用的な文章」の問題が新たに加わり、時間も10分延長されること等、試作問題の分析とともに詳細な説明があった。これまで以上にタイムマネジメント能力が必要とされるという指摘があった。

第2回 講師 宮城教育大学 教授 児玉 忠 先生

テーマ 「観点別評価を生かした授業改善～『思考・判断・表現』編」

今年度児玉先生には今回と第4回の二度講話をお願いしたが、そのテーマを「観点別評価を生かした授業改善」(「思考・判断・表現」編と「主体的に学習に取り組む態度」編)と設定し、具体的な教材に即した、実効性のあるお話を要望した。学習指導要領の理解から始まり、今回の研究授業の教材だった「分人とは何か」を素材に「思考・判断・表現」の学習＝評価要素となる「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成・共有」の三つのうち、なかなかカバーするのが難しい「考えの形成・共有」の評価につながるような授業実践例をいろいろと紹介していただいた。非常に収穫の多い講話をいただくことができた。

第4回 講師 宮城教育大学 教授 児玉 忠 先生

テーマ 「観点別評価を生かした授業改善～「主体的に学習に取り組む態度」編」

第2回からのシリーズとして「観点別評価を生かした授業改善」の「主体的に学習に取り組む態度編」についてお話いただいた。情意面の学力に対する評価であり、数値化して明確なエビデンスをもって評価することの難しさはあるものの、日々の学習における取組の蓄積をできるだけ丁寧に評価すればいい、という助言をいただいた。また、当日の研究授業の教材である「故郷」を例に、具体的に「主体的な学習に取り組む態度」という観点で効果的に評価を行う実践例の紹介もあり、具体的なイメージを共有することができた。

第5回 講師 教育顧問・河合塾講師 田本 正子 先生

テーマ 「図表分析型小論文・共通テスト試作問題『国語』の対策」

当初「小論文指導と面接」というテーマで講話をいただく予定であったが、焦点を絞って「図表分析型小論文・共通テスト試作問題『国語』の対策」というテーマで講話をいただくことになった。図表分析型問題が目目されている社会的背景から始まり、出題傾向、図表の種類とそれぞれの読み取り方の作法について、基礎的なところから応用編まで詳細なお話であった。教科・情報の学習内容に対してそう明るくない国語科教員にとっては、非常にありがたい内容であった。後半では、実際の大学入試問題や大学入学共通テスト試作問題に対して、実際に参加者が解答してみるなどして、対策のポイントを実感できる内容となった。

クリエイティブな教材研究 ～ AIの活用とその創造性～

特別進学コース 安部 宏紀

1. はじめに

近年、人工知能（AI）の急速な進展により、教育現場においてもその活用が注目されるようになってきた。私自身、7年前に参加した私学英语研究会にて、東北大学の岡田 毅 名誉教授と直接お話しさせていただく機会があり、その際に「人工知能は今後5年以内に完成形に近づくだろう」との見解を伺った。

まさにその予測どおり、数年後には対話型AI「ChatGPT」が登場し、社会に大きな衝撃を与えることとなった。教育分野でも生成AIの活用は、学習支援システムの整備、個別指導の効率化、学習データの分析など、多岐にわたる可能性が期待されている。しかしながら、現時点では「〇〇で活用できる」といった表面的な言及にとどまり、実際の授業における具体的な実践事例はまだまだ限られているのが実情である。

本報告では、①ChatGPT、②NapkinAI、③ElevenLabsの3つのAIツールを活用し、どのように実際の授業の中で取り入れ、生徒の学習活動にどう変化をもたらしたのかについて、実践事例として報告するものである。単なる技術導入にとどまらず、指導者としての視点から生成AIをどのように教育に組み込んでいけるかを検討する一助としたい。

活用した生成AIについて

- ① Chat GPT → Text to Text or Image = 叩き台（原案）の作成、アイディアの編集
- ② Napkin AI → Text to Text / Image = テキストをもとに図解を自動で生成、編集も可能
- ③ ElevenLabs → 本来ない音声、テキストを読ませることで音声を作成

2. 実施報告

2-1 教材作成での取り組み

「AIを用いることで、学習者の興味や理解度に応じた適応型学習システムを実現し、より個別化された学習支援が可能となる。」と生徒一個人での使用を促すシステムはあるが、クラス全体に対して、各教員がそのシステムを構築することはほぼ不可能である。従って、今回の生成AIの活用に関しては、すでにシステムが構築されている生成AIを活用し、生徒が教材を通じて、読解能力が向上できるように授業プリントと課題の作成をする。

2-2 AIを使用した教材の作成

2-2-1 本文の要約

(1) Chat GPTを用い、「本文の概要」並びに、「言い換え」を作成



① 役割を指定

→ “優秀な英語の教員”等の役割を与えることで、必要な情報を作成できる。

② 条件の明確化

→ 「CEFR A2レベルの英単語」, 「箇条書きで」, 「入力文の表現をそのまま使わない」 「プレゼンテーションの資料やメモ書きのようにまとめる」, 「Section 1とSection 2に分けて」, 「それぞれの項目をスライド3枚程度で作成」の条件を設定し、問題を作成する。

③ 引用元の文章を挿入する

以下、Chat GPTが作成した内容

Section 1: The Internet Is Damaging Our Memory

Slide 1: A Long History of Worry

New tools that give us more (1) _____ often cause fear.

In the 1400s, monks were afraid they would not (2) _____ books anymore.

People are now worried the internet is bad for our (3) _____.

Words: copy, memory, information

Slide 2: Our BrAIn Needs Focus

The brAIn works like a (4) _____ — it needs exercise.

But we check our emails too (5) _____, and we lose focus.

Students in class often use phones for (6) _____, not study.

Words: game, often, muscle

Slide 3: Too Much Data, Too Easy to Forget

Our brAIns want new data, but (7) _____ much is not good.

We don't try to remember facts. We just use a (8) _____ engine.

Attention spans are now (9) _____ than before.

Words: less, too, search

Section 2: Just Changing What We Remember

Slide 1: Memory Is Changing, Not Getting Worse

People remember where to find facts, not the (10) _____ itself.

When facts are saved on a computer, we don't try to (11) _____ them.

Our memory is not weak. It is just (12) _____.

Words: changing, fact, remember

Slide 2: A New Way to Learn

The internet is like an outside (13) _____ for our brAIn.

Before, we used books and people to help us (14) _____.

Now, we focus more on (15) _____ thinking than facts.

Words: store, hard drive, deep

Slide 3: Using the Mind in a Better Way

Some studies show the web helps the brAIn work even (16) _____.

We can use our minds for more (17) _____ things.

The internet is not bad. It helps us (18) _____ smarter.

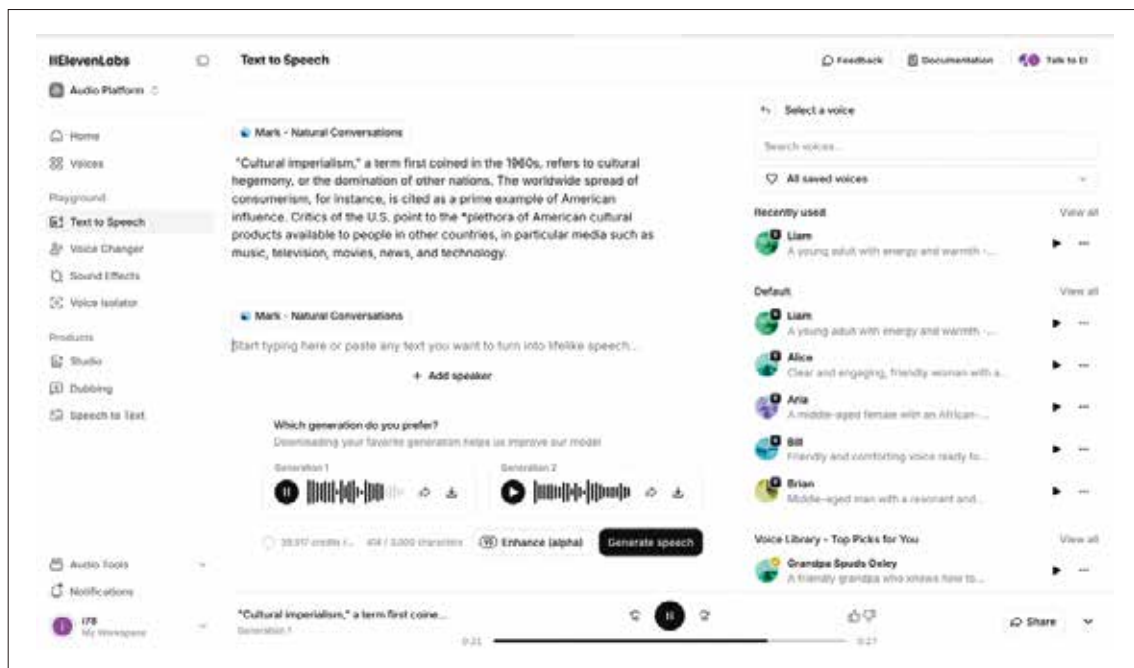
Words: better, important, think

2-2-2 作問内容（テキスト）の確認とAI活用の工夫

AI(Chat GPT)を活用して問題を作成する際には、本文と設問との整合性に十分留意する必要がある。特に、「本文中からそのまま抜き出すだけの問題」になっていないか、設問が単なるフレーズの写しではないかを丁寧に確認することが重要である。また、AIによって出力される選択肢の中には、「最も適しているもの」と「それなりに適切に見えるもの」が混在する傾向がある。これは共通テスト型の問題形式において、精度の高い設問作成に影響を及ぼすため、特に注意が必要である。題材を伴う読解問題では、本文の主旨との整合性がより求められる。したがって、AIに任せきりにするのではなく、指導者側が狙いを明確に設定し、設問が意図通りの思考を引き出すかを吟味することが欠かせない。加えて、生徒の読解スピードを意識した指導も並行して行っている。私自身の授業では、生徒が1分間に150語を読むこと(WPM=150)を目標としている。これは、大学入学共通テストの英文を時間内に余裕を持って読み解くための基準である。そのための予習段階として、本文内容をCEFRでB2レベルからA2程度に簡略化したライト文を読ませ、事前に内容を把握させる工夫を行っている。これにより、生徒は本来の本文に対して心理的な抵抗を減らすことができると考える。

2-3 音声の作成

AIを活用した教育実践の一環として、音声教材の作成に取り組んでいる。特に、リスニング力の向上を目的とした練習問題において、AIの生成機能を活用することで、柔軟かつ効率的な教材開発が可能となった。まず、AIによる音声問題の作成においては、選択肢の数を3つから4つに変更するなど、問題形式にバリエーションを持たせることができる。これにより、生徒の思考を促す難易度調整や、設問の精度向上が期待できる。また、AIを用いれば既存の指示文を容易に変更することが可能であり、同じスクリプトに対して複数の問いを作成することができる。例えば、「正しい内容を選びなさい」から「間違っているものを選びなさい」などのように、出題意図を柔軟に切り替えることができる点も有用である。さらに、生徒が問題番号と正答を単に丸暗記することを防ぐため、AIで選択肢や話者の設定（性別・話し方など）を変えた類題を複数生成し、ランダムに提示する工夫を行っている。このようにして「出題の型」を定着させながらも、表面的な記憶に依存させない力を養っている。加えて、音声生成AIを使うことで、短時間で複数のバリエーションを作成でき、効率的に繰り返し学習が可能となる。生徒の学習履歴に応じて、似た問題を段階的に出題することで、定着度を高める効果も見られている。



上記の図はElevenlabs（音声合成プラットフォーム）で音声を生成2-4 図解の作成

2-4-1 概要の作成

Chat GPTを使用し、本文の要約を作成する、以下、プロンプトである。

あなたは優秀な英語の教員です。以下の物語文に出てくる登場人物の性格、心の動き、展開のポイントを英語の箇条書きでまとめて下さい。また、以下の条件と入力文をもとに、優れた出力をしてください。

#条件：

CEFR A2レベルの単語で簡潔な文章

重要なキーワードを含める

登場人物の性格、心の動き、展開のポイントを含める

#入力文：

5 A few days later, Lolo found his mother acting very strangely. She was laughing one moment, crying the next. She told Lolo to go and help his aunt Anita look after her children. But as Lolo stood up and called Moufflon, his mother said sharply, "Leave the dog! Anita does not like dogs." He and Moufflon had always been together, but when Lolo thought, "Poor Mother has been so worried about Tasso," he left for Aunt Anita's without his best friend.

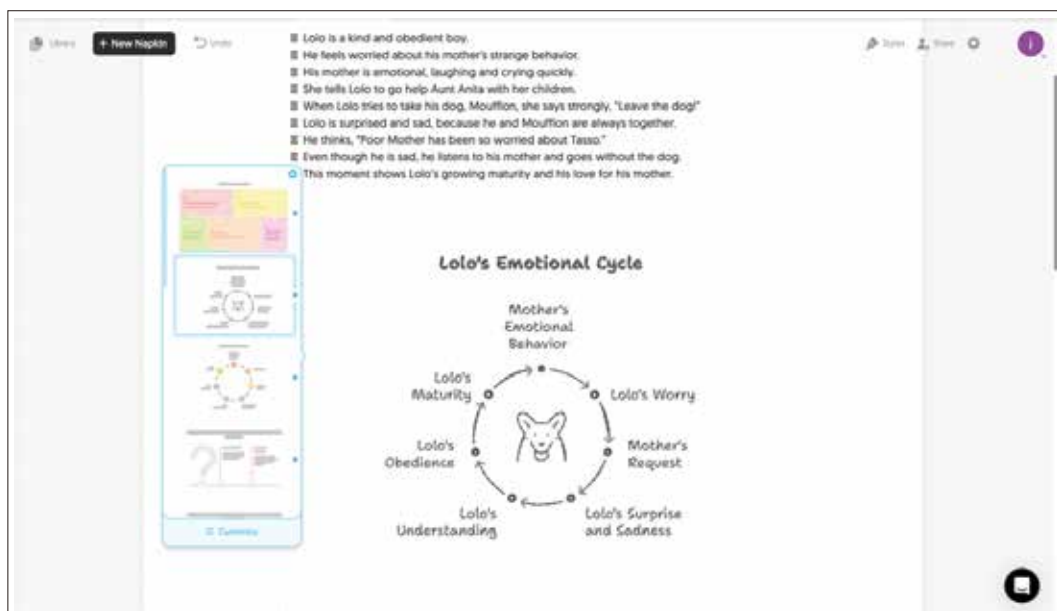
#出力文：

以下、生成された要約である。

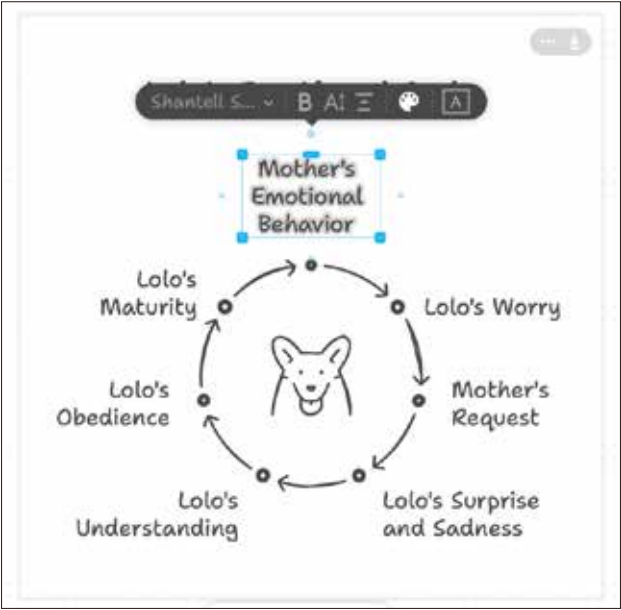
- Lolo is a kind and obedient boy.
- He feels **worried** about his mother's strange behavior.
- His mother is **emotional**, laughing and crying quickly.
- She tells Lolo to go help **Aunt Anita** with her children.
- When Lolo tries to take his dog, **Moufflon**, she says strongly, "Leave the dog!"
- Lolo is **surprised and sad**, because he and Moufflon are always together.
- He thinks, "**Poor Mother** has been so worried about **Tasso**."
- Even though he is sad, he **listens** to his mother and goes without the dog.
- This moment shows Lolo's **growing maturity** and his **love for his mother**.

2-4-2 図解の作成

NapkinAIを使用し、上記の要約をもとに表の作成



使用したいイメージを選択し、表を作成する。



画像に関しては、ダウンロード可能で、テキストは編集可能。生徒が持つCEFR以上の単語が多い場合は言い換えを行う。空欄補充型にする場合には、一度保存しPowerPoint等で編集を行うことでさらに編集可能。

3 システムの効率化

3-1 自動フィードバックと評価

生成AIは、学習者の解答や作文を分析し、自動でフィードバックを提供する。これにより、教員の負担を軽減しながら、迅速で客観的な評価が可能となる。ただし、朱筆が多いと生徒のやる気を削ぐ可能性が高痛め、Chat GPTへのプロンプト（指示文）には注意が必要である。

あなたは、プロの英語講師です。以下の制約条件と入力文をもとに、和文英訳を採点してください。

- #制約条件：
- ・ 100点満点で採点してください。
 - ・ 減点箇所と減点点数は明確に示してください。
 - ・ 添削した文章を英語で出力してください。
 - ・ 添削箇所と添削理由は日本語で出力してください。

入力文（以下書き換え欄）
問題文：
100語程度の英語で自分の考えを書きなさい。
Which do you think is more important for success, good luck or hard work?

【実際の Chat GPT の評価】

総合点: 55点 / 100点

- 減点内容の詳細：
1. 文法的誤り (-25点)
- ・ "First." → 文が不完全（断片的）。副詞句だけでは論理展開にならない。
 - ・ "which good luck is necessary" → 不自然な関係代名詞の使い方。名詞にかかるように修正が必要。
 - ・ "These factors are not composed in only hard work" → 文法が不自然。「～によって構成されている」は "are not determined by" などが適切。
 - ・ "can use various things without hardly working on" → "can use" の主語が不明確かつ、"without hardly" は二重否定に近く不自然。
 - ・ "the most advantage" → "advantage" は可算名詞だが、"most advantage" の場合は "the biggest advantage" などが自然。
 - ・ "It is not necessary that we get special skill." → "a special skill" など冠詞が必要。また "get" より "acquire" や "have" が自然。
 - ・ "absolutely connect with my hope result" → "connect" の主語が曖昧で意味不明。"my hope result" も不自然な名詞句。
- 減点：25点
2. 語彙の不自然さ・不適切な単語の選択 (-10点)
- ・ "use various things" "hope result" など、自然な英語では使われない表現が多い。
 - ・ 例えば "hope result" は "the result I hope for" や "desired outcome" などにする必要あり。
- 減点：10点
3. 論理構成と一貫性の弱さ (-10点)
- ・ 各段落の繋がりや、例の説明が浅く、論理の一貫性に欠けています。
 - ・ 主張を支える具体的な理由が曖昧。
- 減点：10点

回答文：

I think good luck is more important for success. First. There are too many things which good luck is necessary. For example, examination, health, native country... These factors are not composed in only hard work and won't change it. Second. Good luck can use various things without hardly working on. I think this is the most advantage. It is not necessary that we get special skill. Third. Good luck absolutely connect with my hope result. but hard work is not it. If you keep doing effort how to wrong, you only waste times. In conclusion, It is important for us to depend on good luck when hard work will not use.

添削後の英語文：

Revised Version:

I believe good luck is more important for success. First, many factors in life depend on luck, such as exams, health, and the country you are born in. These things cannot be controlled by hard work alone. Second, luck sometimes allows people to achieve success without much effort. This is a big advantage because it means we may not need special skills or training. Third, good luck is often directly related to achieving the outcome we desire, while hard work does not always guarantee success. If you make an effort in the wrong way, you might just waste your time. In conclusion, while hard work is valuable, depending on good luck is sometimes necessary when effort alone is not enough.

添削箇所とその理由（日本語）：

1. "First. There are too many things which good luck is necessary."
 - 添削後: "First, many factors in life depend on luck..."
 - 理由: "First." だけでは文にならない。さらに "which good luck is necessary" は文法的に不自然。
2. "These factors are not composed in only hard work and won't change it."
 - 添削後: "These things cannot be controlled by hard work alone."
 - 理由: "composed in" は意味不明。"controlled by" がより自然。
3. "Good luck can use various things without hardly working on."
 - 添削後: "Luck sometimes allows people to achieve success without much effort."
 - 理由: "can use various things" の意味が曖昧で不自然。
4. "This is the most advantage."
 - 添削後: "This is a big advantage."
 - 理由: "most advantage" は不自然。"a big advantage" が自然な言い回し。
5. "It is not necessary that we get special skill."
 - 添削後: "we may not need special skills or training."
 - 理由: "get special skill" は不自然。"acquire" や "need" を使う方が適切。
6. "Good luck absolutely connect with my hope result."
 - 添削後: "good luck is often directly related to achieving the outcome we desire"
 - 理由: "connect with my hope result" は意味不明。自然な言い回しに修正。
7. "If you keep doing effort how to wrong"
 - 添削後: "If you make an effort in the wrong way"
 - 理由: "doing effort" は誤りで "make an effort" が正しい。文構造も修正。
8. "when hard work will not use." 

文法の表現は訂正をしてくれるものの、訂正理由の曖昧さとフィードバックを返すのが複雑化してしまうため、プロンプトに「問題文」「表でまとめる」こと「コロケーション」について追加する。

あなたは優秀な英語教員です。以下の条件を元に、入力文のコロケーションとパラグラフの構成が適切か判断してください。

#条件：

Subscribe or Buy の解答であるか

CEFR B1 レベルの英単語

80から100語以内

理由が2つ入っているか

理由の後ろに支持文や具体例を入れているか

同じ表現を繰り返し使用している場合、訂正

訂正した部分とその理由を具体的な表にまとめて

最後に、英作文のアドバイスや改善点を文にしてください

#入力文：

I think good luck is more important for success. First. There are too many things which good luck is necessary. For example, examination, health, native country... These factors are not composed in only hard work and won't change it. Second. Good luck can use various things without hardly working on. I think this is the most advantage. It is not necessary that we get special skill. Third. Good luck absolutely connect with my hope result. but hard work is not it. If you keep doing effort how to wrong, you only waste times. In conclusion, It is important for us to depend on good luck when hard work will not use.

— 32 —

4. AI教育の課題と展望

4-1 AI教育の課題

生徒に生成AIを使用させる場合に関しては、あらゆる点に考慮する必要がある。

AI生成の文章に見られる特徴

①構文：

文法的には正しいが、過剰に整っていて人間らしい揺らぎや自然な間の抜けが少ない。

②抽象的で曖昧な表現が多い：

「重要です」「さまざまな可能性があります」など、具体性に欠ける語が繰り返されやすい。

③冗長な言い回し：

同じ意味の語を繰り返す、あるいは不要に長い導入が見られることがある。

④文体が一貫しすぎる：

文体のトーンが機械的に統一され、読み手の立場に合わせた変化が見られない。

⑤内容の整合性に欠ける場合がある：

一見まとまっているが、よく読むと話の筋や論理が飛躍していることがある。

AIによって生成された文章をそのまま使用している生徒については、前述した特徴が見られることが多く、特に内容が生徒本人の実力を大きく上回っている場合には、学校での平常の提出物や模試の結果と照らし合わせることで、違和感の有無を比較的容易に判断することができる。生徒に対しては、生成AIを使用する際にはまず出力された内容に誤りや不自然な表現がないか、自分の目で確認するよう指導している。そのうえで、明らかな誤りがあれば自ら修正を加え、逆に適切な表現である箇所はそのまま活用できるようにし、「正す力」と「見極める力」の双方を育てることを重視している。

4-2 AI教育の展望

生成AIは決して「教員の仕事を奪う存在」ではなく、教員の役割そのものを進化させる契機であると捉えている。これまでのような一方向的な指導（いわゆる監督型）から、対話的・伴走型の指導（コーチ型）へと変容していく中で、AIは有効な支援ツールとなる。特に、思考力・判断力・表現力といった「主体的な学び」に関わる活動においては、AIを活用することで、短時間で質の高いフィードバックを返すことが可能となり、個別最適な学習支援が実現しやすくなる。

もっとも、AIの活用はICT環境が整っているほど効果を発揮しやすいため、生徒間のリソース格差や操作スキルの違いなどに配慮した支援・指導も不可欠である。生徒自身がその格差を乗り越えるための取組を支援し、誰もが学びに主体的に関われる環境を整えていくことが求められる。また、教員自身もICTリテラシーを継続的に向上させる必要がある。日頃から使用しているOfficeアプリケーション（Word、PowerPoint、Excel）についても、さらに高度な機能を活用できるようスキルを深めていくことで、これまで実現が難しかった教材作成や授業運営が可能となり、教育の質的向上につながると考える。

5. 最後に

Chat GPTが世の中に登場してからの数年間、どのようにすればこの新しい技術を自分の授業に活かし、自身の指導に落とし込めるのかについて、模索を続けてきた。当初は戸惑いもあったが、最終的には「実際に使いながら学び、試行錯誤を重ねる中で、自分なりの活用法を見出していくしかない」と考えるようになった。今後の教員人生においても、現状に甘んじることなく、変化を恐れずに新しいツールや指導法に挑戦し続ける姿勢を大切にしたい。AIという新しいパートナーを通じて、自らも学び続ける教師でありたいと強く感じている。

謝辞

加藤雄彦理事長・校長先生、加藤聖一沖縄校校長・秀光中学校校長先生には、日頃より先進的な機材の導入や情報を得る機会を提供していただきましたこと、心より感謝申し上げます。教育のあり方が大きく変化していく中で、私自身も学び続ける姿勢の大切さを改めて実感しております。今後も、子どもたちの学びをより豊かなものにするために、技術と教育の融合を追求してまいります。

引用・参考文献一覧

山田優（2025）、ChatGPT 英語学習術 新AI時代の超独学スキルブック、数学教育No.685、明治図書、p.34-68

第二外国語・中国語授業における実践事例

外国語コース 王 霄漢

はじめに

仙台育英学園高等学校外国語コースでは、第二外国語科目の一環として、中国語（普通話）の授業を実施している。仙台育英学園高等学校のホームページにある外国語コースの紹介にある通り、本コースでは、主たる外国語として英語学習に重点を置いているが、様々な語種に早期から触れるべきという観点にそって多言語学習を実施している。そのため本コースでは、英語の他に中国語・韓国語・スペイン語から2言語を選択し、合計3つの言語を学ぶようにカリキュラムが構成されており、各言語とも、ネイティブの教員から発音や日常会話などの基本を学ぶことができるという特徴を持っている¹。

また、本学園における「外国語コース グランドデザイン（2024年度版）」によれば、中国語を含む第二外国語は「国際理解力」の養成に寄与する重要な項目であるとともに、外国語コースの教育目標である「高度な国際理解・国際的感覚と外国語によるコミュニケーション能力を持ち、グローバル化進展による世界の不確実化・複合化・多層化に対応する女性リーダー」の育成の上でも大きな役割を果たしている。

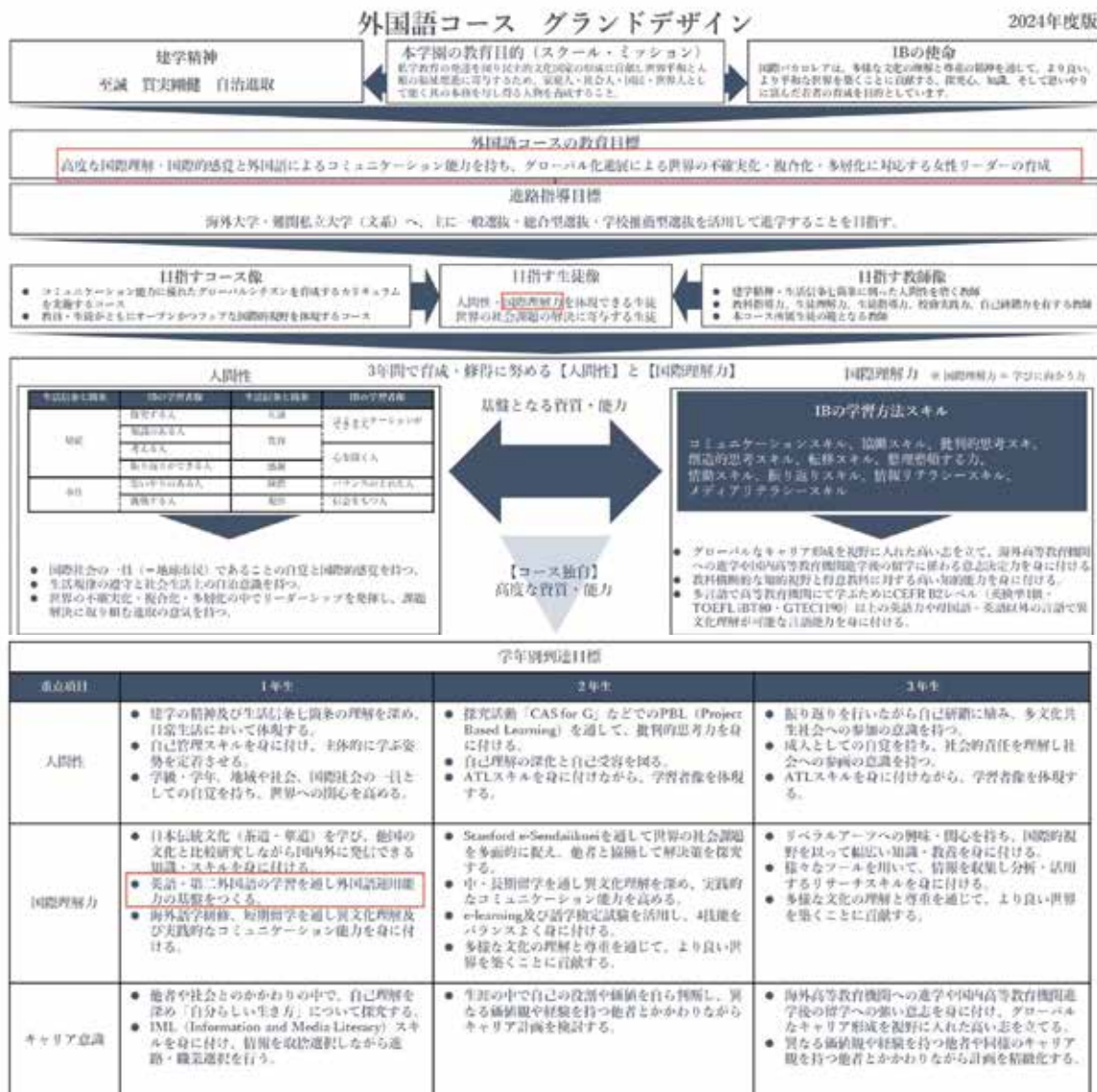


図1 外国語コース グランドデザイン（2024年度版）

¹ 仙台育英学園高等学校ホームページ「コース紹介 外国語コース」を参照。

<https://www.sendaiikuei.ed.jp/hs/course/gg---pageid-2.html>（最終閲覧：2025年3月23日）

その上で、筆者は第二外国語としての意義として、国際理解力の養成や高度な国際的感覚の育成という本校の教育理念のほか、各論的な内容から言えば、語学的な基礎項目の習得のほかに、大学進学後でも中国語学習の意欲を喚起できること——つまり第二外国語の学習後にも継続して中国語を学習したいという意欲を持ち続けられること——にあるのではないかと考えている。かかる筆者の見解に則り、ここでは外国語コースで中国語を二年間担当した教育の実践について報告し、本コースにおける将来的な中国語学習のノウハウの蓄積と、受講生の意向に対応した授業作りの重要性について、少しく紹介と検討を試みることにしたい。

1 中国語授業の概要

現在外国語コースでは、1年生から3年生まで週に2コマの中国語授業がコース履修生の時間割に盛り込まれている。現在本校に在籍する中国語講師は合計3名であり、その全てがネイティブ教員で構成されている。また主に利用している教材は『しゃべっていいとも中国語初級完成編 — 中高版』（陳淑梅編、朝日出版社、2015年1月）である。これは高校生向け中国語教科書という選択肢の中から教員間の協議で選定されたものであるが、市販されている中等教育課程向け中国語教材は極めて少なく、選定したこの教材が必要且つ十分な内容のものとは筆者は考えていない。そのため授業の進捗に従って、適宜補足的な説明を加える工夫が必要ではないかと考えているが、これらの試みについては追って後述する。

授業内容は、基礎的な中国語の会話や文法知識の解説がメインであり、使用する教材も前半部分は入門編（第1課～第16課）、そして後半部分はステップアップ編（第16課～第26課）に分かれており、初歩的な内容から段階的に応用的な項目へと無理なく学習できる構成が取られており、学習者の躓きがどこにあるのかも、この段階を確認することで教員は把握することが可能となり、その後の補習授業の取り組みを行う上で非常に重宝するに違いない。

ただ授業を実践してみると、基礎的な内容のレクチャーだけでは、得てして中国語に関する規則など技術的な説明に偏りがちとなる。例えば野球で例えるならば、野球を行う前にルールブックを座学で学ばせても生徒の興味が沸くことがないのと同じである。そのため中国語の文法など技術的な内容ばかりを前面に出すと、学習者の意欲は下降気味となる。これが中国語の初學者向けの授業における課題の一つではないかと筆者は考えている。ただ、筆者の選んだ教材には、各課の文末に、中国の社会や文化に関するコラムが設けられており、この種の中国事情を知ることができる豆知識的な情報が差し挟まれている点に、生徒の興味や関心を維持し続けることのできる効果が認められるのである。

以下の報告では、筆者が行った中国語授業の実践を、基礎的な知識の効果的な習得方法と、中国文化に関する説明方法の二つに分けて報告することとしたい。

2 中国語の初歩的知識についての習得

中国語の授業では、教科書の冒頭の「中国語について」や第1課～第4課までの発音要領（ピンイン・四声）を初歩的知識として扱う。これは中国語学習の基礎的な内容であるため、この部分の授業にできるだけ多くの時間を振り分け、中国語に関連する重要な概念を理解させ、生徒に正しく中国語を発音できるように、発音の矯正を繰り返し行っている。

まず、教科書冒頭にある「中国語について」の内容に従い、以下の重要な概念について解説している。

①	中国語はなぜ「汉语」 ^{hàn yǔ} って呼ばれるの？
②	「普通话」 ^{pǔ tōng huà} って何？
③	「简体字」 ^{jiǎn tǐ zì} の話
④	「ピンイン」



図2 教材における中国語学習の導入部分

③「簡体字」については、教科書にもある中国語繁体字と簡体字の漢字字形の比較事例を示しながら説明し、授業の中でも、日本の漢字と簡体字の字形の違いに関する事例を紹介し、同じ漢字でも使用する表記が異なることを明示している。

また④「ピンイン」(発音表記)の説明には、(1)同じローマ字の綴りでも、声調が異なると、意味が違ふこと。そして(2)同じ綴りで同じ声調でも、意味が違ふ事例もある。「一」(yī)と「衣」(yī)の二つの内容を重点的に説明する。

上記四つの概念は、中国語の基礎でありながら、今後の中国語の会話、書き方の習得にはいずれも必要不可欠なものであり、何度も再度喚起すべき内容であろう。第1課以降の授業内容には、ピンイン・簡体字関連の知識が登場するたびに、生徒に振り返りを呼びかけ、反復的な理解の定着を目指す。また、初期の授業では各課の語彙を取り上げ、「簡体字・ピンイン」の練習課題を生徒に配布している。

第一課(第二版)「ピンイン・簡体字練習」				
日本語	中国語の発音	ピンイン	簡体字練習	繁体字練習
北京	北平	běi píng	北平	北平
上海	上海	shàng hǎi	上海	上海
天津	天津	tiān jīn	天津	天津
南京	南京	nán jīng	南京	南京
香港	香港	xiāng gǎng	香港	香港
台湾	台湾	tái wān	台湾	台湾
四川	四川	sì chuān	四川	四川
湖南	湖南	hú nán	湖南	湖南
广东	广东	guǎng dōng	广东	广东
福建	福建	fú jiàn	福建	福建
浙江	浙江	zhèng jīng	浙江	浙江
江苏	江苏	jīng jīng	江苏	江苏
山东	山东	shān dōng	山东	山东
河南	河南	hé nán	河南	河南
湖北	湖北	hú běi	湖北	湖北
江西	江西	jīng xī	江西	江西
安徽	安徽	ān huī	安徽	安徽
山西	山西	shān xī	山西	山西
陕西	陕西	shǎn xī	陕西	陕西
甘肃	甘肃	gān sù	甘肃	甘肃
宁夏	宁夏	níng xià	宁夏	宁夏
青海	青海	qīng hǎi	青海	青海
新疆	新疆	xīn jiāng	新疆	新疆
内蒙古	内蒙古	nèi měng gǔ	内蒙古	内蒙古
广西	广西	guǎng xī	广西	广西
云南	云南	yún nán	云南	云南
贵州	贵州	guì zhōu	贵州	贵州
四川	四川	sì chuān	四川	四川
湖南	湖南	hú nán	湖南	湖南
广东	广东	guǎng dōng	广东	广东
福建	福建	fú jiàn	福建	福建
浙江	浙江	zhèng jīng	浙江	浙江
江苏	江苏	jīng jīng	江苏	江苏
山东	山东	shān dōng	山东	山东
河南	河南	hé nán	河南	河南
湖北	湖北	hú běi	湖北	湖北
江西	江西	jīng xī	江西	江西
安徽	安徽	ān huī	安徽	安徽
山西	山西	shān xī	山西	山西
陕西	陕西	shǎn xī	陕西	陕西
甘肃	甘肃	gān sù	甘肃	甘肃
宁夏	宁夏	níng xià	宁夏	宁夏
青海	青海	qīng hǎi	青海	青海
新疆	新疆	xīn jiāng	新疆	新疆
内蒙古	内蒙古	nèi měng gǔ	内蒙古	内蒙古
广西	广西	guǎng xī	广西	广西
云南	云南	yún nán	云南	云南
贵州	贵州	guì zhōu	贵州	贵州

図4 簡体字・ピンインの練習教材

このように第1課からは教科書の本内容に沿って行われるが、第4課までの構造は、以下のように要約できる。



会話の内容は、文法的知識をほとんど学んでいない生徒には、意味の理解より、発音の模倣に重点を置くことを心掛け、大声での会話練習を授業中に行う。例えば-「你好(ニーハオ)」-「你好(ニーハオ)」(-こんにちは。-こんにちは。)のようなシンプルな挨拶でも、一定回数以上の練習を要求すべきであろう。そして、文法知識への言及

を最小限に抑えるようにする。例えば、第4課の会話には、「好久不見^{hǎo jiǔ bù jiàn}」のような再会の際の挨拶が会話内容であるが、文法知識への言及は、「好^{hǎo}」に「とても」という程度を強調する役割がある点に止めるなどの配慮を行うことで、授業における重要項目を絞り込み、理解度を高める工夫を行った方が、知識の定着度が高まる。

発音に関しては、四つの課で、ほぼすべての発音の規則が網羅されている。そのため第4課までの学習で、ピンインの理解と同時に発音の練習を並行的に行うことができる。よってこの段階でピンインと発音双方の理解を体で覚えさせる方が最も効果的である。なお、本書での発音知識ポイントは以下のようにまとめられている。

- 第1課「音節（ピンインの構成）」「声調（イントネーション）」「轻声」「3声の変調」「不^{bù}の変調」
- 第2課「単母音」「複母音」「eの発音の変化」
- 第3課「子音(1)無気音と有気音」「子音（1～14）」「声調記号のつけ方」
- 第4課「子音(2)そり舌音」「子音（15～21）」「隠れるeとo」「鼻音-nと-ng」「鼻音-nと-ngに伴う母音」「r化」

3 中国文化的情報の説明

第5課からの教科書内容は、日本人や中国人のキャラクターが登場し、様々な場面で会話をするという内容の本文に、「新出単語」、中国文化関連コラム、文法ポイント、ワードバンク²を利用した会話練習のほか、様々な「ドリル」によって構成されている。

その中でも、中国文化関連コラムは、中国文化を取り上げるための格好のトリガーとなり、外国語コースの教育目標である「高度な国際理解・国際的感覚」の養成にも不可欠な内容と思われる。それはなぜかというと仙台育英高校の受講生についても「中国語＝北京語である」「中国人はみな日本人が嫌いである」など誤解、または不正確な情報媒体により、誤った中国理解がなされている事例が屢々確認されるからである。そのため「中国語」の授業の中で、中国の社会や文化に関する正しい知識を提供することで、この種の不正確な情報や偏見を排除する重要性も兼ね備えているのである。

中国に関連するコラムの内容は、以下の通りである。

第5課	中国はどんな国？ ³	第17課	中国の「ここが面白い」 (日本アニメタイトルの中国語訳)
第6課	中国の国旗	第18課	中国の「ここが面白い」 (中国で流行な日本料理)
第7課	中国の人口	第19課	中国の「ここが面白い」 (中国の高校生が授業の余暇でやっているベスト5)
第8課	中国の民族	第20課	中国の「ここが面白い」 (日本民謡「さくら」を中国語で歌ってみよう)
第9課	中国の国家機構	第21課	中国の「ここが面白い」 (中国人が最も行きたい日本の観光地ベスト10)
第10課	中国の首都	第22課	中国の「ここが面白い」 (中国でレストランやお店に入店する際の店員の挨拶)
第11課	中国の主要都市	第23課	中国の「ここが面白い」 (中国人の誕生日の過ごし方)
第12課	中国の文化遺産	第24課	中国の「ここが面白い」 (中国人の正月映画「賀歳片」)
第13課	中国の方言	第25課	中国の「ここが面白い」 (中国の病院の診療科の言い方)

² 本文に出現しなかった新しい語彙を集めたもの。会話練習に利用できる語彙を提供する。

³ 国名・体制・面積・人口についての解説。

授業ではこの種のコラムを活用し中国理解を進めている。また教員は教室で直接、受講生の興味を持つジャンルが把握できることもあり、現在受講生の関心が高い内容や、あるいは日本のメディアで紹介された中国関係の話題を、授業に織り込む工夫を図っている。

例えば教科書⁴ 第17課の事例では、日本の有名アニメ作品のタイトルの中国語訳について言及があり、日本のアニメが中国で大人気であること、タイトルがすべて漢字であることが紹介されている。しかし、このような概説的な紹介のみでは、受講生の理解が追い付かず、興味を示すことは少ない。

そのため、講義では教科書に言及されたアニメ作品の性格を紹介も併せて、作品タイトルの翻訳の理由を詳しく説明している。教科書に言及されたアニメ作品は、『ドラゴンボール』『もののけ姫』『となりのトトロ』『クレヨンしんちゃん』『ポケットモンスター』『名探偵コナン』の合計6作品である。それぞれのタイトルの中国語訳を示すと右表の通りである。実際の授業ではこの種の板書を行った上で、以下のように解説を行っている。

タイトル	中国語訳
ドラゴンボール	lóng zhū 龙珠
もののけ姫	yōmeigōshū 幽灵公主
となりのトトロ	lóng māo 龙猫
クレヨンしんちゃん	là bǐ xiǎo xīn 蜡笔小新
ポケットモンスター	chǒng wù xiǎo jīng líng 宠物小精灵
名探偵コナン	míng tàn zhēn kō nán 名侦探柯南

「日本で大人気のアニメ作品ですが、そのタイトルは中国でこのように翻訳されています。まず、中国語にはカタカナやひらがながないので、すべてのタイトルは漢字に翻訳されています。例えば、『ドラゴンボール』は「ドラゴン」と「ボール」をそれぞれ直訳され、「龍（龍）」と「珠（珠）」のシンプルな組み合わせになっています。『もののけ姫』では、「もののけ⁵」という概念にある「霊」の意味合いを出し、「幽灵公主（幽霊の姫）」という原作とはやや異なるニュアンスになっています。また『となりのトトロ』は、初期の台湾や香港の翻訳では、音訳で「托托羅（トートロー）」「豆豆龍（ドードーロン）」に翻訳されていました。しかしその後、「トトロ」の外見はパンダ（中国語で「熊貓」）に少し似ているから、「豆豆龍」から「龍」を取り、パンダ（熊貓）から「貓」を取り、「龍貓」という訳名を作り上げたのです。『クレヨンしんちゃん』の中国語訳「蜡笔小新」に、「しんちゃん」は「小新」と翻訳されていますが、「小○」は中国人が幼い子によく使う親しみのある言い方で、しんちゃんの憎めない可愛いイメージと一致しています。『ポケットモンスター』の「宠物小精灵」を日本語に再度翻訳すると「ペットの小さい精霊」となりますが、冒険に一緒に出掛けるも常にそばにいるポケモンたちのイメージと一致しているところもあります。このように、日本の文化に対して、直訳・意識・あるいは両方を同時に用いて、中国人は理解しています。」

このような説明を行うことで、中国の語彙に含まれる中国語的な思考、中国人が日本文化を受け入れる姿勢を直に解説すると同時に、異文化理解の現場の様子を受講生により自然に理解してもらう方法をとっている。そしてこのアニメタイトルの話題を一つの糸口として、授業により活発な雰囲気をもたらすことができた。

同時に、アニメが属するポップカルチャーという学生に比較的身近な存在を、解説するようにしている。これは中国語をより身近な存在だと感じてもらえる有効な手段である。授業中に、ほかにポップカルチャーにまつわる話題を挟むこともある。例えば、若者中心の人気バンド「ヨルシカ」が2025年にリリースした楽曲『へび』に「海を知らず、花を愛でず、空を仰ぐ私は また巫山の雲を見たいだけ」という歌詞はあるが、これは中国唐代の詩人元稹の詩『离思五首・其四』が原典となっている。

曾经滄海難為水，除却巫山不是雲。取次花叢懶回顧，半緣修道半緣君。
（日本語訳：雄大な海を体験すると、他の場所の水など見る価値もなくなる。
巫山の雲と雨の夢に酔いしれたら、他の場所の景色は雲と雨とは言えなくなる。
幾千の花の中に私がいるのに、振り返るのが怠いのは、
一つは修道者の苦行のせいであり、もう一つはかつて私が抱いたあなたのせい。）

このような中国古典の漢詩とポップカルチャーを同時に紹介できる事例を授業に取り入れながら、授業を進めると生徒の興味も維持することができる。授業という時間的制約もあり、網羅的に紹介することは困難であるものの、この種の日常的に触れることが多い材料を用いて中国理解に活用する方法は、受講生の理解にも大きな手助けとなっている。

上記はあくまで一例であるが、中国語の授業は、基本的にほとんどは文法や読解内容の間に行われているため、この種の中国理解に関連する内容の説明は、単元の幕間などで活用する補助的な手段であるものの、受講生の興味を維持する手法として効果的な手段とすることができる。

また教室では、現在受講生の関心が高い内容や、あるいは日本のメディアで紹介された中国関係の話題を、授業に織り込む工夫も行っている。

⁴ 陳淑梅編『しゃべっていいとも中国語初級完成編 - 中高版』朝日出版社、2015年1月
⁵ 人にとりついて祟たたりをする死霊・生き霊・妖怪の類。『小学館デジタル大辞泉』

例えば、筆者は中国語授業の運営に役立てるべく、2023年10月に受講生に対して「中国のどのような事情に興味があるか」とアンケート調査を実施している。その結果は以下の通りである。

関心の内容	理 由
中国では学校でお金の授業をするのか	中国人はお金持ちが多いイメージがあるから。知り合いの中国人がお金に詳しいから
中国の歴史	
中国の方言 標準語と方言の違い	中国より狭い日本ですら、方言がたくさんあるので、中国の方言はもっとあるんだろうなと思ったからです。
中国の西安	西安は歴史的な建物や者がたくさんあるからです。また、昔、日本は長安に倣い平城京を作りました。このことから日本との関係が強い西安の街並を見てみたいと思いました。そして、書道が盛んだと聞いたこともあるので、書道を習っている身として訪ねてみたいと思ったのも理由の一つです。
中華料理	人気の中華料理ランキング (1) 餃子 (2) エビチリ (3) 麻婆豆腐 (4) 炒飯 (5) 小籠包 (6) 春巻き 中華料理が大好きだから。
チャイナドレス	すごく上品できれい。女性の体が美しく見える。色も形もたくさんバリエーションがあるから。一度は中国で着てみたい。
上海	上海が中国で人気No.1の観光都市と聞いたので行ってみたいです
中国コスメ	最近中華メイクが流行っていて、中国のコスメを使っているインフルエンサーの方が多いので気になったから。日本であまり知られていないものも見てみたい。
中国の都市	中国は面積が大きく都市もたくさんあるのでそれぞれの文化がありそうだなと思ったからです。
中国のアニメ	日本のアニメが好きで、中国のアニメについて知りたいからです。

また、2024年10月に受講生に行った調査では、「中国の祝日」「中国の童謡」「中国ドラマ」「漢服」などが受講生に興味を持つ話題であることを筆者は把握している。

なお、過去に取り入れた話題は、概ね以下の通りであり、特に中国の食べ物や中国のポップカルチャーについては高い関心を示している。これは受講生の年齢層に要因があるのではないと思われる。

① 食文化

マーラータン（麻辣湯）や焼き小籠包（生煎）等のいわゆる「小吃」（手軽で比較的値段が安い大衆料理）類の中華料理について解説し、仙台にある本格中華料理屋、本場中国料理志向の店についての解説

② 華流ドラマ

『「琅琊榜（ろうやぼう）～麒麟の才子、風雲起こす～」』、『陳情令』等の近年大きな話題を呼んだ若者向けのドラマについての解説

③ サブカルチャー

三国演義（ACG 三國無双シリーズ）等を話題にしながら、日中の三国志人物に対する認識の違いについての解説

④ SNS

ティックトック等の日中共通で流行度が高いSNSについての解説

⑤ 時事問題

尖閣問題や台湾問題など、受講生がメディアで見聞した情報を日本に滞在する中国人の視点から解説

⑥ 伝統文化

漢字の成立・時代に沿った変化や、漢詩の音韻的美感覚、漢服（漢服が若者の間で大流行を果たしながら、伝統的な美学を継承するという特性）

そのほか、筆者自らが体験した中国でのエピソード（例えば中国の高校生の生活・大学進学の実態や日本に来る様々な中国人留学生（動機・キャリアを含む）なども体験者ならではの話題は非常に説得力があり、受講生からの反応も非常に高いものがある。

以上、幾つかの実践事例を紹介してきた。中国語の基礎としては、発音（ピンインと声調）や基本的な単語とフレーズの習得、そして文法の理解やリスニングとスピーキングの実践があげられるものの、これら語学習得のノウハウはもちろんのこと、特に初学者にとっては、今後の継続的な学習の習慣を身につけることが最重要課題であり、それを実現するためには楽しく学ぶ工夫が必須の要素として浮かんで来るのではないだろうか。

そして学習者がその後長く中国語に親しみ続けるためには学習者の興味を引きつけ、学習意欲を維持させるためには、やはりそれ相応の工夫が必要である。また嫌中感情が強い日本で中国語を教えるときには、メディアなどで形成されたイメージだけでなく、実際の中国の人々の生活や考え方に触れる機会を作るなど先入観や固定観念を和らげる工夫も必要である。そのためには中国のサブカルチャーや食文化、ドラマなど受講生が中国に対してポジティブなイメージを抱いている点を効果的に織り込むこと、そして講師自らが「中国語を学ぶことで、より深く中国文化を理解できる」と伝え、受講生も中国語に対する興味を持ちやすくなるのではないかと考えている。

おわりに

以上、小論では中国語初級者向け授業を一例として、仙台育英高等学校における中国語初級者向け授業における実践事例を紹介し、日本の中等教育における中国理解に関する取り組みの事例を検討した。

本校での試みとしては、受講生の関心に合わせ、中国の食文化、華流ドラマ、サブカルチャー、SNS、時事問題、伝統文化など幅広い話題提供を心掛けた。特に若者に人気の麻辣湯や陳情令、三国無双などが好評であり、講師自身の中国体験談も交え、生きた情報を伝えることに心掛けた。この種の工夫が多角的な文化紹介で中国への興味を喚起し、理解を深めることに効果的であった。

そもそも中国語の初学者は基礎習得に加え、継続学習の習慣化が重要である。そのため学習者の興味を惹き、意欲を維持する工夫が不可欠である。その上で現在の日本では、実際の中国人の生活や考え方に触れる機会を設けること、そしてサブカルチャーや食文化など、受講生の興味を織り交ぜること、更には講師自身の体験談を加えることで中国に対する偏見を排除し、学習意欲を高めることが可能と思われるのである。

Copilot（コパイロット）の実践について

英進進学コース

五十嵐春祐

吉野 裕貴

目 次

- はじめに
- Copilotについて
- HRでの実践事例
- 教科での実践事例
- そのほかの活用実践
- 課題
- 結論
- 謝辞

1. はじめに

近年、“ChatGPT”をはじめとする生成AI技術の急速な進化により、文章・画像・動画などの多様なコンテンツを生成するサービスが続々と登場しています。Googleの“Gemini”や中国発の“DeepSeek”といった先進的なモデルもその代表例であり、これらはもはやエンターテインメントの領域にとどまらずに教育・ビジネス・行政など幅広い分野において生産性向上の鍵として注目を集めています。

一方で生成AI市場は「AIバブル」とも称される過熱気味な様相を呈しており、過剰な期待が先行しているとの懸念も度々指摘されています。こういった状況の中で私たち教育現場に携わる者が果たすべきは、単なる技術の導入にとどまらず、その本質的な意義や限界を見極め、持続可能な形で生成AIを教育現場に組み込むことです。本学園ではMicrosoft 365に統合されたAIアシスタント「Microsoft Copilot」を導入して授業、学級運営の面で活用する体験を教員が行うことで、校務の効率化の可能性を模索してきました。

本稿では、英進進学コースにおけるMicrosoft Copilotの実践的な活用方法について考察し、学級経営・授業・その他の領域での適用事例を通じて、Microsoft Copilotがどのような有効性と可能性、あるいはどのような課題をもたらすのかを探ります。

※以下、Microsoft Copilotを省略しCopilotと表記します。

2. Copilotとは

Copilotとは副操縦士を意味するMicrosoft 365に統合されたAIベースのアシスタント機能です。主に、Word・Excel・PowerPoint・Outlookなどのアプリケーションと連携し、ユーザーの業務効率や生産性の向上を目的として設計されています。

以下は、Copilotの主な機能です。

1. **多機能サポート**：Copilotはメールの作成、スケジュール管理、データ分析、ドキュメントの作成にオンライン会議の議事録作成など、さまざまなタスクをサポートします。
2. **自然な対話**：Copilotは自然言語処理技術（NLP）を用いており、ユーザーとの自然な対話を通じて、必要な情報を提供し、タスクを効率的に完了します。
3. **継続的な学習**：Copilotはユーザーのフィードバックや新しいデータを基に継続的に学習し、より良いサポートを提供します。
4. **セキュリティとプライバシー**：Copilotはユーザーのデータを安全に保護し、プライバシーを尊重します。

Copilotは個人の生産性を向上させるだけでなく、チームや組織全体の効率も高めることができます。日常の業務をよりスムーズに進めるための強力なパートナーです。

Copilotではユーザーが入力したデータ（プロンプト内容や添付したファイル）を外部へ流出することはありませんが、過去にはChatGPTで情報漏洩が起きた事件もあります。そのため、個人情報などの機密情報の取り扱いには十分に注意する必要があります。本学園では教育現場における生成AI活用のガイドラインを遵守したうえで利用しています。

参考：[初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン](#)
[生成AIの利用について（文部科学省）](#)
[教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（令和6年1月）](#)

3. HRでの実践事例

<進路指導における実践>

Google Formで進路希望調査を行い、回答結果から志望大学や興味のある学問などをまとめた表を作成し、それをCopilotに読み込ませることで、何割の生徒がどの系統の学問に興味があるかといった分析を行いました。(図1参照)

大学の総合型選抜での提出書類を書く練習をするために東北学院大学の質問事項を入力し、それに対する模範解答を作成させました。(図2参照)



図1 (進路希望調査の分析)



図2 (総合型選抜質問事項の模範解答)

<保護者宛て文章の作成>

Classiなどを通じて、保護者に文章を発する際に、作成した文章をCopilotに添削させることで、丁寧な表現に修正しました。

<学級通信の作成>

2 A 7 クラスでは月に1度、学級通信を作成していました。内容に困った際にはCopilotにアイデアの検討を手伝ってもらいました。また、先に挙げた進路希望調査の分析などを参考にしながら、進路情報を記載したりなど、学級通信の作成においても活用しました。

4. 教科での活用

<数学での実践>

数学Ⅱの三角関数の授業では導入時に小テストを行いました。その際に、数学Ⅰで学習した三角比の簡単な小テストをCopilotに作成してもらい、復習に活用しました。(図3参照)

また、証明問題の模範解答を作成させたり、ちょっとした豆知識などを検索したり、現実では数学がどのような場面で使われているかの事例を検索することに活用しました。



図3 (数学の小テスト作成)

<英語での実践>

ライティングの添削において文法、言葉選び、スペルなどをCopilotに添削してもらいました。これによって、教員の点検作業は内容や自然かどうかの確認のみで済みました。また、イディオムや文法に関しての問題作成や、テーマや内容の制限を与えたうえでの長文作成もCopilotによって可能となりました。(図4ー5参照)



図4 独自英文文章の作成とその問題作成①

長文2: The Invention of the Airplane

The invention of the airplane, which revolutionized travel, is one of the greatest achievements of the 20th century. The Wright brothers, who were bicycle mechanics from Ohio, are credited with building and flying the first successful airplane. On December 17, 1903, they made their first flight at Kitty Hawk, North Carolina. The airplane, which they named the Wright Flyer, flew for 12 seconds and covered a distance of 120 feet. This historic flight, which was witnessed by only a few people, marked the beginning of the age of aviation. Over the next few years, the Wright brothers continued to improve their designs, which led to longer and more controlled flights. Their success inspired other inventors and engineers, who contributed to the rapid development of aviation technology. Today, airplanes are an essential part of modern life, connecting people and places around the world.

読解問題

1. What is the main topic of the passage?
2. Who invented the first successful airplane?
3. When and where did the Wright brothers make their first flight?
4. What was the name of the first airplane?
5. How long did the first flight last?
6. How far did the Wright Flyer fly on its first flight?
7. Why was the first flight significant?
8. What did the Wright brothers do after their first flight?
9. How did the Wright brothers' success influence others?
10. What is the role of airplanes in modern life?

図5 独自英文文章の作成とその問題作成②

5. そのほかの活用

<そのほかの活用実践>

検索機能として利用し、気になったことなどをCopilotで調べたり、GoogleのApps Scriptで生徒にメールを一斉送信するスクリプトを考えてもらったりと、様々な分野で活用しています。

また、Outlookでは、業者とのやり取りにおける返信内容の作成をCopilotで生成することで時間短縮につなげました。

6. 課題

ここまで、Copilotの活用実践の事例を紹介してきましたが、一方で教育現場における導入・運用についてはいくつかの課題も浮かび上がってきました。以下に主な課題について整理して述べます。

1. 教育現場における活用場面の限定性

例えば、WordにおけるCopilotの活用では、文書のひな形作成や文章生成といった機能に注目されますが、教育現場においては多くの場合、定められたフォーマットに沿って文書を作成する必要があります。Copilotではフォーマットに沿って文書を作成することはできないため、活用の機会が限られるといった問題があります。

その他、Copilotの多くの強みはビジネスシーンで生きる場面が多く、教育現場においての融通が利かないことを多く感じました。

2. 教職員のICTリテラシー格差

本学園では、surfaceの活用や、生徒一人一台端末の環境など、デバイスの積極的活用に取り組んでいます。しかしながら、教員一人ひとりのICTスキルやAIに対する知識は依然としてばらつきがあります。Copilotの強みは「自然言語で指示できる」点ですが、そのプロンプトの質によって、出力結果には大きな差が生じます。

Copilotの利便性を理解していても、思い通りの結果を得られなければ有効活用へのハードルが上がってしまいます。

そのため、より多くの教員がCopilotを有効活用するためには、体系的な研修の実施や実践事例の共有などを組織的に行う必要性があると考えます。

3. 生成結果の信頼性や情報の取り扱い

CopilotはMicrosoft365の中でセキュリティを担保された環境で動作していますが、それでも入力内容における個人情報の取り扱いや、生成結果の取り扱いについては利用者側が十分に注意しなくてはなりません。特に、生成AIが出力した情報は常に正しいものとは限らず、それを十分に検証せず生徒へ提供することは誤情報の拡散や教育上の混乱を招く恐れがあります。最終的な判断と責任は常に人間側にあるという前提のもとで、生成AIの利用を進めていく必要があると考えます。

7. 結論

Copilotを活用することで、進路指導や保護者対応、学級通信の作成に教科指導など、さまざまな場面において業務効率を向上させることができました。特に、進路希望調査の分析、証明問題の模範解答、文章添削、小テスト作成などの実践を通じて教育現場での生成AIの有用性が確認されました。これにより、校務の効率化や学習支援の効果が確認されました。

一方で、前項目であげたような課題もあります。Copilotをはじめとする生成AIは非常に便利なパートナーであると同時に、教育現場においてはまだまだ柔軟に活用しづらい側面もあります。また、生成内容の活用についても十分な精査が必要であり、利用者側の高いリテラシーが求められます。

これらを踏まえての今後の展望としては、教科や学級運営での効果的活用方法の模索を続けるとともに、Copilotの本来の強みであるMicrosoftアプリケーション（WordやExcel、PowerPointなど）での文書作成や、プレゼン資料の作成といった面で有効活用することができれば、さらなる校務効率化の可能性が広がることになります。また、3年生での進路指導、主に総合型選抜などでの小論文指導の場面では推敲や、担当教員が専門外のテーマの場合でも専門的な指導を行えることが期待できます。

今後ともCopilotを活用することで生成AIの有用性を見出し、教員の負担軽減を目指してまいります。また、これからは生成AIがデフォルトで搭載されているガジェットが多く開発されることが予想されます。生成AIが当たり前となる新時代を生きる生徒たちに、その有用性を先駆者として伝えていきたいと考えています。

なお、こちらの研究紀要もCopilotを活用してひな形の作成から文章の一部作成や内容の添削も実施しました。

8. 謝辞

恵まれた教育環境を整えて頂き、多大なる御指導、御配慮を賜りました理事長 加藤雄彦校長先生に心から感謝申し上げます。また、沖縄校 加藤聖一校長先生をはじめ、諸先生方には常日頃たくさんのご支援を頂き感謝を申し上げ、結びとさせていただきます。

研究紀要第39号(2024)「主体的な学びの支援ツールの有効性と 数学の授業展開の研究」の継続研究 ～ Canvaの活用～

技能開発コース 館 和廣

第1章 はじめに

本論文は、研究紀要第39号（2024）に寄稿した筆者の論文「生徒の主体的な学びを支援するツールを活用した数学の授業展開」をテーマとした研究論文の継続研究である。

第39号では、生徒の主体的な学びを支援するツールを活用した数学の授業展開について考えることを意図していた。主体的な学びを支援するツールとして挙げたGoogle Jamboardは2024年10月1日でサポートが終了したため、本論文では、新たな主体的な学びを支援するツールを模索し、そのツールを活用した数学の授業展開について考えることを意図している。

本章では、第39号において述べた筆者が本論文のテーマを設定するまでの経緯と、本研究の目的と基本的立場について簡単に確認していく。

1-1 第39号 本研究の意図の確認

本研究は、生徒の主体的な学びを支援するツールを活用した数学の授業展開について考えるものであった。筆者は、支援ツールを①ワークシートと②教師側のICT機器（Power Pointのスライドショー）、③教え合い活動、④生徒側のICT機器（1人1台端末）、⑤認め合い活動として捉え、これらのツールの活用が生徒の主体的な学びの支援に有効に働くと考えた。

特に④の生徒側のICT機器（1人1台端末）については、4人グループの活動で使用する。画用紙とマジックで考えをまとめるよりも、4人グループ内での協働も容易であり、その考えを学級全体にリアルタイムで共有することも容易である。このことから、アナログなグループ活動よりも主体的な学びを支援するツールであると考ええる。ICT機器の導入前は、画用紙を用いていたものの、令和3年度以降は1人1台端末として全生徒がChromebookを所有している。ChromebookではSlackでの情報共有やGoogle Jamboard、Geo Gebraの活用が大変スムーズであった。

Google Jamboardは、2024年10月1日でサポートが終了することが予告されていたため、代替ツールを様々なサイトを参照して調べたところ、①Miro、②FigJam、③Canvaの3点に候補が絞られた。まず①MiroはJamboardと同じようにタッチペンで描画すること、テキストボックスを使用すること、付箋を貼り付けること等が可能である。ただし、同じファイル内でページを増やすことができず、グループや生徒数分にページを増やすことができないという課題点がある。②FigJamもタッチペンで描画すること、テキストボックスを使用すること、付箋を貼り付けること等が可能である。また、教育者向けのEducationプランではページの追加も可能でありJamboardと遜色なく使うことができる。最後に③Canvaは、タッチペンでの描画、テキストボックスの挿入、付箋に加え、ページ数を容易に増やすことができ、こちらもJamboardと遜色なく使うことができる。②FigJamと③Canvaを比べると、Canvaにはテキストボックス等に加えて画像や動画、AIを用いた画像等も容易に挿入できる点に加え、ホワイトボードの他にもプレゼンテーションや画像編集、動画編集等様々な機能があり、FigJamよりもCanvaの方が高機能なツールであると筆者は考えた。Google Jamboardと3つの代替ツールの比較表は表1の通りである。

以上により、本論文では、Google Jamboardに代わる主体的な学びを支援する新たなツールとしてCanvaを活用することとし、Canvaを活用した数学の授業展開について考えていく。

表1

	タッチペン での描画	テキスト ボックス	付箋	ページの 追加	プラン、その他
Google Jamboard	○	○	○	○	無料
FigJam	○	○	○	○	教育機関、学生は無料
Miro	○	○	○	×	教育機関の職員、 学生にはEducationプラン無料
Canva	○	○	○	○	無料（教育版はプレミアム機能も無料）、 動画や画像、AI素材の挿入も容易。

1-2 先行研究の概要

本節では、前節で述べた新たな支援ツールCanvaに関する実践を調べていく。1人1台端末による授業の要求が特に高まったコロナ禍（2020年）以降、かつCanvaを活用した実践は意外と少なく、やはりGoogle Jamboardが利用できた時期までは、Jamboardを活用した実践となっている。明治図書の数学教育では2024年6月号まで調べてもCanvaの実践は見られなかった。Canvaの活用はJamboardが終了した2024年から本格的に必要感が高まったもので、まだまだ黎明期分野、先進的研究分野と言える。

1-2-1 前田昌顕¹氏の先行研究

前田昌顕氏は、小学校算数の実践である。5つの使い方を提案しており、(1)黒板の代わりとして1人1台端末にそのまま表示する電子板書ツール、(2)自分の席から板書に子どもを参加させるツール、(3)手書きのノートを撮影して挿入させ全体に共有するツール、(4)付箋機能を使ったワーク、(5)一括作成機能を使ったペーパーレスなワークシート配布という活用を提案している。この内、(1)については「Canvaのプレゼンテーションを使い、教師の端末でページに文字を入力したり画像を貼り付けたりすると、ほぼリアルタイムで子ども達の端末に反映される」²としている。また、「指示や説明の動画を場所に埋め込むこともできる」³「必要に応じてもう一度発問や指示を聞き直すことができる」⁴としている。(3)については、「ノートを撮影して共有したデザインに挿入すると、ノートの見せ合いがスムーズ」「友達のノートの画像をクリックして[:]→コメントの順にクリックするとコメントを追加できます。プレゼンテーションの編集画面をホワイトボードに展開すると、各画像にコメント数が表示されます。」⁵としている。(4)はGoogle Jamboardの同じ機能で「ページの上でキーボードのSを押すと付箋が挿入されます。」「付箋を選択してCtrl+Cを押してコピーし、Ctrl+VでエクセルやGoogleワークシートに貼り付けると、付箋に記入した内容を簡単に表に転記できます。」⁶としている。(5)については、「Canvaでワークシートを作り、印刷せずにそのままCanva上で記入させる」「挿入した表や画像はロックして子ども達が動かしたり消したりできないようにしておく」「あらかじめCSVファイルで用意しておいた子どもの名前をリストをアップロード」「子どもの名前が差し込まれたワークシートが生成される」⁷としている。

このようにGoogle Jamboardと同等の機能の活用に加え、更にCanva内の他のアプリとの連携を取り入れた実践である。前田氏の別の著書⁸の社会科の実践では、付箋をCanvaのAI機能で自動で並べ替える機能もあり、AIの提示した分類が良いのかどうか子ども達に話し合わせるとしており、Jamboardよりも充実した機能を活用した実践である。

1-2-2 井上義之氏の先行研究

井上義之氏も小学校の算数の実践である。「思考の結果ではなく過程を共有することが大切であり、取り組みの途中がお互いに参照できることが子供らの理解を深めることになっている」⁹としており、そのねらいで井上氏が使用するのがCanvaである。「児童がリアルタイムで共同作業を行うことができ、友達の思考過程を他者参照することができる。児童一人一人の思考過程や見方・考え方を可視化することで、児童が自らの学習進度に応じて任意のタイミングで閲覧し、自分の思考のヒントにすることが可能になる。特に困り感をもっている児童が主体的に、そして自分のタイミングで他者参照することができるため、全ての児童が自分の考えを図や式を用いて、数学的に表現することにつながる」¹⁰としている。Canvaをひらめきボードと名付け、ひらめきポイントを図や言葉で表すように児童に指示をする。面積を求める最初の個人思考の場面でCanvaに考えを書かせ、共同思考の場面では他の児童のページを見せ、考えを説明し合わせる。「友達の考えとのズレを意識しながら話し合う中で、相手の考えを理解し、自分の考えを補強したり、修正したりした」¹¹としている。井上氏は授業後にアン

¹ 前田昌顕（2023）、板書を授業モデルと対応させる、授業力&学級経営力2023年11月号AIで、先生の仕事はどう変わる？、明治図書、p.98

² 上掲書、p.99

³ 上掲書、p.99

⁴ 上掲書、p.100

⁵ 上掲書、p.101

⁶ 上掲書、p.102

⁷ 上掲書、p.103

⁸ 前田昌顕（2025）、Before&AfterでわかるICT超活用授業ハック 子どもが思考する時間を生み出す、明治図書、p.142

⁹ 井上義之（2023）、和歌山県教育センター学びの丘研修員報告書

http://www.manabi.wakayama-c.ed.jp/kenkyuroku/R5/houkokusyo/01_inoue.pdf, p.2

¹⁰ 上掲書、p.2

¹¹ 上掲書、p.2

ケートを取っており、「どう考えればよいか分からなくて困っている時に、友達のところに行かなくても、友達がどんな風に考えたのか分かったり、参考にしたりすることができる」¹²との回答があったとしている。「ICTの特性を生かして1人1台端末の共同編集機能を思考ツールとして活用することで、自分の考えを表現し伝え合う活動が充実し、児童が自ら問題解決に向かう力を高めることができたと考える。」¹³としている。

このように算数の図形の面積を求めるという具体的な場面でCanvaを活用し、他者参照できる機能のよさについて述べた実践である。

1-2-3 坂本良晶氏¹⁴の先行研究

坂本良晶氏は、Canvaの動画機能の活用を提案している。コンパスによる図形の描き方を動画にすることで、「一斉指導では見逃してしまう指示や模範も何度も見られるから安心して取り組むことができます。また全体の指導の時間が短くなり、児童の活動時間が増える」としている。また、別の坂本氏の著書では前述の前田氏の実践と同じくプレゼンテーションのスライドから「・・・のマークを選択し、ホワイトボードに展開するをクリック。すると、スライドの領域が無限大になります。」「子どもたちが個人やグループでの意見をその周囲に書き込むことができるようになります。」¹⁵としている。また、展開したホワイトボードは元のスライドに折りたたむことができる機能がある。更に、Canvaのスライドにカメラ撮影をして貼り付け、関数分野のレポートを作成させ、ペーパーテストだけではなくパフォーマンス課題として評価するという実践も提案している。

1-2-4 天野翔太氏¹⁶の先行研究

天野翔太氏は、データの活用のデータ収集の計画を立てる場面でCanvaのホワイトボードで付箋を貼っていきブレインストーミングを行う実践を提案している。「いつを黄色、誰にを青、どのようにを赤、(中略)気を付けることを緑の付箋にする」¹⁷とルールを決め、「ある程度意見が集まった時点で、付箋を全選択し、並べ替えのタブを選び」「名前以外をCtrl+Cで、Copilot等の生成AIにCtrl+V」「意見をまとめるようなプロンプトを入れる」と作業を進め、「生成AIにまとめてもらったものをたたき台として、議論するとよい」¹⁸としている。

このように、前述の前田氏の実践と同じように付箋を活用するアイデアであるが、そこに生成AIの活用を加えることで一人ひとりの意見を反映させ、効率よく授業を進めることができる実践である。

1-3 本研究の目的と基本的立場

本研究は、生徒の主体的な学びを支援するツールを活用した数学の授業展開について考えるものの継続研究であった。

前述した主体的な学びを支援するツールの比較と先行研究から、筆者はGoogle Jamboardに代わる主体的な学びを支援する新たなツールとしてCanvaを活用するという立場に立つ。

すなわち、本研究の目的は、『生徒の主体的な学びを支援するツールとしてのCanvaの有効性とCanvaを活用した数学の授業展開』を考えることである。これが本研究の基本的立場であり、本研究の目的である。

第2章 令和6年度数学科第3回ブラッシュアップ研修での実践

第1章では、本研究の意図を示し、本研究の目的と基本的立場を明らかにした。

本章では、令和6年度数学科第3回ブラッシュアップ研修での筆者の実践について紹介し、『生徒の主体的な学びを支援するツールとしてのCanvaの有効性とCanvaを活用した数学の授業展開』について分析していく。

2-1-1 令和6年度数学科第3回ブラッシュアップ研修での実践

本章では、令和6年度数学科第3回ブラッシュアップ研修での学習指導案とCanva成果物の分析、対象学級でのICTに関するアンケート集計結果について紹介していく。まず、最初に本章の中心となる数学科のブラッシュアップ研修について詳細を以下に示す。

¹² 井上義之（2023）、前掲書、p.2

¹³ 上掲書、p.2

¹⁴ 坂本良晶編著（2024）、授業・校務がより速くクリエイティブに！さる先生の実践Canva、学陽書房、p.106

¹⁵ 坂本良晶（2023）、授業・校務が超速に！さる先生のCanvaの教科書 基本からAI活用まで！、学陽書房、p.84

¹⁶ 天野翔太（2024）、1人1台端末フル活用！新4大アプリで算数授業づくり、東洋館出版社、p.44

¹⁷ 上掲書、p.44

¹⁸ 上掲書、p.44

2-1-2 令和6年度数学科ブラッシュアップ研修について

研修の目的は次の3点からなる。1点目は、本学園の公開研究授業である研修Ⅰについてより質の高い授業づくりである。2点目は、教育顧問による生徒対象の集中講義である研修Ⅱについて、数学の奥深さや面白さを感じさせ受験学力を伸ばすこと、特に数学を学ぶ楽しさを感じさせることである。3点目は、教員対象の研修Ⅲについて進学情報や入試問題のトレンドや傾向、対策等の講話により進学指導力を高めること、公開授業の合評会や支援ツールの研修等により授業料を高めること、生徒個々の力を伸長させるための指導の力量を高めることである。

研修の基本方針は次の3点である。研修Ⅰは公開研究授業は若手・中堅教員を優先とし、研修Ⅱはコースの実態とニーズに沿ったテーマで行うことである。また、研修Ⅲは研究授業の合評会および教育顧問または外部講師による講義を行うこととしている。

第3回ブラッシュアップ研修は、フレックス・技能開発コースを対象とし、「数学学習の動機付け、苦手意識の克服に向けて」を教員研修のテーマとしている。

2-2 学習指導案作成にあたっての基本的立場

筆者は、主体的な学びを支援するツールとしてCanvaが有効であると捉え、これらのツールの活用が生徒の主体的な学びの支援に有効であると考え。この視点をもって計画した授業の学習指導案の内容について以下に示していく。

2-2-1 学習指導案 本時の指導

本時の題材名は、場合の数と確率の条件付き確率である。本時の目標は、知識・技能の観点として、「条件付き確率の意味を理解し、具体的な事象についてそれを求めることができる」である。本時の準備物として教師は、教科書、ワーク、ワークシート、パソコン、授業用パワーポイント、指示棒、座席表、タッチペン、Canvaホワイトボードの各班のページ、Slackのリンクで、生徒は教科書、ワーク、筆記用具、充電してあるパソコンである。本時は、教科書「東京書籍Essence数学A」のp.82の内容をもとにした授業である。指導学級は技能開発コース2学年3組で生徒数32名である。研究授業の日時は令和6年9月5日（木）第5校時（13：35～14：25）である。

2-2-2 学習指導案 指導過程

指導過程は以下の表2の通りである。

表2

	学習活動・内容	○教師の指導 ☆支援 評価 ◎本時の学び合う活動
導入 5分	0. 黙想（30秒程度） 1. 数学係がワークシートを配布する。また、「めあて」をワークシートに記入する。 2. 本時の「めあて」を読んで把握する。授業の約束を確認する。 めあて 条件付き確率の求め方をマスターしよう	0. 黙想（30秒程度）室長が呼び掛ける。 1. ○ワークシートを配布してもらう。また、プロジェクターで「めあて」を提示する。出席を記録・入力する。 2. ○本時の「めあて」を読ませ、把握させる。授業の約束を把握させる。
展開 25分	3. (1) ○条件付き確率についての説明をワークシートに記入する。  (2) ○例題を把握する。4人グループを組み、くじに見立てた8枚組のトランプを受け取り、実際にくじを引き、戻さない場合の事象を実験、観察、記録し、Canvaに考えを書く。	3. (1) ○条件付き確率についての説明をプロジェクターで提示し、ワークシートに記入させる。 (2) ○例題を提示し、4人グループを組ませる。くじに見立てた8枚組のトランプを配布、実際にくじを引かせ、戻さずに2人目が引く事象を実験、観察、記録させ、Canvaに考えを書かせる。

展開
25分

例 8本のくじの中に当たりくじが3本ある。このくじを1人目が1本引き、引いたくじを戻さずに2人目が1本引く。1人目が当たりを引く事象をA、2人目が当たりを引く事象をBとするとき(1)条件付き確率 $P_A(B)$ を求めよ。(2)条件付き確率 $P_{\bar{A}}(B)$ を求めよ。当たりを絵柄キング3枚とし、はずれはキング以外の2～6のカードとする。



- Canvaの画面を見ながら、ワークシートの例題の答えを記入する。
- (3)
- 問を把握し、自分の力で考え、図示をしたり、穴埋めをしたりして解決する。

- Canvaの画面を提示しながら、例題の答えを確認する。
- (3)
- 問を提示し、自分の力で考えさせる。(3分程度)

問 赤球6個と白球4個の合計10個の球が入っている袋から、1個ずつ続けて2個の球を取り出す。1個目に白球を取り出す事象をA、2個目に白球を取り出す事象をBとする。このとき、条件付き確率 $P_A(B)$ を求めなさい。ただし、取り出した球はもとに戻さないものとする。(東京書籍教科書DVD-ROM 10分間テストから)

- 解き終わった生徒、または解き方がわからない生徒は、教師の前に並び、個別指導を受ける。最初に丸付けをしてもらった生徒から、ホワイトボードに解答を板書する。
※並ぶ際のつぶやきやおしゃべり、立ち歩きの中での交流については、学び合いとして自由に認める。
- 指名された生徒の発表をメモを取りながら聞く。
- (4)
- 例題2を把握し、説明や式を記入する。指名された生徒は教師からの問いかけに答える。

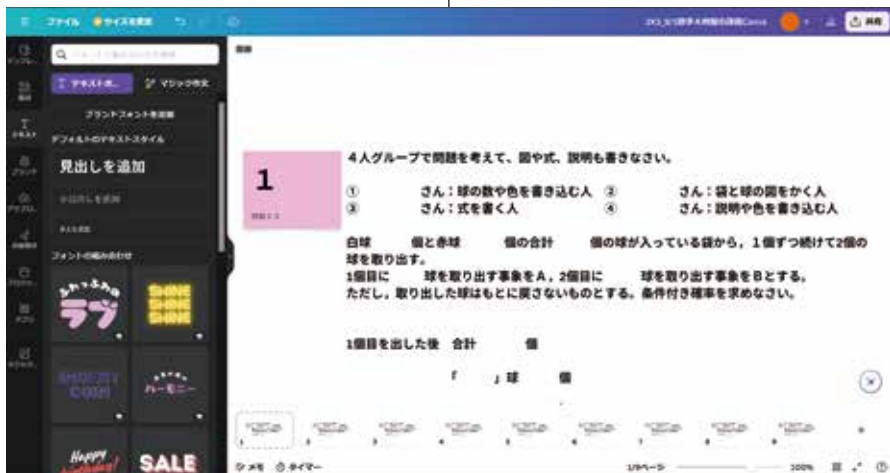
- ☆机間指導をしながら、声掛け、生徒の支援をする。
- 解き終わった生徒、または解き方がわからない生徒を教師の前に並ばせ、個別指導を行う。丸付けも行う。最初に正解した生徒にホワイトボードに解答を板書させる。
- 解き方の説明をする生徒を指名し、全体に発表させ、他の生徒にはメモを取りながら聞かせる。
- (4)
- 例題を提示し、説明や式について穴埋めをしながら説明し、ワークシートに記入させる。穴埋めの際は、生徒を指名して答えさせる。

例2 右の表は40人の生徒の通学時間を調べたものである。この生徒の中から1人の生徒を選ぶとき、電車通学である生徒が選ばれる事象をA、通学時間が30分以上の生徒が選ばれる事象をBとする。このとき、条件付き確率 $P_A(B)$ を求めなさい。

通学時間	電車通学である	電車通学でない	計
30分以上	14	9	23
30分未満	6	11	17
計	20	20	40

- (5)
- 問を把握し、自分の力で考え、図示をしたり、穴埋めをしたりして解決する。
- 問2 例の表で $P_B(A)$ を求めなさい。

- (5)
- 問を提示し、自分の力で考えさせる。(3分程度)
- 穴埋めの際は、生徒を指名して答えさせる。

終結 20分	4. (1) ○確認問題を解き、本時の内容が理解できているか確認する。	4. (1) ○確認問題を提示し、本時の内容が理解できているか評価する。
	<div data-bbox="272 293 1386 427" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>確認問題 白球3個と赤球4個の合計7個の球が入っている袋から、1個ずつ続けて2個の球を取り出す。1個目に白球を取り出す事象をA、2個目に白球を取り出す事象をBとする。このとき、条件付き確率$P_A(B)$を求めなさい。ただし、取り出した球はもとに戻さないものとする。(東京書籍教科書DVD-ROM 10分間テストから)</p> </div> <div data-bbox="272 427 826 696"> <p>◎教師やミニティーチャーから丸をつけてもらったり、アドバイスをもらう。 丸をもらった生徒は、ミニティーチャーとして歩き回って丸を付けに行く、アドバイスをする。</p> </div> <div data-bbox="826 427 1386 696" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価 条件付き確率の意味を理解し、具体的な事象についてそれを求めることができる。 【知識・理解】</p> </div> <div data-bbox="272 696 826 1055"> <p>(2) ○本時の振り返りとして今日のMVPやその理由、自己評価(A・B・C)とその理由等をChromebookを開いて、Google Formsに入力する。</p> <p>○確認問題が終わり、自己評価を書き終わったら、本時の類題で構成された練習問題を解く。練習問題は教科書の問、Training、演習問題からの出題のため、教科書を見て丸付けをする。早く終わったらワークを解く。</p> </div> <div data-bbox="826 696 1386 1055"> <p>(2) 本時の振り返りとして今日のMVP、自己評価(A・B・C)とその理由をChromebookを開き、Google Formsに入力させ、発表者(席順毎時間日替わり2名)を指名しておく。 ☆本時の振り返りを入力するように声掛けをする。 ○本時の類題で構成された練習問題を解かせる。練習問題は教科書の問、Training、演習問題からの出題のため、教科書を見て丸付けをさせる。早く終わったらワークを解かせる。</p> </div> <div data-bbox="272 1055 826 1357" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(3) ◎机を4人班に組み、パソコンを開き、SlackからクラスのCanva(キャンバ)を開く。9つの班それぞれの班のページの課題に役割分担(問題づくり、立式、答え、図等)をして協働しながらタッチペンで画面に書き込み、取り組む。</p> </div> <div data-bbox="826 1055 1386 1357" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(3) ◎机を4人班に組ませ、パソコンを開き、SlackからクラスのCanva(キャンバ)を開かせる。9つの班それぞれの班のページに用意しておいた課題に役割分担をさせて、4人で協働させながら取り組ませる。 ※タッチペンを班員分持って行かせる。 ☆各班の画面をプロジェクターで投影しながら、声掛けをし、助言をする。</p> </div> <div data-bbox="379 1368 1273 1839" data-kind="parent" data-rs="2">  </div> <div data-bbox="272 1839 826 2103"> <p>(4) ○パソコンを落とさないように注意して机を戻し、自己評価と理由を指名された2名は全体に発表する。</p> <p>○ワークシートを前に回して回収する。班でタッチペンを回収する。</p> </div> <div data-bbox="826 1839 1386 2103"> <p>(4) ○パソコンを落とさないように注意させて机を戻させ、自己評価と理由を指名しておいた2名に全体に発表させる。めあてと関連させたこと、数学的な用語などを含めた場合にはその点を認めて紹介する。 ○ワークシートを回収、タッチペンを返却するように指示を出す。</p> </div>	

2-2-3 学習指導案 ワークシート

以下が、本時で使用したワークシートである。(A4用紙 両面 2 in 1 で印刷)

数A 学習日 2年 月 日
氏名 _____

めあて (今日のゴール)
18

条件付き確率

ある試行における2つの事象AとBにおいて、事象Aが起こったときに事象Bが起こる確率をAが起こったときのBの起こる _____ といひ、 _____ で表す。

例えば、
1人目が当たりくじを引く事象をAとすると、1人目がはずれを引く事象は _____ で表し、
2人目が当たりくじを引く事象をBとする。
1人目がはずれを引き、引いたくじを戻さずに、2人目が当たりを引く条件付き確率は _____ と表す。

以下の問を考え、考えた手順も書きましょう。

8本のくじの中に当たりくじが3本ある。このくじを1人目が1本引き、
引いたくじを戻さずに2人目が1本引き。
1人目が当たりを引く事象をA、2人目が当たりを引く事象をBとするとき、

(1) 条件付き確率 $P_A(B)$ を求めよ。

1人目が引いた後 くじは _____ 本
当たりくじは _____ 本

$P_A(B) =$ _____

(2) 条件付き確率 $P_B(A)$ を求めよ。

1人目が引いた後 くじは _____ 本
当たりくじは _____ 本

$P_B(A) =$ _____

この問題の手順は、
まず _____

問 以下の問を考え、考えた手順も書きましょう。

赤球 6個と白球 4個の合計 10個の球が入っている袋から、
1個目を取り出し、取り出した球を戻さずに2個目を取り出す。
1個目に白球を取り出す事象をA、2個目に白球を取り出す事象をBとする

(1) 条件付き確率 $P_A(B)$ を求めなさい。

1個出した後 合計 _____ 個
白球 _____ 個

$P_A(B) =$ _____

(2) 条件付き確率 $P_B(A)$ を求めよ。

1個出した後 合計 _____ 個
白球 _____ 個

$P_B(A) =$ _____

手順) まず _____

複習問題の解説例【プレテストの問】
これができれば、今日のめあて達成!

白球 3個と赤球 4個の合計7個の球が入っている袋から、1個ずつ続けて2個の球を取り出す。1個目に白球を取り出す事象をA、2個目に白球を取り出す事象をBとする。
ただし、取り出した球はもとに戻さないものとする。
条件付き確率 $P_A(B)$ を求めなさい。

$P_A(B) =$ _____

丸まもらったらミニティーチャーをします。

今日のイトコ (授業のために・みんなのために)

理由 _____ さんです。

ミニティーチャーの張り張り
人に教えた(つづけた)

「めあて」の達成度はA~Cに○をつける

A	B	C
---	---	---

自己評価の理由や考えたこと・感想)

今日の学習内容は教科書 p.44-45、ワーク p.29 に載っています。自己評価入力

2年 月 日
氏名 _____

裏面にも必ず名前を書くこと、
名無しは評価に入らない。
裏面もかく

以下の例題を参考に、通学の確率は _____ の式で求められたが、条件付き確率は、
 $P_A(B) = \frac{\text{事象Aと事象Bがともに起こる場合の数}}{\text{事象Aが起こる場合の数}}$ で求められることが分かる。

例2

右の表は40人の生徒の通学時間を調べたものである。
この生徒の中から1人の生徒を選ぶとき、
電車通学である生徒が選ばれる事象をA、
通学時間が30分以上の生徒が選ばれる事象をBとする。

このとき、条件付き確率 $P_A(B)$ を求めなさい。

通学時間	電車通学である	電車通学でない	計
30分以上	14	9	23
30分未満	6	11	17
計	20	20	40

練習問題 教科書 p.44 答え p.131 を丸付け

例14

①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦のカードから
1人目が1枚選び、選んだカードを戻さずに2人目が1枚引き。
1人目が偶数のカードを引く事象をA、2人目が偶数のカードを引く事象をBとする。
条件付き確率 $P_A(B)$ を求めなさい。

練習問題 東京直観 10分間テストから 答えは先生に確認

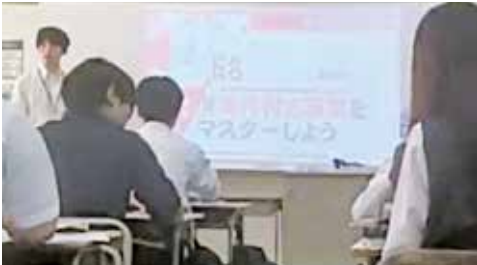
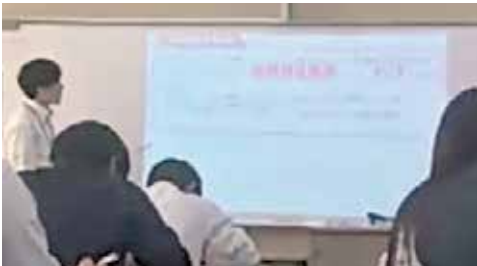
赤球 6個と白球 4個の合計 10個の球が入っている袋から、1個ずつ続けて2個の球を取り出す。1個目に白球を取り出す事象をA、2個目に白球を取り出す事象をBとする。
ただし、取り出した球はもとに戻さないものとする。
条件付き確率 $P_A(B)$ を求めなさい。

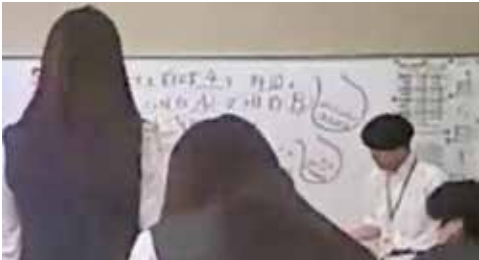
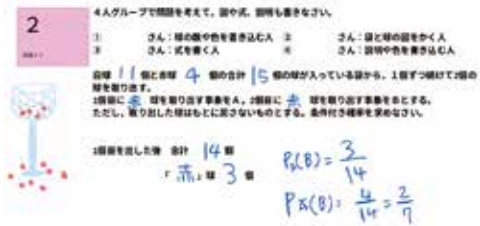
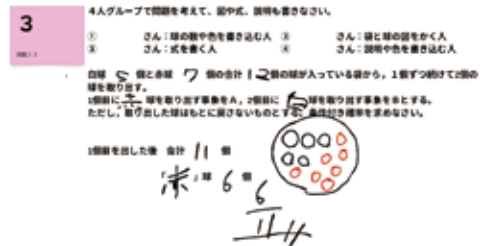
あとがき。

2-2-4 授業の様子

本節では、授業のZoomの録画から切り出した画像とともに授業の流れを以下の表3の通り示す。

表3

0:00 3:00	授業開始 2. 本時のめあての提示の場面	11:33	ババ抜きのようにしてくじを引く実験をする様子
			
4:14	3. (1)条件付き確率についての説明の場面		2班のCanvaホワイトボード
			
8:28	4人グループを組み、くじに見立てた8枚組のトランプで実際にくじを引き、戻さない場合の事象を実験、観察、記録し、Canvaに考えを書く場面 トランプを使って考えている場面		8班のCanvaホワイトボード
			
8:33	タッチペンでCanvaに書き込む場面	20:03	問を板書する様子
			
9:58	机間指導の場面	26:06	問を解いて、丸をもらいに並んでいる途中に周りの席の生徒にコーチングをする様子
			

28:18 30:07 32:36 36:40 37:07	解けた生徒が増えてきて丸をもらう列が伸びている様子  解答を板書した生徒とは別の生徒を指名して、全体に説明している様子   3(4)例題2の様子  4(1)確認問題を板書きし、出題する様子  確認問題を解き終わり、挙手をして丸をもらう様子 	39:10 43:03 45:13 2班のCanvaホワイトボード 3班のCanvaホワイトボード	丸をもらった生徒がミニティーチャーとして、教えたり、丸をつけたりする様子  4(3)4人グループでのCanvaの活動の様子 最初に役割分担をして、班で自由に数値を設定して問題づくりをする場面  2本指でタップすることでCanvaの画面サイズが変えられるので、生徒それぞれ見やすいサイズに調整しながら書き込んでいる様子  式だけでなく、タッチペンの色を変えて赤球、白球の上手なイラストだが、問題の球の個数とは関係ない。  問題設定の通りの球の個数で図を書いていて、2班よりも正確な図。 
--	--	--	--

8 班のCanvaホワイトボード 問題とはあまり関係ない画像を貼り付けてはいるが、Canvaの機能、素材、AIイラストを積極的に活用しようとしているので、良いことにしている。 	48:13 4. (4)授業の最後に今回の自己評価と理由を全体に発表して、拍手をする様子 
--	--

2-2-5 授業検討会

本節では、授業後に行われた授業検討会において、第3回Brush Up研修の講師である渡邊幸雄氏（前東北工業大学教職課程センター教授）からの指導・助言についてまとめる。

プリントの点検をして、評価へとつながっている点、またGoogle Formsを利用してデジタルを取れ入れた点が昨年からまた進化していた。授業では拍手が沸いていて良い。褒めて育てる姿勢が表れていた。授業の随所にグループ活動をする場がうまく設定されていた。Chromebookを使って生き生きと活動していた。最初のトランプを用意していたことも含め、動画世代の生徒を飽きさせないように様々な場面を50分の中で設定しているなど感じた。先生の机間指導では一瞬で全体の解答を把握していて良かった。条件付確率の意味をもっと教え、説明した方がよかったのではないかな。全体として確認する場があっても良かった。何をやっているかわからないという生徒もいるのではないかな。ホワイトボードにマグネットに書かれた指示が貼ってあり、分かりやすかった。生徒も落ち着いて取り組んでいた。

2-2-6 生徒のワークシートの実例



例1 以下の問を考え、考えた手順も書きましょう。

ある袋の中に白球 3 個と黒球 7 個の合計 10 個の球が入っている袋から、1 個球を取り出し、戻さず袋に戻さずに 2 個球を取り出す。1 個目に白球を取り出す事象を A、2 個目に白球を取り出す事象を B とする。

(1) 条件付き確率 $P_A(B)$ を求めよ。

1 個出した後 合計 9 個 白球 2 個 黒球 7 個

$P_A(B) = \frac{2}{9}$

(2) 条件付き確率 $P_B(B)$ を求めよ。

1 個出した後 合計 9 個 白球 3 個 黒球 6 個

$P_B(B) = \frac{3}{9} = \frac{1}{3}$

この問題の手順は、まず...

例2 以下の問を考え、考えた手順も書きましょう。

ある袋の中に白球 3 個と黒球 7 個の合計 10 個の球が入っている袋から、1 個球を取り出し、戻さず袋に戻さずに 2 個球を取り出す。1 個目に白球を取り出す事象を A、2 個目に白球を取り出す事象を B とする。

(1) 条件付き確率 $P_A(B)$ を求めよ。

1 個出した後 合計 9 個 白球 2 個 黒球 7 個

$P_A(B) = \frac{2}{9}$

(2) 条件付き確率 $P_B(B)$ を求めよ。

1 個出した後 合計 9 個 白球 3 個 黒球 6 個

$P_B(B) = \frac{3}{9} = \frac{1}{3}$

今日のイトコ (授業のために・みんなのために) さんです。

理由

ミニティーチャーの振り返り

人に教えたこと (口づけました)

「めあて」の達成度は? A~C に O印をつけよう

自己評価の理由や考えたこと・感想

今日の学習内容は教科書 p.44-45、ワーク p.29 に載っています。自己評価入力

数A 学習日 2年 氏名 9/5 氏名 氏名 顔面もかく

めあて (今日のゴール) 条件付き確率をマスターしよう

条件付き確率

ある試行における2つの事象AとBにおいて、事象Aが起こったときに事象Bが起こる確率をAが起こったときのBの起こる 条件付き確率 $P_A(B)$ で表す。

例えば、
 1人目が当たりくじを引く事象をAとすると、1人目がはずれを引く事象は $\bar{A}$ で表し、
 2人目が当たりくじを引く事象をBとする。
 1人目がはずれを引き、引いたくじを戻さずに、2人目が当たりを引く条件付き確率は $P_{\bar{A}}(B)$ と表す。

例 以下の問を考え、考えた手順も書きましょう。

8本のくじの中に当たりくじが3本ある。このくじを1人目が1本引く、
~~引いたくじを戻さずに~~ 2人目が1本引く。
 1人目が当たりを引く事象をA、2人目が当たりを引く事象をBとすると、

(1) 条件付き確率 $P_A(B)$ を求めよ。
 1人目が引いた後 くじは 本
 当たりくじは 本
 $P_A(B) =$

(2) 条件付き確率 $P_{\bar{A}}(B)$ を求めよ。
 1人目が引いた後 くじは 本
 当たりくじは 本
 $P_{\bar{A}}(B) =$

この問題の手順は、
 まず

問 以下の問を考え、考えた手順も書きましょう。

赤球 6個と白球 4個の合計10個の球が入っている袋から、
 1個球を取り出し、~~取り出した球を戻さずに~~ 2個球を取り出す。
 1個目に白球を取り出す事象をA、2個目に白球を取り出す事象をBとする。

(1) 条件付き確率 $P_A(B)$ を求めなさい。(2) 条件付き確率 $P_{\bar{A}}(B)$ を求めよ。

1個出した後 合計 9個
 白球 3個
 $P_A(B) = \frac{3}{9} = \frac{1}{3}$

1個出した後 合計 9個
 白球 4個
 $P_{\bar{A}}(B) = \frac{4}{9}$

手帳) 10個から1個取り出した後、残り9個から2個取り出す。白球3個と赤球6個。白球4個と赤球5個。

確認問題の解答欄【プレテストの例】
 これができれば、今日のめあて達成！

今日のイトコ (授業のために・みんなのために)
 理由 さんです。

ミニティーチャーの振り返り
 人に教えました(○つけました)
 「めあて」の達成度は7〜10に○をつける
 A B C
 自己評価の理由や考えたこと・感想

自己評価入力
 slack → Google Forms

数A 学習日 2年 氏名 9/5 氏名 氏名 顔面もかく

めあて (今日のゴール) 条件付き確率をマスターしよう

条件付き確率

ある試行における2つの事象AとBにおいて、事象Aが起こったときに事象Bが起こる確率をAが起こったときのBの起こる 条件付き確率 $P_A(B)$ で表す。

例えば、
 1人目が当たりくじを引く事象をAとすると、1人目がはずれを引く事象は $\bar{A}$ で表し、
 2人目が当たりくじを引く事象をBとする。
 1人目がはずれを引き、引いたくじを戻さずに、2人目が当たりを引く条件付き確率は $P_{\bar{A}}(B)$ と表す。

例 以下の問を考え、考えた手順も書きましょう。

8本のくじの中に当たりくじが3本ある。このくじを1人目が1本引く、
~~引いたくじを戻さずに~~ 2人目が1本引く。
 1人目が当たりを引く事象をA、2人目が当たりを引く事象をBとすると、

(1) 条件付き確率 $P_A(B)$ を求めよ。
 1人目が引いた後 くじは 7本
 当たりくじは 2本
 $P_A(B) = \frac{2}{7}$

(2) 条件付き確率 $P_{\bar{A}}(B)$ を求めよ。
 1人目が引いた後 くじは 7本
 当たりくじは 3本
 $P_{\bar{A}}(B) = \frac{3}{7}$

この問題の手順は、
 まず

問 以下の問を考え、考えた手順も書きましょう。

赤球 6個と白球 4個の合計10個の球が入っている袋から、
 1個球を取り出し、~~取り出した球を戻さずに~~ 2個球を取り出す。
 1個目に白球を取り出す事象をA、2個目に白球を取り出す事象をBとする。

(1) 条件付き確率 $P_A(B)$ を求めなさい。(2) 条件付き確率 $P_{\bar{A}}(B)$ を求めよ。

1個出した後 合計 9個
 白球 3個
 $P_A(B) = \frac{3}{9} = \frac{1}{3}$

1個出した後 合計 9個
 白球 4個
 $P_{\bar{A}}(B) = \frac{4}{9}$

手帳) 10個から1個取り出した後、残り9個から2個取り出す。白球3個と赤球6個。白球4個と赤球5個。

確認問題の解答欄【プレテストの例】
 これができれば、今日のめあて達成！

今日のイトコ (授業のために・みんなのために)
 理由 さんです。

ミニティーチャーの振り返り
 人に教えました(○つけました)
 「めあて」の達成度は7〜10に○をつける
 A B C
 自己評価の理由や考えたこと・感想

自己評価入力
 slack → Google Forms

2-2-7 授業での生徒の実態と3週間後の2学期考査での定着状況

本節では、学級の生徒のベネッセ基礎力診断テスト数学のGTZ値と授業の間の正解状況、2学期考査での条件付確率の問題の正解状況について表4の通り詳細をまとめ、分析する。

表4

	ベネッセ 基礎力診断 テスト数学 GTZ値 (2年9/12)	序盤の Canvaの 役割	終盤の Canvaの 役割	授業の間	授業の 確認問題	自己 評価 ABC	ミニ ティー チャー で教え た人数	MVP に挙げ られた 人数	2学期考査条件付確率の問題		
									P _A (B) 穴埋め 形式	1個目の くじ P(A) 記述式	2個目の くじ P _A (B) 記述式
生徒A	A 2	トランプ	式	正解	正解	A	2	3	正解	正解	正解
生徒B	C 2 +	—	—	正解	正解	A	0	1	正解	正解	正解
生徒C	C 2 -	—	—	正解	正解	B	0	0	正解	正解	正解
生徒D	C 3 +	発表	式	正解	正解	B	0	0	誤	正解	正解
生徒E	C 3 -	—	—	正解	正解	A	1	0	正解	正解	正解
生徒F	D 2 +	—	—	正解	正解	B	0	1	正解	正解	正解
生徒G	D 2 +	ペン	図	正解	正解	A	0	0	正解	正解	正解
生徒H	D 2 +	—	—	正解	正解	A	3	2	正解	正解	誤
生徒I	D 2 +	—	式	正解	正解	A	1	2	正解	正解	正解
生徒J	D 2 +	—	説明	正解	正解	A	2	2	正解	正解	正解
生徒K	D 2 +	—	—	正解	正解	A	2	1	誤	正解	誤
生徒L	D 2 -	式	—	正解	正解	A	0	0	正解	無記入	無記入
生徒M	D 2 -	ペン	作問	正解	正解	A	3	2	正解	正解	正解
生徒N	D 2 -	ペン	作問	正解	正解	B	0	0	正解	正解	正解
生徒O	D 2 -	トランプ	作問	正解	正解	A	1	0	正解	正解	誤
生徒P	D 2 -	—	—	—	—	—	—	—	正解	誤	誤
生徒Q	D 2 -	式	説明	正解	正解	A	0	0	正解	正解	正解
生徒R	D 3 +	発表	式	正解	正解	A	1	0	正解	誤	誤
生徒S	D 3 +	—	—	正解	正解	A	0	1	正解	正解	誤
生徒T	D 3 +	—	—	正解	正解	A	1	2	正解	正解	正解
生徒U	D 3 +	—	—	正解	正解	B	0	0	正解	正解	正解
生徒V	D 3 +	ペン	作問	正解	正解	A	0	2	正解	正解	正解
生徒W	D 3 +	—	—	正解	正解	無記入	0	0	正解	正解	正解
生徒X	D 3 -	—	—	正解	正解	A	0	0	正解	誤	誤
生徒Y	D 3 -	—	—	正解	正解	A	0	0	—	—	—
生徒Z	D 3 -	—	図	正解	正解	A	0	1	正解	正解	誤
生徒AA	D 3 -	—	—	正解	正解	A	0	3	正解	正解	誤
生徒AB	D 3 -	ペン	式	正解	正解	B	0	0	誤	無記入	無記入
生徒AC	D 3 -	トランプ	説明	正解	正解	A	1	2	正解	誤	誤
生徒AD	D 3 -	—	—	正解	正解	A	1	0	正解	正解	正解
生徒AE	D 3 -	—	—	—	—	—	—	—	正解	正解	正解
生徒AF	D 3 -	—	図	正解	正解	A	1	0	正解	正解	無記入

※表4のCanvaの役割「—」はCanvaのホワイトボードの役割分担欄に自分で名前を書くため、名前を書き忘れた班は役割分担が「—」となっている。欠席者についても「—」となっている。

表5

ベネッセ基礎力診断テスト数学GTZ値 (2年9/12)	授業の間	授業の 確認問題	自己評価 ABC	ミニティー チャーで 教えた人数	MVPに挙げ られた人数	2学期考查条件付確率の問題		
						P _A (B) 穴埋め 形式	1個目の くじ P(A) 記述式	2個目の くじ P _A (B) 記述式
A 2 1人	正解	正解	A	3人に	3人から	正解	正解	正解
C 2+ 1人	30人	30人	23人	→2人	→2人	28人	25人	18人
C 2- 1人	100%	100%	76%	2人に	2人から	90%	80%	58%
C 3+ 1人	不正解	不正解	B	→3人	→7人	誤答	誤答	誤答
C 3- 1人	0人	0人	6人	1人に	1人から	3人	4人	10人
D 2+ 6人			20%	→8人	→5人	9%	12%	32%
D 2- 6人 ↑計17			C	↑計13	↑計14	無記入	無記入	無記入
53%			0人	43%	46%	0人	2人	3人
D 3+ 6人 ↑計23				0人に	0人から		6%	9%
71%				→17人	→16人			
D 3- 9人(28%)				56%	53%			

※授業は欠席2人のため30人，2学期考查は欠席1人のため31人のデータである。

※↑計はA 2～D 2-までの人数の計，A 2～D 3+までの人数の計を表しており，正解者数，誤答，無記入の人数と関連させて見ることで，どのGTZ値の生徒をサポートすることで，正解者が増えていくのかが，おおよそではあるが分かってくると考える。

表4・表5の通り，授業中の間と確認問題の正解率は100%となっており理解度が高いことが分かる。正解はしたものの自己評価Bとしている生徒が20%おり，ミニティーチャーとして人に教えるところまではできていない生徒が56%となっている。2学期考查では，穴埋め形式での条件付確率の正解率は高く90%となっており，記述式でもくじ引きの1個目の確率P(A)の正解率も80%と高い。しかしながら，くじを戻さずに引いた2個目の確率P_A(B)の正解率は58%と下がっている。このことから，授業では教師や周りの生徒のサポートがある状態で100%の正解率を達成しているが，サポートがない状態での真の学級の理解度は100%と58%の間にあると考えられる。授業では正解して見かけ上は理解できていた生徒が，考查では「誤答」「無記入」となって真の理解が得られていなかったことが分かる。この層の主体性を更に高め，理解度を高める工夫が課題である。

2-2-8 学級の生徒へのアンケート結果

本節では，学級の生徒にCanvaに関するアンケートを行った結果についてまとめる。

表6

Canvaのメリット，よさ，面白さ，楽しさの意見	Canvaについて不便だという意見
• 皆の意見を見ることができる。AIが作ったイラストを使える所。 • 他の班の考えや答えが見えるのがとても良い（参考になるため）。画像も貼り付けることができ，付箋機能も活用しやすくて良い。 • 班での活動で自分たちで問題を考えて解くのが楽しい。Canvaは自由度が高い。 • グループで活動することで楽しい。 • 皆と共有できるから楽しい。共有ができ，ペンで書き込みができる点。 • 皆で作業出来て楽しい。同時に皆で操作できるし，色んな素材がある。 • 共同編集機能が良い。素材の多さも良い。	• パソコンを開くのが面倒。 • Chromebook → Slack → Slackの授業のチャンネル → Canva → 自分の班のページと開くまでが面倒。 • (動作が) 重くなる時がある。 • 文字が書きづらい。 • 文字を書く時にうまく書けず歪んでしまう。字の調節が難しい。

・複数人が同時に作業できる点。書く、消すだけでなく写真を貼り付けたり、スタンプの種類が豊富。 ・グラフ等の貼り付けができるし、簡単に図が使える所。 ・AIで画像生成できるのが楽しい。誰が書いているのかが分かるのも良い。 ・図形が沢山あり、AIを活用している点。 ・Canvaはとても使いやすいし、沢山デザインができる所。 ・色々な機能がある点。ペンの色が変わえられる点。 ・書き込みやすく、かわいくデコれる。スタンプの機能の充実とスライドの素材が元々入っているでスライド作りがしやすい。 ・素材が多く、複数人で取り組める点。 ・使いやすく、素材が沢山ある点。 ・スライドを作る時、かわいいテンプレが多くて良いし、手書きでも書きやすい。 ・楽に作業できる点。 ・Canvaのページはつながりやすい。 ・数学で図を書く以外にレポート作成でも使ったことがある。バグがなくて使いやすい。	
---	--

表6の結果から、1章で述べた井上氏の実践のように、学級の生徒たちも他者参照を行いながら班活動を進めていたことが分かる。また、前田氏や天野氏のようにAIも一部活用できていることも分かる。全体としては、圧倒的にメリットの意見が多く、Canvaの多くの機能を積極的に活用して楽しく活動できていることが分かる。

2-3 第2章のまとめ

本章では、筆者がどのように『生徒の主体的な学びを支援するツールとしてのCanvaの有効性とCanvaを活用した数学の授業展開』を考え、実践したのかを詳しく述べてきた。令和6年度第3回ブラッシュアップ研修における研究授業の学習指導案について示した。指導案は、Canvaを50分の中で2回活用した授業展開となっており、展開の序盤の例題でCanvaを活用している。Canvaのホワイトボードに予め班名、指示、例題の画像を貼り付けて9班分のページを用意して共有の設定にしておき、共有リンクはSlackの数学の授業のチャンネルで送信しておく。授業で生徒はChromebook→Slack→Canva→班の番号と一致するページに入って作業をするという流れで作業を進める。4人で役割分担することで、全員が活動できるようにしている。今回は具体物としてくじ引きの代わりとなるトランプも配布している。トランプは52枚全てではなく1班8枚のみにして渡し、当たりの絵柄キング3枚が入っている。その後は一旦Chromebookを閉じ、ワークシートでの展開となるが授業後半の終結の場面で再びCanvaを活用する展開としている。本時のめあてが達成できるような問題設定としているが、白球、赤球の個数と取り出す色の順番の設定は班で自由に設定する作問形式となっている。4人グループで互いに習得した知識・技能をアウトプットし合いCanvaのホワイトボードに解答を作成する。授業の様子についてCanvaの画像とZoomの写真で詳細も示した。また、授業検討会の指導・助言、生徒のワークシートの実際、授業での生徒の実態と3週間後の2学期考査での定着状況、生徒へのアンケート結果を示した。アンケート結果からは、Canvaのよさをよく理解している生徒が多く、ホワイトボードの他の班のページを見るなど他者参照もしっかりと行っていることが分かり、有効に活用できていることが分かった。生徒の実態では、授業での正解率が100%である一方、考査では58%となっており、見かけ上は理解できていた生徒に真の理解が得られるよう、この層の主体性を更に高める工夫が課題であった。

終章 本研究のまとめと今後の課題

3-1 本研究のまとめ

本研究は、生徒の主体的な学びを支援するツールとしてのCanvaの有効性とCanvaを活用した数学の授業展開について考えることを意図していた。本章では、前章まで述べたことをまとめ、本研究のまとめと今後の課題について述べる。

第1章では、筆者が研究紀要第39号（2024）からの継続研究であり、Google Jamboardの終了に伴って新たなツールとしてCanvaを活用することとするまでの経緯を示し、Canvaを活用した数学の授業展開について考えていくことを述べた。また、Canvaを取り入れた先行研究の実践について前田氏、井上氏、坂本氏、天野氏の4つの実践について示した。特にCanvaのホワイトボードを活用し、他者参照できる機能のよさについて述べた井上氏の実践は筆者の考えと最も近いものであった。

第2章では、ブラッシュアップ研修の学習指導案、授業検討会、研究授業の様子、生徒の授業中・授業後の詳細なデータ、更には実際のワークシート、アンケート結果について詳しく述べた。実際の授業中の様子と問題の正解率、アンケート結果から、Canvaの活用が主体的な学びを支援するために十分な有効性を示していることを明らかにした。一方で、見かけ上は理解できていた生徒に真の理解が得られるよう更なる工夫が課題であった。

3-2 今後の課題

本研究では、Canvaの活用が生徒の主体的な学びのために有効であるという立場から、筆者の実践を紹介し、検証してきた。筆者なりの考えでまとめたが、至らない点は多々ある。以下、今後の課題について述べる。

1章2節で述べたように、Canvaの活用は、Google Jamboardの終了に伴って2024年から本格的に必要感が高まったものであり、黎明期分野、先進的研究分野である。また、CanvaやAI自体も進化を続けており、更に活用の選択肢が増えていくと考えられる。ITの進化に伴って授業の進化も求められ、Canvaを活用した最新の授業展開を考え続け、進化させ続けていくことは喫緊の課題である。

以上の課題を踏まえて、今後も更に調べ、考え、実践を通して、研究を深めていきたい。

Canvaでは、各国で10名だけを認定するというCanva認定教育アンバサダー Teacher Canvassadorという表彰を行っている。筆者もこの認定を目指したいと考える。

引用・参考文献一覧

- 1, 前田昌顕（2023）, 板書を授業モデルと対応させる, 授業力&学級経営力2023年11月号AIで、先生の仕事はどう変わる？, 明治図書, p.98
- 2, 前田昌顕（2025）, Before & AfterでわかるICT超活用授業ハック 子どもが思考する時間を生み出す, 明治図書, p.142
- 3, 井上義之（2023）, 和歌山県教育センター学びの丘研修員報告書
http://www.manabi.wakayama-c.ed.jp/kenkyuroku/R5/houkokusyo/01_inoue.pdf, p.2
- 4, 坂本良品編著（2024）, 授業・校務がより速くクリエイティブに！さる先生の実践Canva, 学陽書房, p.106
- 5, 坂本良品（2023）, 授業・校務が超速に！さる先生のCanvaの教科書 基本からAI活用まで！, 学陽書房, p.84
- 6, 天野翔太（2024）, 1人1台端末フル活用！新4大アプリで算数授業づくり, 東洋館出版社, p.44

「学校設定科目で学ぶ」資格取得を見据えて

仙台育英学園沖縄高等学校 情報科 外間 智行

1. はじめに

本学は情報系の設定科目（「ICT活用講座」「eスポーツ講座」「ITパスポート講座」「プログラミング演習」「グローバルライセンス」「情報セキュリティマネジメント講座」）が6つある。ICTに関する資格取得を目的として開設された講座が多く、将来的に進学・就職・起業に役立てるよう生徒一人一人が一つでも多く取得できるよう指導している。

2. 学校設定科目について

学校設定科目	科目内容
eスポーツ講座	競技として採用されているジャンルを中心に幅広く学習していく。PCが苦手な生徒もいるためゲームをすることで触れるハードルを下げることを目的としている。
ICT活用講座	全国商業高等学校協会が主催している情報処理検定の3級、ビジネス文書2級、プログラミング2級のテキスト内容に準拠している。
ITパスポート講座	ITに関する幅広い知識を身に付け、経済産業省認定の国家試験であり資格取得を目指した内容を学ぶ。
グローバルライセンス	Microsoft Office Specialistの資格取得を目指し、パソコンスキルを高める。
プログラミング演習	HTMLやCSSを活用してホームページを作成。起業を見据え、総合探求の授業で行う「創業計画書」の作成を元に、自身でWebページを卒業作品として制作する。
情報セキュリティマネジメント講座	起業について必要なセキュリティと管理に関する内容を指導する。情報の安全性を守るため運用及び管理に関することを学び資格取得を目指す。
プログラミング英語	幅広いプログラミング言語の基礎たる単語を習得し、プログラミング英語検定の取得を目指す。

3. 生徒の実態

2019年（令和元年）より小・中学校にGIGAスクール構想から生徒一人一人にiPadやChromebookが導入されている。1期生も中学生からPCに触れる機会が多くなり、パソコンに触れる事への抵抗が少なくなったと感じるが、中には高校生になった現在でもタイピングやローマ字が苦手だったり、文章を表現することが難しかったり、パソコンそのものの知識がなかったりする様子が見られる。

4. 資格取得やICTに関する取り組み

■ Google Classroomの活用

資料配布やオンラインでの授業をするためにGoogle Classroomを各科目で作成する。PCやsurfaceを活用してできる課題はすべてGoogle Classroomを通して課題を配布、期限を設けて提出を意識させる。提出をおろそかにしている生徒にも進捗は確認できるので課題取り組み状況によって声掛けをすることができ、習熟度や評価の取りこぼしを最小限に防ぐことができる。

マインドマップを作成する課題



図1：ピストグラム



図2：著作権の内容と事例



図3：マインドマップ（テーマ「沖縄」）



図4：マインドマップ（テーマ「起業」）

■ループリックの活用

Google Classroomで評価を作成する時、図1や図2のように直接点数を入力することも可能だが、課題を配布する前に作成したループリックを活用することで簡単に点数をつけることができる。図の右側でチェックを付け、作成した評価ABCを成績として反映させることができる。



図5
主体的に学習に
取り組む態度



図6
思考・判断・表現

図7 ループリックの編集

■ペーパーレスを目指してCBT実施

資格試験はCBTでの実施が多いのでGoogle formsを活用して選択形式、教科によっては単元テストなどで記述式に変更して解答を前もって記入し、自動採点を行うことで採点負担を軽減でき50問や100問といった資格試験での問題なども印刷すると数十枚に及ぶものを節約することができる。



図8：問題



図9：解答作成

4. 成果と課題

令和6年度9月から情報処理検定とMOS検定に関しては栄光校舎ICT室と普通教室を活用して資格試験を実施。ITパスポートと情報セキュリティマネジメントは那覇港町の指定会場にて令和7年から実施予定。1期生は受験生全員が一つないし二つは資格を取得している。授業ではなるべく多くPCに触る機会を作り、ICTスキルの向上を目的としている。生徒の実態に沿ってICT活用講座では全商情報処理検定の内容を指導するが、月に一度タイピングの記録を取って年度末に個人の成長度合いを示したグラフを作成して習熟向上に努めている。個々人の成果は様々だが、多くの生徒が下記に掲載した図のように右肩上がりになっている。

■1期生の成果

タイピング平均

年度	年始 平均			年度末 平均		
	正タイプ数	誤タイプ数	タイプ率	正タイプ数	誤タイプ数	タイプ率
R5	306.6	102.0	86.1%	437.1	107.1	88.1%
R6	438.5	108.5	88.6%	509.8	114.8	89.3%



令和6年度全商情報処理検定3級 取得率 91.2%（3級のみ留学生含む）

同2級 取得率 53.1%

Microsoft office Specialist（Excel）取得率 96.7%

引用元：Google Classroom・Google Forms・Google スプレッドシート

Ⅱ 令和6年度 研修報告

情報科学コース 沖縄校との交流会報告

情報科学コース 布施 晃伸

実施日：令和7年3月5日（水） 13：00～15：30

場所：宮城野校舎 ゼルコバホール Win 2 実習室

参加生徒：沖縄校 2学年 30名／情報科学コース 2学年 131名

1. はじめに

本コースは令和5年沖縄校開校以来、本コース研修旅行の際に沖縄校にて交流会を持ってきた。

また、ライフル射撃部が沖縄校に滞在し合同練習を行うなど、互いに切磋琢磨しながら2年間交流を続けてきた。

この度、初めて沖縄校の2学年30名が研修旅行のイベントとして、宮城野校舎を訪問する計画となった。本コースと交流活動をしたいという要望を受けて、1月から実行委員を選出し今後継続可能な交流の形を模索することとなった。また、例年同様本コース現2学年は4月に研修旅行で沖縄県を訪問することが決定しており、3月と4月に双方の高校で交流する機会をセットにして、より有意義な形を目指すこととした。

教員中心の計画では記憶にも残りにくいと判断し、イベント内容に関しては生徒同士でオンラインによる話し合いを重ね、枠組みを決定した。3月5日（水）の宮城野校舎来校交流会に関しては本コースが中心となって実施し、第1回目に相応しい有意義な交流会を実施することができた。交流会について以下に沿って報告する。

2. 事前準備

生徒中心の計画とは言え、始めから白紙の状態を進めるのにはハードルが高いため、沖縄校の先生方と事前を実施する大枠に関してはオンライン打合せを行った。意見として出たのは以下の通りであった。

- ① 昨年までの交流会を一新した内容にしよう
- ② 生徒中心の計画にしよう
- ③ 来年4月に繋がる会にしよう
- ④ それぞれの特性が活かされる項目を設けよう

生徒実行委員選出

4月の研修旅行実行委員の役割に加え、「3月5日（水）沖縄校来仙イベント運営」という新しい担当を設けた。選出後、こちらから実行委員に伝えたのは上記4点のみで、1月21日（月）より生徒中心の計画がスタートした。主な活動は放課後を利用して行った。

宮城野校舎で開催される記念すべき第1回目になるこの交流会がどのようにしたら沖縄校の仲間に喜んでもらえるか、そして思い出に残るかを考え、悩み進めて行く実行委員の姿を見て誇らしく思えた。本コースは1月に情報処理検定、2月には学年末考査、MOS試験と生徒も多忙の中であったが、両立して進めて行き、2月6日（木）に実施内容が決まった。

3. 内容

○沖縄校生徒お出迎え

ウェルカム横断幕は、生徒の発案で作成



〈生徒作成横断幕でお出迎え〉

前半

○情報科学コース紹介動画上映

情報科学コースの特色、魅力を発信する内容としてICT部中心となり作成



〈本コースの魅力をご紹介〉

○総合探究発表 SDGs

1 学年で行った総合探究の発表をアップデート

私たちが取り上げた課題テーマ

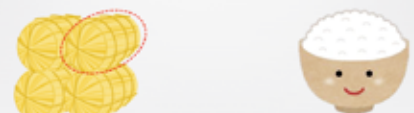
SDGs17: 11
(住み続けられるまちづくりを)

課題: 宮城県の商品ロスを減らす

一宮城県の食品ロスの現状

県民1人あたり
食品ロスは8.8万トン → 1日106g

例) 米の収穫量 約1/4 (8.8トン) ごはん1膳弱 (106g)



宮城県の取り組み

- ①「てまえどり」
(パンなどを手前からとる)
- ②「宮城の食べきりモデル店舗」
- ③食品ロス問題の普及啓発



**この課題を解決するために
作成するアプリケーションは**

家庭系食品ロスが多いため家庭に向けたもの

家族向け

一人暮らし向け

〈情報科学コースが宮城を変える〉

○資格取得について

情報処理検定をはじめとする資格取得状況を発信



4.情報処理検定 今年度合格実績

★3月	★7月
・3級 75名	・ビジネス情報 2級 24名
・ビジネス情報 2級 10名	・ビジネス情報 1級 21名
・ビジネス情報 1級 21名	

情報処理検定 ビジネス情報1級は **過去最多人数が合格**

5.資格取得のメリット

- ★IT関連の技術や知識などを得ることが出来る
Web試験などで実用的な知識を身に付ける
- ★大学などお進学時に有利になる
→ 一部の大学では資格を持っていることで入学できる枠が広がることも
例: 東北学院大学 情報学部 データサイエンス学科
※本学は就職内定の連絡を待つ1年間で卒業後就職先(就職先)による優遇
→ 入学後が有利

〈模範となる資格取得状況〉

○進路について

月に1回「進路別指導」を行ってきた内容を発信



志望理由書の書き方

お互い頑張ろう!

- ①なぜ自分がこの大学を志望しているのか
- ②その大学のどのような要素に魅力をもったのか
- ③自己PRは濃く!!!

↓

自分の気持ちをぶつけるのを忘れずに!!
沢山アピールしよう!!!

〈2年生から進路準備〉

後半

○オリエンテーション「ワードウルフ」

各校10名の代表が登壇し各県、仙台育英に関するワードを基に互いに質問し合い、どの生徒が人狼なのか村人なのかを当てていくゲームを行った。

はじめは緊張していた沖縄校の生徒も徐々に場の雰囲気慣れていく様子が見られた。



〈思い出の1ページ〉



〈貴重な時間をともに過ごした〉

e スポーツ部交流会

両校共通の部活動である e スポーツ部は、全体と別行動で互いの力をぶつけ合い、特別な交流を行った。



〈初めての対面交流試合〉

4. おわりに

「とても楽しい時間を過ごすことができました。4月はこちらが全力で出迎えます。楽しみにしててください。」と沖縄校代表生徒が最後の挨拶で話してくれた。その一言でこの会の成功が証明されたと言えよう。2ヶ月間、どのようにしたら本コースの生徒の実力を発揮させる事ができるか、思い出に残る会になるかと考えながら進めてきた。この学年と2年間関わりを持ってきた私にとって成長を肌で感じる事ができた時間となった。

5. 謝辞

本交流会を実施するにあたり、加藤雄彦理事長校長先生の多大なるご配慮、ご指導を賜り、心より感謝申し上げます。また、沖縄校の加藤聖一校長先生をはじめ、沖縄校の諸先生方、東部トップツアーズの皆様、お世話になった諸先生方にも深く御礼申し上げます。

外国語コース 第1年次 ハワイ研修報告

外国語コース 武田由紀子
我妻 紗菜

1. はじめに

今年度も外国語コース1年次のハワイ研修は、2班に分かれて行われました。事前研修、現地での実施研究の流れとなりました。生徒たちは楽しみながらも真剣に取り組み、充実した研修となりました。

2. 研修期間と参加人数及び引率教員

- ① 第1班：令和6年10月19日（土）～令和6年10月31日（木）
参加人数：12名（外国語コース1年次）
引率教員：我妻 紗菜
- ② 第2班：令和6年11月30日（土）～令和6年12月12日（木）
参加人数：12名（外国語コース1年次）
引率教員：武田 由紀子

以下の表は1班の現地での行程表です。2班と日程は多少異なりますが、研修内容は同じです。

Sendai Iksei Gakuen 2024 OCTOBER								
	Ala Moana beach	SHA	UH	PH	JCC	DH	Graduation	
	21-Oct	22-Oct	23-Oct	24-Oct	25-Oct	28-Oct	29-Oct	
	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	MONDAY	TUESDAY	
9:00-9:10	Homeroom	SACRED HEARTS ACADEMY 8:00 - 9:25	Homeroom	Homeroom	Homeroom	Homeroom	Graduation	
9:10-9:55	ESL <i>Ice Breaker</i>		Pearl Harbor	Pearl Harbor	Thinking Strategies	Personal Development	9:30 Annual Graduation/ PRESENTATIONS	
10:10-10:55	Five Attributes		ESL		ESL	Japanese Cultural Center 10:00-10:25		ESL
11:10-11:55	ESL <i>Ala Moana beach</i>		ESL		ESL	Lunch (~ 11:45)		Diamond Head
12:00-12:45	Lunch		Lunch		UH Campus Tour (Lunch at UH cafeteria)			
1:00-1:50	<i>Ala Moana beach</i>	ESL	ESL					
2:05-2:50		Personal Development			ESL			
2:50-3:00	Homeroom	Homeroom	Homeroom	Homeroom	Homeroom	Students go home from DH		

3. 事前説明会・研修

参加希望者と保護者の説明会を経て班わけをし、班ごとにそれぞれ国際センターの小畑先生より現地での過ごし方や学校の説明等を受けました。生徒は楽しみに胸を躍らせながらも、すでにこの時点で日本と米国の文化や習慣の違いに驚いたり、戸惑いを覚えたりしたようです。

4. 研修内容

1・2班ともに、仙台駅から上野駅まで新幹線で行き、上野から成田まで京成スカイライナーに乗車しました。成田空港よりダニエルKイノウエ国際空港へ向かい、ハワイ・ホノルルに到着しました。帰りも同様です。到着日の土曜・日曜はホストファミリーからハウスルールを学び、また学校までのバスの乗り方を教わりました。次の週末もホストファミリーや友人と過ごしました。

① 講義

Rainbow Academy での授業です。ほぼ毎日午前中が講義です。

- 校長のEarl Okawa先生の講義

先生には様々な講義を頂戴しました。

ILHAが始まったいきさつ、2011年の大震災について。

Personal development / success という講義、失敗を恐れず様々なことに挑戦して欲しいとお話を頂きました。

先生のお話で印象深いものの1つが、「わからないことは止めて「もう1度」と言っていいます、アメリカの生徒はそうします」という内容です。

「How the Mind Works (心のしくみ)」についての講義。conscious (意識) subconscious (無意識) について、Top of Mind Awareness などについて。

「4 Thinking Strategies」(1. critical thinking 2. system thinking 3. strategic thinking 4. creative thinking) について。またFive attributes についてです。なぜこれが重要なのか、それは自身を知るため。そしてなぜ自身を知ることは重要なのか…。ソクラテスやエジソンの名前も出てきました。Conscious (意識。choose, accept or reject, originate / create)・Subconsciousについて(無意識。prejudice, bias, beliefs, fears, habits...)、Mindset (自分で考えていること) Aware / Awareness, Success / Failure も触れました。

Pearl Harbor研修の前日にはその説明を受けました。なぜパールハーバーに行くのか。アメリカ人の物の見方(Perspective)を学ぶことでもあるということ、そして戦争はひどいものだが、誰が始めたのかと生徒に問いかけていたことが印象的でした。ミズーリ戦艦や昨年ノーベル平和賞を受賞した日本被団協、またGeopolitics (地政学) についても触れました。

様々な講義を受講し、生徒達は難しい単語が出てきても、くらいつくように集中して先生の講義に真剣に取り組んでいました。また授業後の休み時間に、Okawa先生ご夫妻に熱心に質問した生徒がいました。

- Angel先生の講義(ゲームやアクティビティ。ハワイの言葉や文化の講義)も生徒は楽しんでいました。先生が校外研修の引率をしてくださり、様々なことを話しかけて先生に親近感を持ったようです。



Angel先生との授業風景



Earl先生との授業風景

② Diamond Head ハイキング

ハワイの人気観光スポットの一つで、標高約232mの休火山です。ハワイ語では、ワイキキから見た形状がマグロの額に似ているという意味の「レアヒ」、またはダイヤモンドの丘という意味のカイマナヒラと呼ばれているとのことです。

バスでダイヤモンドヘッドへ向かいしました。往復で約1時間半のハイキングでした。実際に山を見て今からこれに登るのかと生徒たちは当初驚きつつ不安がっており、ハイキングは大変そうでした。しかしながら頂上から見た美しい壮大な景色に感動し、眺めが素晴らしかったととても喜んでいました。初登山だという生徒も多く、山登りの達成感を感じ取り、とても素晴らしい思い出になりました。



Diamond Head の入り口で



Diamond Head の頂上で

③ アラモアナビーチ（Ala Moana Beach）での海水浴

授業初日、1時間ほど学校近くのアラモアナビーチで海水浴を楽しみました。2班が行った日は、比較的穏やかな海だと思われますが、Angel先生が「こんなに波が荒いなんて」とおっしゃっていました。生徒たちの安全に問題はなく抜けるように澄んだ青空のもと皆楽しんで水浴びをしていました。



アラモアナビーチ

④ Sacred Hearts Academy

現地の学校訪問です。様々な国籍の日本語履修生との交流会が行われました。日本語のレベル3で、2年半くらい勉強しているそうです。ナミ先生が中心となり、履修生たちは日本語で、生徒たちは英語で、事前に準備した質問ワークシートをもとに、お互いの写真を見せあい会話をはずませながら交流を深めていました。現地での生活、学習についてなどを聞いてメモを取る姿も見受けられました。地元の高校生と交流をしたことで、海外留学に興味を持った生徒もいました。その後キャンパスツアーに行きました。大きな教会に生徒たちは驚きつつ、綺麗なステンドグラス、クリスマスデコレーションに感動していました。同世代の現地の生徒との交流は大変意義のあることだと思います。



Sacred Hearts Academy



生徒たちとの交流

⑤ Japanese Cultural Center of Hawaii

日系4世のガイドさんに移民の暮らしぶりや苦労等を伺いました。その後日本からハワイに移住した人々の生活について、また第二次世界大戦中のハワイ在住日系人の待遇についてのショートムービーを見ました。日本とアメリカが戦争を始め、日本の物がすべて失われた。ハワイでの日本人強制収容、1945年の抑留者の帰還、「頑張れ」「おかげさまで」「もったいない」の歴史土台など、生徒たちは真剣に見入っていました。ショートムービー閲覧後はとても興味深そうに展示物を見ていました。

生徒たちは様々な視点から歴史について学び、理解を深めて自分の中に吸収していきました。



Japanese Cultural Center of Hawaii



展示物の見学

⑥ University of Hawaii at Manoa (ハワイ大学マノア校)

大学内で昼食をとったあと、皆でキャンパスツアーをしました。Angel先生の指示に従いポイント毎に様々なポーズをとりました。大学生に声をかけ、一緒に写真を撮る場面もありました。講義の振り返りで、道案内に役立つ英語を用いました。キャンパスの広さに驚く生徒が多かったです。現地の大学を周回することは、生徒たちにとって大変貴重な体験になりました。



University of Hawaii at Manoa (ハワイ大学マノア校) にて

⑦ Pearl Harbor (終日現地での研修)

Pearl Harborにある記念館、戦艦「ミズーリ」を訪れました。先日事前の説明を受けていたものの実際に訪れて、現地のガイドさんから初めて聞く話も多く、その表情は真剣さがにじみ出て、集中して聞いていました。主砲16インチ砲、降伏文書調印式会場、神風特攻機衝突跡を見学し、主砲の威力やミズーリの歴史について伺いました。初めはその大きさや船の設備に驚いていましたが、説明を聞くにつれこの場所の大切さや意味を理解してきました。その後戦艦の中を見学しました。水平の食堂や厨房、寝泊まりする部屋、歯科や郵便局等の施設等があり、当時の生活に思いをはせました。生徒達は難しい内容でもしっかり聞き、目に焼き付けていました。とても勉強になったようでした。





Pearl Harbor ミズーリ戦艦

⑧ 卒業式（プレゼン発表）

いよいよ卒業式です。Ko'oloani ホールのミニシアターで行われました。

ハワイに関するテーマのもと自身が興味関心のある分野を調べてスライドを作成し、発表直前まで熱心に練習していました。個性が出て、大変素晴らしく、興味深い発表でした。

以下に生徒たちのテーマを示しました。しっかりと下調べを重ねたことがわかるスライドや自身の体験を非常に上手くまとめたスライドも多く、先生方からも大変素晴らしいとお褒めの言葉を頂きました。

「My ice cream life」 「DIFFERENCES BETWEEN JAPAN AND HAWAII」

「Snacks in Hawaii」 「Timeless Island, Timely Nation:How Hawaii and Japan Perceive Time」

「TWO WORLDS,ONE OCEAN : UNDERSTANDING THE PEOPLE OF HAWAII AND JAPAN」

「Differences between Hawaii and the mainland (Arizona)」

「THINGS I ENVIED IN Hawaii」 「About Christianity」

「DIFFERENCES IN HOW YOU INTERACT WITH PEOPLE」 「Medical Care in Hawaii」

「Hawaiian and Japanese」 「About freedom life style in Hawaii」

「Manoa with beautiful nature and people」 「Environmental pollution in Hawaii」

「What is different of Hawaii and Japanese」 「people in Hawaii」

「OUR KAKA'AKO」 「History of the Hawaiian Language」

「Christmas in Hawaii」 「Hawaii's marine environment」

「ALOHA SPIRIT IN HAWAII」 「HAWAIIAN FOOD !!」

「ABC STORES's History」

「HAWAII'S CLIMATE ～DIFFERNCES BETWEEN JAPAN AND HAWAII～」

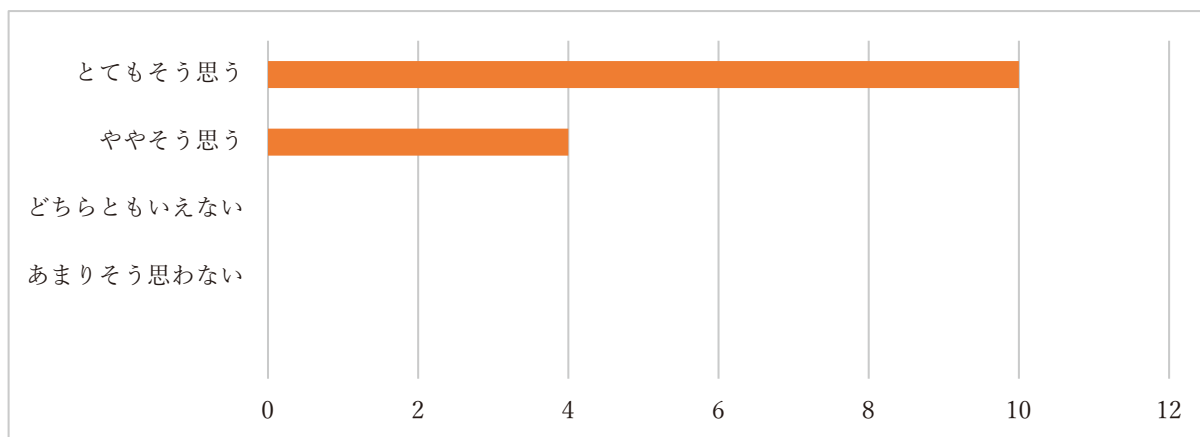
発表終了後、Earl先生から今日のプレゼンテーションの講評と卒業証書をいただきました。Emma先生から花輪を首にかけていただきました。その後はパーティを開きました。



卒業証書授与

5. 研修後のアンケート内容

① 研修を通して成長できたと思いますか？



② 上記を選んだ理由

とても思う (10)

ハワイ語をたくさん覚え、自分から積極的に動くことの大切さを学ぶことができた。

ホームステイを通して共同生活に必要な協調性や忍耐を学んだ

リスニング力が鍛えられたから。

自分で文を作って話せるようになったから。

自分でどうにかしなければいけない時間が増えたから

海外の人とどのように会話をすれば良いのかや文化などを知ることができたから。

積極性や、日常生活における計画性、英語力の向上を感じたから。

新しい人と出会うことをでき、最後のプレゼンテーションでもすごく英語のスキルが上がったと思います。
また、ハワイの公用語は英語で、コミュニケーションスキルも成長したと思います！

バスの乗り換えがよく分からなかった時も問題なくバス運転手の方に聞くことができたので主体性と英語力が身に付いたと実感したから

積極的に英語を話そうと思ったり、自分からたくさん行動に移せたりしたこと

そう思う（4）

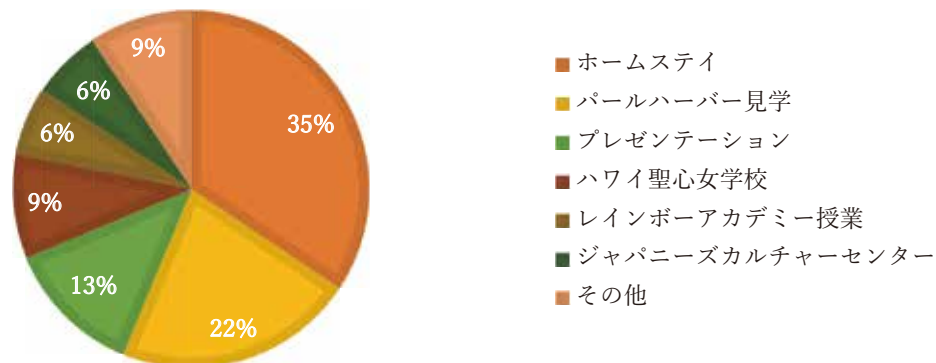
実際に英語を使ってコミュニケーションをとり、様々な活動を通して自分自身の経験値やスキルアップに繋がったからです。

英語で話す恐怖心が少しだけ減った

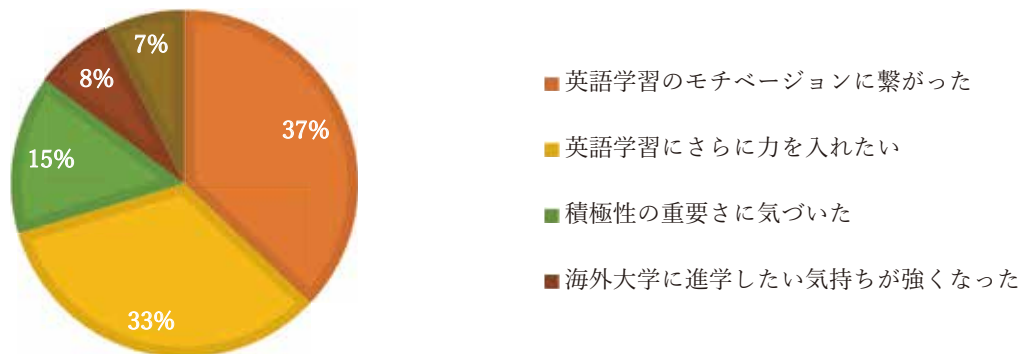
海外の文化をもっと知ることができました。

自分に足りないところが分かったし自信がついたから

③ 特に充実したと感じる体験



④ 研修を通して英語学習や考え方にどのような変化がありましたか？



⑤ 研修を振り返って何か反省点がありますか？

もっとリサーチして、色々なところに行けば良かった。

危機感を持って行動する事

間違っていたら怖いから言わないか、勇気を出して言ってみるか、その2択で迷っているうちに発言の機会を逃してしまうことが多くありました。悩む時間があるなら声に出しておくべきだったという反省点がありました。

もっと自分から話しかける努力、新しい単語を学ぶ努力をすればよかった。

英語が分からないとすぐ諦めてしまったところ。

もっと話せばよかった

もう少し英語を積極的に使えばよかった

緊張しすぎてしまってどう話せばいいのかよくわからず混乱してしまったり、単語力の無さを感じました。

もっと様々な人に自分から話かけて、視野を広げたかった。

特にはないです

やっぱり積極的に話さなかったのを後悔しています。

もっと積極的に怖がらずに話せばよかったなと思った

もっとホストファミリーと交流したかったなと感じます。そもそも生活する場が違ったし夜ご飯も別の日が多かったので積極的に話しかけるべきでした。

バスは急にキャンセルになったり、時間が前後して発車してしまうことが多かったため、もっと情報収集の徹底や時間に余裕を持った行動を心がけるべきだったと思います。

6. 終わりに・謝辞

まずは2班に分かれての海外研修が無事に終了しまして、安堵するとともに感謝の思いでいっぱいです。武田・我妻両名とも大変貴重な機会を頂戴し、また教員としても様々な経験を重ねることができました。理事長加藤雄彦校長先生のご配慮やご助言に心より厚く御礼申し上げます。

おそらく生徒たちはハワイのイメージを「観光地。暑い。海が綺麗。楽しいところ。」と考えていたと思います。しかし研修を通して、それだけではないハワイの奥深さ、日米の歴史上乗り越えなければならない側面、文化や人々との相違などを感じて深く学ぶことが出来たいい機会であったと思います。

ハワイ研修で身につけた語学力や経験を今後に活かして欲しいと願います。

最後に、この研修を支えていただきました理事長加藤雄彦校長先生、ハワイのEarl Okawa先生、日米の諸先生方、現地のホストファミリーやお世話になりました方々、近畿日本ツーリスト様、保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともどうぞご指導を賜りますようお願い申し上げます。

まことにありがとうございました。（了）

総目録(第1号～39号)

1986年3月 第1号

巻 頭 言……………加藤 昭

I. 各種研修会・研修講座に参加して

- ・全国私立中高全国私学教育研究集会……………2
第33回 全国私立中学高等学校
全国私学教育研究集会山口大会参加報告(1)
柏倉 拓
全国私学教育研究集会山口大会参加報告(2) 国語部会
—新学習指導要領における文学教育— 青野 宏一
- ・全国私立中高国際教育研修会……………7
第7回全国私立中学高等学校
国際教育研修会に参加して 教諭 宝槻 隆史
- ・第12回「米国における社会研修講座」……………10
第12回アメリカ社会研修講座に参加して
副題日米社会の相違と文化摩擦 佐々木 豊
- ・第7回「私学の新任若手教員の研修講座」……………12
第7回私学の新任・若手教員研修講座に参加して
渡部 進
- ・「名取平野の文化財」史跡見学会の記録より……………14
渡邊 泰伸

II. 昭和60年度職員研修会

- ・授業研究・各科研究会……………27
国語科(現代文)学習指導案 遣水 満雄
社会科(日本史)学習指導案 駒板 泰吉
数学科(数学I)学習指導案 乾 敬
数学科学習指導案 鈴木 豊治
理科学習指導案 丸山 実信
TEACHING PLAN By Akiyoshi Ohmi
情報処理科 研修のまとめ
公開授業 教科:ベーシック
担当者:野村コンピューターシステム(株)西村 昌郎
保健体育科柔道学習指導案 佐々木 豊
芸術科研修のまとめ

編集後記

1987年3月 第2号

巻 頭 言……………加藤 昭

I. 研究

- ・宮城県加美郡中新田町熊野堂遺跡調査略報……………2
渡邊 泰伸
- ・コンピュータによる学業成績処理……………28
瀬戸 信男
佐々木一郎

II. 各種研修会・研修講座に参加して

- ・第13回米国における社会研修講座に参加して……………39
沢田 敏明
- ・英語教師のための夏期セミナー講演会報告……………42
山田 昇
- ・第24回全国私立中学高等学校
保健体育科研修会に参加して……………50
阿部 俊英
- ・第28回全国私立中学高等学校
理科(生物)研修会に参加して……………52
今野 良裕
- ・第1回全国私立中学高等学校
ニューメディア教育研修会に参加して……………54
瀬戸 信男

III. 昭和61年度職員研修会

- ・授業研究・各科研究会……………59
国語科研究会報告 遣水 満雄
社会科研究会報告 渡邊 泰伸
数学I C不等式の表す領域 中川 良雄
代数幾何学習指導案 渡部 進
数学科研究会報告 中川 良雄
理科I 学習指導案 砂沢 準助
英語科研究会報告 宝槻 隆史
芸術科研究会報告 安倍 一男
情報処理I (BASIC) 小林 慶三
佐々木一郎
保健学習指導案 佐々木松治

編集後記

1988年3月 第3号

巻 頭 言……………加藤 昭

I. 研究

- ・仙台市安養寺下窯跡……………2
渡邊 泰伸
- 研究発表
・大学入試に取り扱われたカタナリー・サイクロイド・
インボリュート曲線について……………22
鈴木 弘

II. 各種研修会・研修講座に参加して

- ・第十四回 米国における社会研修講座(CIAA主催)
に参加して……………29
今野 良裕
- ・アメリカテキサス大学語学研修報告……………60
柏倉 拓
- ・第二十五回全国私立中学高等学校
保健・体育科研修会報告……………71
沢田 敏明

・第二十一回全国私立中学高等学校 生徒指導研修会報告	76	佐々木 豊
・第二十三回全国私立中学高等学校 道徳宗教教育研修会報告	78	及川千一郎
・第二回全国私立中学高等学校 ニューメディア教育研修会報告	81	大場 幸
・第九回国際教育研修会報告	86	出井まち子
・ジェラルド・ロビンス ピアノリサイタル報告	89	荒井 恵子

Ⅲ. 昭和62年度職員研修会

・授業研究・各科研究会	91	
・短歌教材指導について		高橋 正幸
・社会科研究会報告		柏倉 拓
・数学科（基礎解析）学習指導案		乾 敬
・校内公開授業		中川 良雄
・数学科研究会報告		佐藤 亘 松尾 勝郎
・理科（化学）学習指導案		櫻井 忠良
・理科研究会報告		砂沢 準助
・英語科研究会報告		小野 明夫
・書道Ⅱの学習指導について		安倍 一男
・ワープロ学習指導案		遠藤 卓 大場 幸
・保健体育指導		阿部 由晴

編集後記

1989年3月 第4号

巻頭言

Ⅰ. 研究発表	1	加藤 昭
1. 安養寺下窯跡第3次調査	2	渡邊 泰伸
2. 同一素材の外国語翻訳を試みて	28	波里 光彦
Ⅱ. 海外研修	45	
1. アメリカ夏期語学研修についての報告と所感	46	坂爪 英夫
2. 地球の裏から「オブリガード」	51	宮本 昇
Ⅲ. 全国私学研修報告	63	
1. ニューメディア教育研修会報告	64	大場 幸
2. 現代社会とこれからの体育	96	丹野 博太

Ⅳ. 第36回全国私学教育研究集会新潟大会	99	
1. 特色教育部会報告	100	高山 直光
2. 福祉活動を中心として	110	小林 慶三
3. 教育課程部会報告	114	庄司 均
4. 国語分科会	121	笠岡 庸志
5. 英語分科会	134	宝槻 隆史
6. 商業部会報告	138	遠藤 卓

Ⅴ. 校内公開授業各科研究会

・国語科研究会報告		北欧の国語教育と日本	遣水 満雄
・国語研究会報告		ソビエト連邦の教育事情と日本	中津川清風
・社会科研究会報告			小野寺文雄
・数学科研究会報告		校内研究授業〔数学Ⅰ〕学習指導案	岩渕 定義
		校内研究授業〔確率・統計〕学習指導案	鈴木 弘
・理科研究会報告			砂沢 準助
・理科授業研究…“ヒトの生殖と発生”を行うにあたって			横澤 秀夫
・英語科研究会報告			宝槻 隆史
			谷津 繁勝
			小野 明夫
			大沼 洋二

・芸術科研究会報告		時代に即した音楽教育	武藤 信子
・保健体育科研究会報告		保健体育「柔道」指導案	沢田 敏明
・情報処理科研究会報告		「進化する紙」	佐々木一郎

Ⅵ. 編集後記・奥付

176	
-----	--

1990年3月 第5号

巻頭言	加藤 昭
-----	------

Ⅰ. 研究	
・仙台市安養寺下窯跡 第4次調査概報	1
	渡邊 泰伸
Ⅱ. 各種研修会・研修講座に参加して	
・全国私学教育研究集会講演（教育課程部会）より	25
	小林 慶三
・平成元年度 高等学校学習指導研修会	27
	渡部 進
・私学経営研究会教員研修セミナー	

第11回私学の新任・若手教員研修講座報告	35
若澤 幸弘・及川 隆夫	
・第37回全国私学教育研究会大阪大会	
岩渕 定義	
〔1〕数学科分科会報告	49
〔2〕進路指導部会報	63
・全国私立中学高等学校	
第4回ニューメディア研修会に参加して	74
渡部 進	
・第30回東北地区私学教育研究会に参加して	86
山田 昇	
・第25回全国私立中学高等学校家庭科研修会	90
庄司 均	
・カナダ語学研修について	93
佐々木清彦	
・英国語学研修報告	102
阿部 徹・出井まち子	
・カー先生の日本体験記	117
波里 光彦	
Ⅲ. 授業研究・各科研究会	
・国語科学習指導案	143
千田 亥彦	
・数学科学習指導案	146
渡部 進	
・数学科学習指導案	152
菅井 了	
・数学科研究会報告	157
・理科（化学）学習指導案	161
半澤 健	
・化学実験の一考察	167
半澤 健	
・情報処理科（簿記会計）学習指導案	173
佐々木英明	
・保健体育科学習指導案	177
丹野 博太	
編 集 後 記	

1991年3月 第6号

巻 頭 言	加藤 昭
Ⅰ. 国際化教育への模索	
・日本の「国際化」に思う	1
波里 光彦	
・創立85周年記念事業 国際理解のための講演会	17
研 修 課	
・全国私立中学高等学校	
第12回国際教育研修会に参加して	34
佐々木清彦	
・夏期イギリス語学研修（女子）	60
関谷 照夫	
・夏期イギリス語学研修（男子）	73
桜井 忠良	

・女子卓球部中国遠征報告	85
若澤 幸弘	
・仙台育英学園高等学校創立85周年記念	
日本、カナダ国際親善ラグビー遠征記	89
伊藤挺一郎	
・第31回東北地区私学教育研修会 英語分科会	
「How to give the motivation to the students」	
.....	104
キャム・カー	
Ⅱ. 多賀城フォーラム	
・「多賀城フォーラム21」行わる	121
加藤 雄彦	
Ⅲ. 研究・研修	
・第25回全国高等学校体育学科連絡協議会に参加して	137
丹野 博太	
・平成2年度 研修課年間計画	
情報処理研修報告	144
佐藤 正行	
・平成2年度全国私立中学高等学校	
第5回ニューメディア教育研修会報告	167
佐藤 正行	
・私学経営研修会教員研修セミナー	
第12回私学の新任・若手教員研修講座報告	222
佐藤 正行	
・第12回私学の新任・若手教員研修講座	227
佐々木英明	
・西多賀養護学校を訪問して	228
若澤 幸弘	
・宮城県生徒指導研修会に参加して	230
佐々木英明	
・国語科（漢文）公開授業並びに教育研究会	241
寺尾 幸吉	
・数学科公開授業並びに教科研究会	248
近藤 精宏	
・英語科公開授業並びに英語科教科研究会	255
立谷 梨	
・理科科公開授業並びに教科研究会	260
男澤 文義	
・社会科教科研究会	263
阿部 徹	
・保健体育科（保健）公開授業並びに教科研究会	266
沢田 敏明	
編 集 後 記	269

1992年3月 第7号

巻 頭 言	加藤 昭
Ⅰ 研究	
・仙台市安養寺下窯跡	1
渡邊 泰伸	

II 多賀城フォーラム	
・第2回多賀城フォーラム	37 加藤 雄彦
III 講演「山形の一教師の実践論」	55 山形県生涯学習人材育成機構専務理事 打田 早苗
IV 研修報告	
・平成3年度高等学校教育課程講習会	75 凌 時哉
・東北国語教育研究会	83 佐々木隆男・板橋 敏男
・平成3年度宮城県高等学校教育課程講習会外国語部会	94 関谷 照夫
・第13回私学の新任・若手教員研修会	120 佐藤 弘
V 海外遠征報告（平成3年度）	
・夏期カナダ語学研修	125 関谷 照夫
・夏期イギリス語学研修（男子）	135 山田 紀英
・夏期イギリス語学研修（女子）	150 砂金 紀
・オックスフォード紀行	162 高平たつみ
・軟式庭球部台湾遠征	172 佐藤 正行
・女子卓球部スウェーデン遠征	176 大岡多津子
・イタリア知識旅行事前調査	180 小林 慶三・渡部 進・佐々木順子 武田 美法・加藤 晃孝
・女子卓球部中国（上海市）遠征	191 若澤 幸弘
VI 研究・研修	
・校内研修会実施要	193
・国語科公開授業並びに教科研究会	194 及川千一郎
・数学科公開授業並びに教科研究会	224 佐藤 孝
・英語科公開授業並びに教科研究会	230 秋山なみ江・出井まち子
・理学科公開授業並びに教科研究会	232 渡辺 重隆
・社会科教育研究会	238 加藤 晃孝
VII 論文	
・国語科短歌鑑賞会	
一高校生の読み物として一名歌少考	245 高橋 正幸

・「うたごころ」	256 加藤 武夫
編集後記	259

1993年3月 第8号

巻頭言	加藤 昭
I 研究	
・仙台市安養寺下窯跡（第7次調査概報）	1 渡邊 泰伸
II 研修・遠征報告	
・第14回私学の新任・若手教員研修講座	47 槇 統
・全国高等学校選抜卓球大会二連覇を達成して	50 大岡 厳
・オーストラリア英語に接して	52 庄子春一郎
・平成4年度夏期イギリス語学研修	54 渡邊 泰伸
・男子陸上チームのカナダ・バンクーバー遠征	106 二階堂 進
III 校内研修会	
・平成4年度校内研修会実施要項	109
・国語科教科研究会	110 佐藤 秀一
・数学科公開授業並びに教科研究会	154 加藤 晃孝
・理学科教科研究会	163 八木 浩
・社会科教科研究会	203 佐藤 林平
・保健体育科公開授業並びに教科研究会	212 槇 統
・情報処理科公開授業並びに教科研究会	217 佐々木英明
編集後記	223

1994年3月 第9号

巻頭言	加藤 昭
I. 加藤利吉先生生誕111年 学園創立88周年記念事業	
・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して	1 半沢 健
・記念講演—大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは	7 ロバート・カークナー
・平成5年度父母教師会総会講演	26 トミー植松

II 研究		
・仙台市安養寺下窯跡（第8次調査概報）	37	渡邊 泰伸
・宮城県志田郡松山町下伊場野窯跡調査略報	58	渡邊 泰伸
III 海外研修・遠征報告		
・女子バレー部韓国研修旅行	105	佐藤 幸雄
・サッカー部ドイツ遠征	107	佐藤 脩
・中国グランプリ国際大会報告書	123	大岡 巖
・ボーンマス再訪	124	渡邊 泰伸
・平成5年度イギリス語学研修に参加して	180	高谷 功
・平成5年度カナダ研修旅行	195	今野 仁
・クリスマスをアメリカの一家庭で過ごして	206	庄子春一郎
IV 研修報告		
・平成5年度私立学校初任者研修全国研修会（第2回）	209	庄子 和良
・平成5年度私立学校初任者研修全国研修会（第2回）	214	寺内るみ子
・第15回私学の新任・若手教員研修講座	219	寺内るみ子
・第15回私学の新任・若手教員研修講座を受講しての報告	223	松原潤一郎
・全国私立中学高等学校性教育研修会参加報告	226	柏倉 拓
・平成5年度全国私立中学高等学校生徒指導研修会	230	宝槻 隆史
・私学の特色ある教育課程の実践に向けてⅡ	233	佐々木 豊
・平成5年度全国私立中学高等学校数学科研修会報告	248	加藤 晃孝・鈴木 孝司
・全国私立中学高等学校英語科研修会	252	武田 美法
V 校内研修会		
・平成5年度校内研修会実施要項	255	
・効果的国語指導の在り方	256	及川千一郎・清水 初治
・社会科教育研究会	266	高谷 功・渡邊 泰伸
・数学科研究会記録	271	佐々木順子
・地学学習指導案	276	武田 要吉
・英語科研究会	285	武田 美法
・総合実践業務処理システム実習概要	293	瀬戸 信男
・保健体育科学習指導案	325	庄子 和良
・保健体育科柔道学習指導案	327	松原潤一郎
編集後記	330	
1995年3月 第10号		
巻頭言		加藤 昭
I 研究		
・仙台市安養寺下窯跡（第9次調査概報）	1	渡邊 泰伸
II 海外研修・語学研修		
・英国語学研修〔ボーンマス〕の記録	31	渡邊 泰伸
・カナダ語学研修旅行を共にして	93	日下 英夫
・カナダ語学研修報告	105	柏倉 拓
・CBS杯招待遠征報告（韓国（ソウル）雑感）	115	丸山 博史
・韓国CBS杯全国高等学校バレーボール大会に参加して	121	藤屋 秀人
・ニュージーランド語学研修／姉妹校訪問	124	二階堂 勉
・ニュージーランド語学研修	129	小野 裕子
・ハワイ修学旅行下見についての報告と雑感	131	坂爪 英夫
・ラグビー部ニュージーランド遠征についての報告	136	丹野 博太
・ヨーロッパ・橋紀行	145	関根 一郎
・オーストラリアの高校生活ー公立キルコイ高校の場合	154	庄子春一郎
III 研修報告		
・平成6年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修会報告	163	引地 由佳
・平成6年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修報告	167	中村 千恵

・第35回東北地区私学教育研修会	171
今野 仁	
・第35回東北地区私学教育研修会参加の報告	180
佐藤 林平	
・第35回東北地区私学教育研修会進路指導部会	199
大場 幸	
・第35回東北地区私学教育研修会学習指導部会理科分科会	205
大沼 正行	

IV 校内研修会

・平成6年度校内研修会実施要項	209
・「国語科」研究会	210
鎌田 敬	
・数学科研究会記録	215
佐藤 孝	
・英語科研究会	220
砂金 紀	
・理科研究会	226
横澤 秀夫	
・社会科研究会	235
阿部 徹	
・情報処理科研究会	242
佐藤 正行・内海 利男	
・保健体育科指導計画	256
中村 光男	

1996年3月 第11号

創立90周年特別号

巻 頭 言	加藤 昭
-------	------

I 研究

・「世界史」探訪の旅	1
武田 義之	
・不登校児への対応を探る	8
半澤 健	
・宗教と人生	20
小柳 俊夫	
・文学教材指導法雑感	34
伊藤源太郎	
・補助教材として授業中に使用した参考作品集	48
丹野 将範	
・生活史に反映する伝承音楽の役割	94
鎌田 敬	

II 海外研修

・カナダ研修旅行	111
太宰 芳郎	
・イートン校サマースクールを終えて	121
加藤 晃孝	
・オーストラリアの中学生活 公立モーソン中学の場合	125
庄子春一郎	

III 研修報告

・平成7年度『財政経済セミナー』に参加して 我が国財政の現状と課題	129
小嶋 聡悦	
・全国私立中学高等学校国語科研修会研修報告書	170
引地 由佳	
・「性教育研修会」に参加しての報告	174
出井まち子	

編 集 後 記	177
---------	-----

1997年3月 第12号

巻 頭 言	加藤 雄彦
・授業の活性剤	1
半澤 健	
・世界史探訪の旅Ⅱ	6
武田 義之	
・修学旅行事前調査報告	21
沼田嘉一郎	
・韓国スポーツ交流団へ参加して	26
坂爪 英夫	
・韓国修学旅行事前調査に参加して	53
宝槻 隆史	
・Memories of Canada	59
清水 初次	
・学校茶道の果たす役割	63
佐藤 宗秀	
・茶事の研修	69
岡崎 宗豊	
・裏千家今日庵を訪ねて	71
馬淵 宗友	
・21世紀にお茶の心をつなごう	74
木村 宗智	
・カナダ研修旅行報告	78
山田 昇	
・イギリスアップランズカレッジ語学研修事前調査に いって	82
小嶋 哲朗	
・「私学教員のめざすもの」についての一考察	85
下平 孝富	
・北海道・東北地区研修会	88
富澤 良江	
・当世イングランド南西地区環境状況	91
内海 利男	
・宮城野校舎での「LD学習」の利用の現状について	94
工藤 敏夫	
・『第1回実用英語技能検定』の結果を振り返って	100
尾形 照子	
・異文化体験	102
庄子春一郎	
・『ライオンの晴』発行について	108
山本吉之助	

・CS向上めざして教養コースからの提案	113
坂爪 英夫	
・多賀城セクション生徒寮保護者懇談会概要報告	126
守 喜美夫・加藤 晃孝	
・教育実習（養護教諭）期間中に行った研究について	137
指導 木村 保子・佐藤 雅美	
・KOREA旅行雑感・1996年	145
阿部 俊徳	
・長春外国語学校との姉妹校締結記念 中国訪問親善交流・研修の記録	152
曾我 道雄	
・那須研修の現状について	166
藤岡 昌之	
編集後記	186

1998年3月 第13号

巻頭言	加藤 雄彦
・演題「180°変わる進学英語」	1
佐藤 良明	
・世界史探訪の旅Ⅲ—チュニジア共和国とカルタゴの 遺跡—	10
武田 義之	
・雄と雌の話	25
半沢 健	
・高校生の喫煙についての一考察	52
富澤 良江	
・平成8年度教養コースにおける生徒指導の一つの試み	59
沼田嘉一郎	
・平成8年度修学旅行	75
瀬戸 信男・小川 久松・渡邊 泰伸	
・カナダ日記 1997年夏	84
阿部 俊徳	
・アンコール・ワットへの旅	94
佐藤 雄三	
・CS向上をめざす物理教育の一試案	102
高橋 明	
・英国語学研修実施報告	121
千代窪敏光	
・平成9年イギリス夏期語学研修（ボーンマス団）	125
遊佐 隆司	
・松島研修センターの概要	133
榊井 庸彦・渡辺 章紀・佐々木英明 千葉 浩・青木 康博	
・オーストラリアのハイスクール	149
庄子春一郎	
・ペルシアの風—イラン旅情—	158
伊藤源太郎	
・授業における吹奏楽の試み	212
牛渡 純	

・はじめてのクロアチア国際交流	218
澤口 衛・藤屋 秀人 郷古 武・木村 美知	
・国際ゆめ交流博覧会の報告	230
ジェシント ワンジロ ムタヒ	

編集後記

1999年3月 第14号

巻頭言	加藤 雄彦
・初任者研修	1
PART I 宮城野中学校での中高連携授業研究会に 参加して	
日比野曜子 鈴木 暁子 佐々木順子 引地 由佳 下平 孝富 佐々木順一郎 富澤 良江 箱島 道泰 榎 統 藤屋 秀人 千葉 浩 岡崎 由起 古宮 紀子 池口真理子 鈴木 保恵 松原潤一郎 吉田 淳 郷古 武 望月久美子	
PART II 三色最中を訪ねて	
望月久美子 下平 孝富 古宮 紀子 池口真理子 榎 統 鈴木 暁子 松原潤一郎 佐々木順子 鈴木 孝司 鈴木 保恵 岡崎 由起 引地 由佳	
・数学嫌いをつくり出す原因を本校生徒よりさぐる	33
渡部 進	
・Message from Mahurangi College, NZ	45
ジョン・スコベル	
・ニュージーランド修学旅行	48
庄子春一郎	
・ドイツ滞在3年あれこれ	54
佐々木芳輝	
・高等学校におけるコンピュータ事情	63
高階 公・若松 武徳	
・我が国の人名習俗—複名習俗としての—	74
新関 昌利	
・ヨーロッパ知識旅行	84
藤岡 昌之	
・簿記会計1級合格を目指して	91
坂爪 英夫	
・シリーズPART IV「中国」	93
北京・長春の見聞 中国の近代史をみる	
坂爪 英夫	

編集後記

2000年3月 第15号

巻 頭 言……………加藤 雄彦

I 研究報告

- (1)平成7,8年度帰国子女教育研究……………1
千葉 浩
- (2)高校生時代の「日の丸」掲揚、「君が代」斉唱と、
その人格形成への影響について－「日の丸」「君が
代」に関する一考察－……………30
若松 武徳
- (3)わが育英における語学教育－中国語教育について－
……………44
張 言行

II 平成11年度新任者研修の記録

- (1)「講演会」……………49
大学から見た、これからの青少年への期待
期 日 H.11年3月8日(月)16時より
講 師 東北大学総長・工学博士 阿部 博之先生
会 場 宮城野校舎 大会議堂
- (2)「講演会」
コーチング科学について
期 日 H.11年6月18日(月)
16:30～17:50
講 師 順天堂大学スポーツ健康科学部、
コーチ学バレーボール研究室 河合 武司 先生
- (3)平成11年度体育会運動部校内研修会
－コーチング科学講演会をきいて－……………71
杉本 真・進藤由里子
- (4)北海道・東北地区私学学校初任者研修会に参加して
－職業人である私学教員として「私学」というもの
をきちんと理解し、認識する－……………74
鎌田千佳子
- (5)北海道・東北地区私立学校初任者研修に参加して
－21世紀が求める学力を育む学習とその指導－
……………80
佐藤 恵美

III 研修旅行

- (1)イギリス・アップランズカレッジ語学研修……………85
千葉 浩
- (2)カナダ研修旅行記……………96
秋山なみ江
- (3)イギリス語学研修……………104
武田由紀子
- (4)1998年教養コース修学旅行下見報告(瀬戸内班)
……………113
渡邊 泰伸

IV 歳時記

- (1)NewYork Symphonic Ensemble
－Japan Concert Program 1998－
1.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
と仙台育英高等学校混声合唱団・仙台育英学園秀光
コース・秀光中学校オーケストラ・ジョイントコン

サートを終えて」……………122

- 牛渡 純
- 2.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
ジョイントコンサートに参加して」……………126
中村 桂子
- 3.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
ジョイントコンサートの合唱指導」……………129
横山 功
- (2)ケニヤからのメッセージ……………135
エライジャ・J・ギタオ
- (3)オランダからきた柔道人－オランダからやって来た
柔道家たちとの交流記－……………139
箱島 道泰

V 英文中文目次要旨……………142

編 集 後 記

2001年3月 第16号

巻 頭 言……………加藤 雄彦

「トピックス」

- 「一瞬に賭けたエアピストル」
－シドニーオリンピック・エアピストル競技出場
稲田容子先生応援記－……………1
沼田嘉一郎

I 研究報告

- (1)「開かれた学校経営」
～集めるPTAから、集まるPTAをめざして～……………6
沼田嘉一郎

II 平成12年度研修の記録……………13

- (1)「第1回教職員研修会」
「社会に背を向ける青少年の心の問題」
講 師 宮城県中央児童相談所次長 本間 博彰氏
- (2)「進学CLUB講演会」……………27
「生きる喜び」－ガンとの戦いにうち勝って－
講 師 千葉 勇作 氏
- (3)「第2回教職員研修会」……………44
「オリンピックの活躍とキューバスports」
講 師 キューバスports省

- ロベルト・ゴンザレス 氏
- (4)「指導者講習会」
「中国のスポーツ事情」 講 師 孫 国華 氏

III 研修旅行

- (1)教養コース 中華人民共和国 中国研修旅行の記
「大きな一歩－中国5日間の旅」……………57
佐藤 學
- (2)教養コース 英語語学研修
「英語での初めての生活はスケッチブックと」……………70
佐々木仁志

(3)英進コース カナダ語学研修 「語学研修 犬ですら英語でしか反応しない」	82
芳賀 良光	
(4)韓国研修「韓国の古都慶州を駆けぬける」 第16回コーロン杯高校区間マラソン大会招待参加 記録	90
遊佐 隆司	
(5)外国語コース ヨーロッパ語学研修 「すばらしき体験」 「What a LOVELY experience !」 ーイギリス(チャタム)語学研修を終えてー	97
渡辺有紀子	
(6)特別進学コース 英語語学研修 「心豊かな日々」ーイギリス・アップランズ・コミュ ニティ・カレッジ語学研修ー	111
佐伯 達二	

IV 英文・中文目次要旨 129

編集後記

2002年3月 第17号

巻頭言	加藤 雄彦
「トピック」 「キューバ訪問」 訪問の記録	1

I 研究報告 イギリスの教育改革	14
若松 武徳	

II 平成13年度研修の記録	
(1)講演 こころの担任	22
仙台市教育長 阿部 芳吉 指導者のあるべき姿勢と今日の日本スポーツ現状	32
帖佐 寛章	

(2)研修記録 「本校における国際交流」 ー平成13年度第41回東北地区私学教育研修会国際 教育部会ー	49
大場 幸	
(3)開放講座「生き生き学級」の実践	63
船島 敏之	

III 研修旅行	
(1)教養コース ニュージーランド研修旅行 「育英学園の教師であればこそ」	67
佐々木 功	
(2)英進コース 英国語学研修 「貴重な経験」	76
山川眞理子	

IV 歳時記 「少林寺拳法国際大会2001」出場実施報告書	88
佐々木英明	

V 英文中文目次・要旨 92

編集後記

2003年3月 第18号

巻頭言	加藤 雄彦
「トピック」 「全国制覇」夢達成に胸を張り。	1
佐藤 達雄	
「～千人の思いよ届け！～バンブーオーケストラ」	3
相良 信恵	

I 平成14年度 研修の記録	
(1)「21世紀の情報教育」ー図形と画像処理ー	10
小林 祐喜	
(2)仙台育英学園高等学校における公文式英語学習の導 入について～ The report on the introduction of Kumon English Method at SENDAI IKUEI GAKUEN HIGH SCHOOL ～	26
日野 彰	
(3)平成14年度私立学校初任者研修 北海道・東北地区研修会参加報告	32
石山かおり	

II 研究報告	
(1)文章指導についての一考察 ー小論文入門編としてー	41
齋藤 典子	

III 研修報告	
(1)教養コース 中国研修旅行 研修旅行で学んだもの	66
佐竹 伸彦	
(2)英進コース イギリス語学研修 Letters From Cambridge (ケンブリッジからの便り)	82
進藤 満	

IV 英文目次・要旨

編集後記

2004年3月 第19号

巻頭言	加藤 雄彦
トピック クロアチアからの手紙	1
ドリカ・グロシニッチ	

I 研究報告	
(1)通信制課程における教科指導ービデオを利用した地球環境と生物界の変化についてー	3
	金田 敏宏
(2)投球速度の異なる投手の投動作の比較研究ー高校野球選手を対象としてー	7
	佐々木順一郎
平成15年度	
順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究所	
スポーツ科学領域コーチング科学専門分野修士論文指導教官 川合 武司 教授	
(3)第3期(社)日本経済団体連合会	
キャリア・アドバイザー養成講座受講報告書	37
	佐々木 豊
II 研修旅行	
(1)外国語コース ニュージーランド語学研修旅行	
ENCOUNTERING A DIFFERENT CULTURE	
「異文化との出会い」	47
	永井 惇
(2)英進進学コース ニュージーランド語学研修旅行	
「はじめてのニュージーランド語学研修」	54
	石田 昌彦

編集後記

2005年3月 第20号

巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
ケニアからの留学生 サムエル・ワンジル (Samuel Kamau Wanjyu) 君と書道の出会いー心の修行にー	1
	渡邊 章紀
I 研究報告	
(1)心豊かな生徒の育成をめざしてー合同LHRをとおしてー	5
秀光中等教育学校 ホームルーム委員会 代表	
	高橋 守雄
(2)宮城県高等学校商業教育研究会平成16年実務演習講習会受講報告	15
	佐々木英明・日野 彰
(3)フォローアップ講座についての考察	24
	小野 仁也・櫻井 順
(4)スピン軸は公転軸を目指す	51
	原 憲之介
(5)1年生の試行錯誤	62
	本木 真人
(6)宮城県加美郡色麻町 土器坂瓦窯跡の調査	
ー雷文縁4葉複弁蓮華文軒丸瓦を出土する色麻柵付属瓦窯跡の調査ー	78
仙台育英学園高等学校考古学研究部 古窯跡研究会	

II 平成16年度 研修旅行報告	
(1)教養コース 北海道研修旅行	
ー有意義で事故の無い研修旅行の実践ー	182
	船島 敏之
(2)教養コース 中国研修旅行報告	187
	瀬戸 信男
(3)秀光中等教育学校 スイスの自然環境保護への取り組みーユーロスクールを通して感じたことー	193
	小林 祐喜
(4)英進進学コース ニュージーランド留学研修	
ー新たな発見を求めて in New Zealandー	199
	高橋 美保
(5)英進進学コース カナダ語学研修旅行	207
	木村 啓子
(6)特別進学コース カナダ語学研修	
ー自然を愛する国ー	212
	高根 司

編集後記

2006年3月 第21号

巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
青い目の剣士たちースウェーデン研修からー	1
	田中 裕子

I 研究報告	
(1)スペイン語の指導法の研究	11
	コレテス・レオン
(2)憲政初期の選挙運動の一形態	23
	井上 祥
(3)トリプルA委員会の計画と取り組みについて	31
	トリプルA委員会委員長 佐々木英明
(4)MBPとKBPの比較	
ー国際収支理論を中心にー	35
	零石 誠孝
(5)平成17年度	
公文英語・英語Iの関連性における考察	46
	高橋 美保
(6)部活動指導における一考察	
ーサッカー部三年間の歩みー	70
	吉井 秀邦
(7)創作脚本講習テキスト	
ー宮城県高等学校演劇総合研修会ー	76
	渡部 進
(8)古代東北における古瓦の研究	83
	渡邊 泰伸
II 平成17年度 研修旅行報告	
(1)特進コース	
アイルランド・オーストラリア語学研修	122
	日比野曜子
(2)英進コース 北海道研修旅行	134
	伊藤 寿展・桜井 順

(3)英進コース イタリア研修旅行	148
池口真利子	
(4)英進進学コース カナダ語学研修旅行	159
石田 昌彦	
(5)外国語コース アイルランド語学研修	173
岡崎 由起	
(6)フレックスコース 北海道研修旅行	180
大友 健一	

編集後記

2007年3月 第22号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

毎日書道宮城県高校生選抜書展団体賞 ー第12回展～第16回展（2002～2006） 5連覇を叶えた仲間たちー	1
渡邊 章紀	

I 研究報告

(1)フォローアップ講座についての一考察	13
加藤 美穂	
(2)TOEIC/TOEIC Bridge教員向けセミナー ー「高校における活用事例」ー2006ー仙台に参加 してー	34
小野寺朋子・日比野真奈	
(3)法学の学問的特殊性 ーその概念形成の仕方に注目しつつー	37
伊藤 剛	
(4)特別進学コース プラン2000実施報告 ー平成16年～18年度の取組についてー	44
倉橋 真司	

II 平成18年度 研修報告

(1)英進進学コース カナダ語学研修	61
相良 信恵	
(2)英進進学コース 北海道研修報告	69
渡邊 章紀・文屋 祐介	
(3)英進進学コース 英進コース研修 ー膨大な歴史・文化の都イタリアを訪ねてー	94
佐竹 伸彦	
(4)外国語コース アイルランド・ドイツ 語学研修	109
岡崎 由起	
(5)フレックスコース 北海道学研修	117
1班（男子）	富栄 博行
2班（女子）	島倉 尚子
(6)秀光中等教育学校 「2006ユーロスクール」実施報告	127
前半	船越 総眞
後半 ダブリン班	千葉 浩
レンヌ班	石田真理子
エジンバラ班	脇 淳

(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修	156
大竹 聡美	

編集後記

2008年3月 第23号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

「仙台育英中学校創立記念誌」の発見とその内容について ー戦火を超えて残った大正12年2月発行の記念誌ー	1
渡邊理律子	

I 研究報告

(1)高等学校における日本思想を扱った学習指導について ー保科正之の思想と会津を事例としてー	7
倉橋 真司	
(2)外国語コース1年生におけるPLPへの意識調査と家庭学習について	18
北村 悦子	

II 平成19年度 研修報告

(1)英進コース 北海道研修旅行報告	44
小野 仁也・及川 尚彰	
(2)特進・外国語コース 2007年アイルランド・ドイツ語学研修	48
浅利 正雄	
(3)フレックスコース 北海道学研修報告	55
大岩 和良	
(4)秀光中等教育学校 ①グリーンスクール研修報告	60
千葉 広高	
②ー1 2007ユーロスクール実施報告(前半)	66
千葉 浩	
ー2 アイルランド・ダブリン班(後半)	松田 万理
ー3 フランス・レンヌ班	小林 祐喜
ー4 参加生徒レポート	
(1)初めてのヨーロッパ	岩本 怜央
(2)私が感じたヨーロッパ	川岸 瑞歩
③第4学年自由研究論文 京都実地研修報告	103
芦立 俊雄・他	
(5)通信制課程 異文化体験ハワイ研修	131
新田 玲子	

編集後記

2009年3月 第24号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

「グリーンフィールド」	1
吉井 秀邦	

I 研究報告	
(1)平成20年度 第47回東北地区私学教育研修会報告	4
	石田 昌彦
(2)第47回東北地区私学教育研修会報告	7
	小林 祐喜
(3)小論文指導の着地点はどこに設定すべきか	12
	三浦 宗隆
(4)全国音楽教育研究会高等学校部会全国大会宮城大会報告	19
	熊原 裕美
(5)国語教育における課題	
ー国語教育研修会に参加してー	22
	島倉 尚子
(6)日本史の教材研究の試み	
ー「城下町」の場合を例としてー	37
	作間 克彦
(7)高校生における携帯電話の利用について	
ーフレックスコース1年生の調査からー	43
	後藤 有希
(8)仙台市安養寺下瓦窯跡調査報告	
ー陸奥国分寺・同尼寺創建期の瓦窯跡ー	47
	渡邊 泰伸
II 平成20年度 研修報告	
(1)英進コース 北海道研修旅行報告	245
	(前班) 赤間由樹子
	(後班) 秋葉寿太郎
(2)特進・外国語コース	
2008年アイルランド・ドイツ語学研修	263
	小岩久美子
(3)フレックスコース	
①北海道学研修報告	280
	(男子) 高階 公
	(女子) 高橋 葉子
(4)秀光中等教育学校	
①グリーンスクール研修報告	296
	田添万智子
②ユーロスクール実施報告	301
	前半(スイス・ジュネーブ) 庄司 昌弘
	後半(アイルランド・ダブリン) 木田智恵美
	前半(イタリア・ローマ) 本木 真人
	後半(フランス・レンヌ) 牛渡 純
(5)通信制課程 異文化体験ハワイ研修	333
	新田 玲子

編集後記

2010年3月 第25号

巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

2009年「長春第十一高校」姉妹校締結訪問……………1
赤間由樹子

I 研究報告	
(1)伝統芸能の継承に見られる教育のあり方	
ーハワイ・フラにおける一考察ー	5
	安住 陽子
(2)日中交流の架け橋に… 中国人就学生への取り組み	27
	岩渕 奈央
(3)理科教育の現状と今後の課題	
ーBU(理科)を通してー	35
	寒河江華菜
(4)ニュース時事能力検定の授業への導入について	38
	秋葉寿太郎
(5)仙台育英学園陸上競技部(短距離ブロック)の活動報告と今後の展望	43
	菅原 新
(6)アブソープション・アプローチについて	47
	雫石 誠孝
(7)書の楽しみ方 ～いろいろな書の在り方の一考察～	50
	渡邊 章紀
II 平成21年度 研修報告	
(1)英進コース 北海道研修旅行報告	71
	早坂 恵人・高根 司
(2)外国語コース 韓国ソウル研修報告	79
	青木 康博
(3)特別進学コース・外国語コース	
ハワイ語学研修旅行報告	84
	庄司 昌弘
(4)フレックスコース(多賀城校舎)	
韓国ソウル研修旅行報告	95
	阿部 綾子
(5)フレックスコース(宮城野校舎)	
①北海道学研修旅行報告(女子)	104
	池口真利子
②北海道学研修旅行報告(男子)	110
	寺澤 信枝
(6)秀光中等教育学校	
①第3学年ユーロスクール実施報告(前半)	118
	倉橋 真司
②第3学年ユーロスクール実施報告(後半)	128
	小岩久美子
(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修	131
	新田 玲子

編集後記

2011年3月 第26号

巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

I-LION HAWAII SCHOOLにおける
ソーシャルスタディーズがめざすもの……………1
安住 陽子

I 研究報告	
(1)西洋倫理思想史におけるプラトニック・ラブ(エロス論)の系譜 —アンリ・ベルクソンの説を中心に—	10
	土屋 靖明
(2)高校野球の犠牲バントに関する一考察	15
	横山 将
(3)育英祭での第2学年演劇上演報告	22
	河内 実華
(4)私の考える理想的な授業 ～Brush Upを通じて感じたこと～	32
	高橋こずえ
(5)気化熱を利用した燃焼実験と冷却実験	36
	相原ゆり子
II 平成22年度 研修報告	
(1)英進進学コース 第2学年北海道研修旅行報告	39
	山本 尚武
(2)外国語コース 2010年度TOEICエッセイコンテスト3位入賞について —報告—	49
	鹿野 洋・高橋 智子
(3)特別進学コース ハワイILHA語学研修	51
	石山かおり
(4)フレックスコース(多賀城校舎) 北海道学研修旅行報告	62
	千葉 陽子
(5)フレックスコース(宮城野校舎) ①北海道学研修旅行報告	96
	千葉絵美子・庄子 由美
②沖縄学研修旅行報告	101
	小石純之介・佐藤 飛鳥
(6)秀光中等教育学校 第3学年ユーロスクール2010報告	
①前半(9月6日～10日) スイス～イギリス	105
	石田真理子
②後半(9月11日～17日) フランス	117
	脇 淳
(7)通信制課程 異文化体験ハワイ校研修報告	134
	新田 玲子

編集後記

2012年3月 第27号

巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
仙台育英獅子太鼓部 —ダボス会議に参加して—	1
	高橋 葉子

I 研究報告

(1)教育リーダーシップ理論における「同僚性」の理論とその実践的意義	7
	石田真理子

(2)国語教育における文学的文章の読解 —短歌を題材として—	17
	鈴木 正明
(3)外国語コースにおける外国語指導についての考察	20
	小野 真弓
(4)本校における理科の指導について —Brush Upを通しての一考察—	26
	井上 晶子

II 平成23年度 研修報告

(1)英進進学コース	
①第2学年北海道研修旅行報告	29
	高橋 麻憂
②2011年度TOEICエッセイコンテスト特別賞受賞について(報告)	39
	鹿野 洋・岩渕 奈央
(2)外国語コース ILHA研修に向けての準備と研修報告	41
	高橋 美保・安住 陽子
(3)特別進学コース	
①PLAN2000 山形疎開学習報告	65
	高橋 真理
②第2学年校外研修旅行報告	73
	鈴木 和弘・伊藤 信男 山下 秀範・小山 格
(4)Tフレックスコース(多賀城)北海道学研修旅行報告	82
	後藤 有希
(5)Mフレックスコース(宮城野)沖縄学研修旅行報告	89
	佐藤 絢
(6)秀光中等教育学校 第2学年ILHA研修報告	96
	安住 陽子・須江 航・前澤 絵菜
(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修報告	106
	安藤 清一

編集後記

2013年3月 第28号

巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
秀光・特進共同理科実験講座「サイエンス・コ・ラボ」	1
	千田 芳文
第1回New York Shukoh Academy (NYSA) 実施報告	12
	小林 祐喜

I 研究報告

(1)地理の授業での工夫	21
	鈴木 和雄

(2)英進進学コースⅡ類における高度IT教育について	29
日野 彰	
(3)外国語コースの特色を生かした授業 ～日本伝統文化の発表活動を通して～	34
松田 万里	

Ⅱ 平成24年度 研修報告

(1)英進進学コース 第2学年北海道研修旅行報告	45
三浦 宏明	
(2)特別進学コース	
①ILHA研修	58
河内 実華	
②京都研修旅行	69
神谷 章嗣・三浦 仁志	
(3)Tフレックスコース(多賀城)沖縄研修旅行	75
伊藤 寛・千葉 陽子	
(4)Mフレックスコース(宮城野)沖縄学研修旅行	80
安部 恒俊	
(5)秀光中等教育学校 第2学年 ILHA研修	94
遠藤 祐太	
(6)日中国交正常化40周年記念事業 仙台育英学園 高等学校通信制課程 北京研修報告	99
安藤 清一	

編集後記

2014年3月 第29号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

インドネシア研修生の本校での短期研修について	1
新井 真未	
第4学年 NYSA2013実施報告	12
小岩久美子	

I 研究報告

(1)化学部の活動	23
讃岐 果林	
(2)情報科学コースに向けての取り組みについて	33
島倉 尚子・庄司 邦彰	
遠藤 誠・日野 彰	

Ⅱ 平成25年度 研修報告

(1)英進進学コース	
ILHA研修報告	41
佐々木真野	
第2学年北海道研修旅行報告	54
及川 まり・本多 華菜	
(2)特別進学コース 関西校外研修報告	66
神谷 章嗣	
(3)Tフレックスコース 沖縄研修旅行報告	72
赤間由樹子・林田 茂・芳賀 賢祐	
古田 夕子・二瓶 巧	

(4)Mフレックスコース 沖縄研修旅行報告	76
佐藤 優人	
(5)秀光中等教育学校 ILHA研修	85
下浅 雄大	
(6)通信制課程 広域通信制課程沖縄研修報告	95
戸崎 亮司	

編集後記

2015年3月 第30号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

広域通信制課程 ILC沖縄東北研修旅行報告	1
ICL沖縄 與那城慧太	
国際バカロレア・デュアルプログラム(IBDP)導入 について	7
外国語コース 高橋 郁夫	

I 研究報告

(1)イマージョン授業(国際バカロレア準備)	10
外国語コース ジェームズ・ドクターマン	
(2)戦時期における「仙塩地方開発総合計画」(いわゆる 金森構想)の登場と展開	23
特進コース 雲然 祥子	
(3)河川流域における遺跡動態の研究	30
英進コース 佐々木 悟	

Ⅱ 平成26年度 研修報告

(1)特別進学コース	
関西校外研修旅行	46
高橋 真理	
(2)情報科学コース	
第1学年 会津研修報告書	52
正木 智也	
第2学年 校外研修報告	57
千葉 陽子	
(3)外国語コース	
第2学年 ILHA研修報告	63
小野 真弓	
(4)英進進学コース	
ILHA研修報告	72
熊坂 治平	
(5)秀光中等教育学校	
秀光16期生 第4学年NYSA2014実施報告	84
石田真理子	
第2学年(18期生)ILHA研修報告	93
阿部 広大	
(6)通信制課程	
広域通信制課程沖縄研修旅行	105
ILC青森 竹ノ子千春	

Ⅲ その他

- (1)日本・キューバ友好400周年交流事業 ……114
外国語コース 岩渕 奈央
Tフレックス 白岩 幸浩

編集後記

2016年3月 第31号

- 巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

創立110周年記念講演

- 国際人育成のための提言～ILHAの実践を通して ……1
ILHA（校長）アール・大川

I 研究報告

- (1)数学同好会の活動 ……9
特別進学コース 佐藤 璽
(2)IB DP（国際バカロレア・ディプロマプログラム）
に関する生徒の振り返り ……14
外国語コース ジェームズ・ドクターマン
ケリー・ウィンター
高橋 郁夫
(3)3DCG ゲームソフト作成 ……27
情報科学コース 遠藤 誠
日野 彰

II 平成27年度 研修報告

- (1)特別進学コース 関西校外研修旅行 ……32
菅野 直幸
(2)情報科学コース 沖縄研修旅行報告 ……37
山田 大
(3)外国語コース ハワイ研修報告 ……42
石田真理子
(4)英進進学コース 沖縄研修報告 ……52
北村 悦子
(5)フレックス・技能開発コース
サッカー部女子沖縄遠征・交流会 ……66
林田 茂
(6)秀光中等教育学校
NY研修報告 ……70
本田 朋
ハワイ研修報告 ……77
阿部 広大
(7)広域通信制課程
沖縄研修旅行 ……89
ILC青森 加藤 宏明
職場体験実習報告 ……98
ILC沖縄 照屋 恵美

Ⅲ 東北地区私学教育研修・ブロック別指導者研修報告

- (1)教育課程（私学教育） ……111
秀光中等教育学校 坂内 玲子

- (2)生徒指導（私学教育） ……114
フレックスコース 白岩 幸浩

- (3)進路指導（私学教育） ……116
秀光中等教育学校 倉橋 真司

- (4)道德教育（ブロック別） ……119

- フレックスコース 渡邊 章紀
秀光中等教育学校 小林 祐喜

編集後記

2017年3月 第32号

- 巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

- 探究講座TTTチャレンジの成果……………1
特別進学コース 神谷 章嗣
孔子課堂の可能性……………7
外国語コース 鈴木 茂幸
国際バカロレア受講生徒の学術的論文 ……13
外国語コース 石田真理子

I 研究報告

- (1)文芸部の活動について ……23
特別進学コース 下田真奈美
(2)英進進学コース英語科研究報告 ……27
英進進学コース 熊坂 治平
(3)国際バカロレアと日本のカリキュラム：2つは両立
できるのか ……31
秀光中等教育学校 ケリー・ウィンター
笠原 千尋
(4)IB生物におけるアクティブ・ラーニングの事例研究
……………36
外国語コース ジェームス・ドクターマン
笠原 千尋

II 平成28年度 研修報告

- (1)特別進学コース 関西校外研修旅行 ……43
齋藤 美咲
(2)外国語コース ハワイ研修報告 ……48
赤間 ゆき
(3)英進進学コース 沖縄研修報告 ……57
佐々木正人
(4)フレックス・技能開発コース
沖縄研修旅行（フレックスコース女子）……………66
杉田 愛
沖縄研修旅行（技能開発コース）……………71
小野 仁也
(5)秀光中等教育学校
NYSA 2016 実施報告 ……75
伊藤 沙絵
ハワイ研修報告 ……81
倉橋 真司

(6)職員研修報告	90
多賀 努	
Ⅲ その他	
(1)広域通信制課程ILC 青森校の状況報告	104
ILC 青森所長 三笠 勝彦	
(2)職業調査とジョブミーティングー12職種の職業に関する調査とその発表活動を通してー	115
情報科学コース 志賀 貞昭	
(3)公文式学習（国語）実践の成果	119
フレックスコース 島倉 尚子	

編集後記

2018年3月 第33号

巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
高等学校通信制教育の質の向上について	1
村上 淳	
剣道部サイパン遠征・文化交流活動報告	5
加藤 裕之	
IBにおける教科指導実践について	12
Enabling and Disabling Factors in Implementing International Baccalaureate Programmes in Japanese Secondary Schools: Curriculum, Pedagogy and Assessment	
Kerry Winter	
I 研究報告	
(1)Surface 活用に向けた授業における取組について	20
情報科学コース 坂入 崇紀	
日野 彰	
(2)IB DP（国際バカロレア・ディプロマプログラム）デュアルランゲージで行う TOK 授業	24
外国語コース 石田真理子	
(3)教科BU研修会について	27
教科教育センター 板垣 徳昭	
Ⅱ 平成29年度 研修報告	
(1)秀光中等教育学校 カナダ研修報告	36
小保内陽大	
(2)情報科学コース 沖縄研修旅行報告	51
加藤 芳己	
(3)フレックス・技能開発コース 沖縄研修報告	56
多賀 努	
(4)英進進学コース 沖縄研修報告	63
渡邊 光稀	
韓国研修報告	71
狩野 常俊	
(5)外国語コース ハワイ研修報告	78
岩渕 奈央	
丹野まさよ	

(6)職員研修報告	89
零石 利光	
Ⅲ その他	
(1)ILC 沖縄校の状況報告	97
ILC 沖縄所長 山内 一秀	
(2)演劇部の活動について	111
特別進学コース 赤間 ゆき	

編集後記

2019年3月 第34号

巻頭言	加藤 雄彦
トピック	
授業改革：協働学習の可能性	1
Transforming the Culture of Teaching and Learning: An emerging collaborative learning community	
Kerry Winter	
仙台育英孔子課堂活動報告	12
孔子課堂長 板垣 徳昭	
I 研究報告	
(1)デュアルランゲージで行う TOK 授業のケーススタディーPCK（授業を想定した教科内容知識）を意識したバイリンガル授業	23
外国語コース 石田真理子	
(2)特進コースの英語4技能向上対策：「オンライン Weblio 英会話」を活用したe-learning 学習について	29
特別進学コース 伊藤 需	
(3)仙台育英学園生き生き教室「√2 ってなに」	34
フレックスコース 零石 利光	
(4)教科BU研修会について	43
教科教育センター長 板垣 徳昭	
Ⅱ 平成30年度 研修報告	
(1)秀光中等教育学校 カナダ研修報告	65
笠原 千尋	
(2)特別進学コース 関西校外研修報告	78
高橋 真理	
佐々木正人	
(3)情報科学コース 沖縄研修報告	84
船越 正志	
野坂 有生	
(4)フレックス・技能開発コース 沖縄研修報告（男子）	90
西山 大樹	
沖縄研修報告（女子）	93
石川美紀子	
(5)英進進学コース 沖縄研修報告	96
藤倉 善将	
台湾研修報告	108
熊坂 治平	

(6)外国語コース	ハワイ研修報告	113
	松崎 希莉	
	下浅 雄大	
(7)仙台育英孔子課堂	第2回北京語学研修報告	120
	平成29年度孔子課堂長	鈴木 茂幸
(8)職員会津研修報告		123
	フレックスコース	栗石 利光

Ⅲ その他

ILC 青森校の状況と社会人養成講座について	128
	ILC 青森所長 三笠 勝彦

編集後記

2020年3月 第35号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

eスポーツ部の設立及びeスポーツ講座と今後の展望について	1
	情報科学コース 村上 淳 日野 彰

I 研究報告

(1)SDGsを意識した授業づくり	6
	秀光コース 菊地恵美子
(2)新学習指導要領に向けた英語4技能の指導について	14
	特別進学コース 新谷 仁 伊藤 需 安部 宏紀
(3)英進進学コースにおける英語課外学習	21
	英進進学コース 木村 汐里
(4)IB授業実践例	23
	外国語コース 小湊 陽
(5)「せんだいまなびや」の導入	33
	技能開発コース 宮浦 靖次
(6)教科BU研修会について	52
	教科教育センター長 板垣 徳昭

Ⅱ 令和元年度 研修報告

(1)秀光中等教育学校・秀光コース（高校）	
カナダ研修報告 “Canada Study Abroad Trip”	83
	Kerry Winter
京都研修報告	92
	加藤 隆寛 横山 佳絵
(2)特別進学コース 関西校外研修報告	97
	庵原 直樹
(3)情報科学コース 沖縄研修報告	102
	村 貴之
(4)フレックス・技能開発コース	
九州研修報告	107

	西山 大樹
九州（長崎）研修報告	110
	寺澤 信枝
(5)英進進学コース 台湾研修報告	116
	五十嵐春祐
(6)外国語コース ハワイ研修報告	120
	川村くるみ

(7)教職員研修会報告（講演会）

（「学習障害・発達障害について」）

フレックスコース	126
	村岡 信章

Ⅲ その他

ILC 青森における本年度の活動状況報告	132
	ILC 青森教頭 丸山 裕治

編集後記

2021年3月 第36号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

秀光コース20期生 TOK実践報告と振り返り	1
	TOK担当 加藤 隆寛
「国際バカロレアMYPとDPを活用した中高一貫教育の取組」	5
	仙台育英学園IBチーフコーディネーター 高橋 郁夫

I 研究報告

(1)秀光中学校・秀光コース オンライン授業実績報告	10
	秀光中学校ICT推進委員 小保内陽大
(2)『先輩、教えて下さい！』～ICT活用からOn-Line授業へ	18
	特別進学コース 御代 力夫
(3)情報科学コース デジタル教科書における取り組みについて	25
	情報科学コース 金福 瞭 加藤 芳己
(4)公私間教員交流研修報告	
	外国語コース 小林 祐喜 28
	仙台二華高等学校 上島 佐輔 35
(5)ICT推進の取り組みについて	37
	英進進学コース 五十嵐春祐
(6)ICT推進の取り組みについて	41
	フレックス 技能開発コース 山田 大
	フレックス・技能開発コースにおける広域通信制併修の取組
	43
	フレックスコース 小原沙希子
	学級だよりの有効性～学級だよりを核にした学級経営の研究～
	50
	技能開発コース 館和 廣

Ⅱ 令和2年度 研修報告

(1)英進進学コース

地域探求研修報告	71
尾林さつき	

Ⅲ その他

(1)Office365・Zoomオンライン授業研修報告

秀光コース	小保内陽大
情報科学コース	日野 彰

(2)数学問題間の類似性認識に関する考察～数学における問題づくりを通して～

広域通信制課程ILC沖縄	新里 孝雄
スクーリングにおける理科実験の意義ーILC沖縄の理科実験教室ー	92
広域通信制課程ILC沖縄	渡邊 正俊

編集後記

2022年3月 第37号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

国内初BTECセンター開設プログラムを英進コースに導入	1
-----------------------------	---

BTECセンター長	千葉 慎
-----------	------

I 研究報告

(1)令和3年度3・4学期 秀光コース1学年

総合的な探究の時間実践報告ー遠田郡美里町の総合的研究ー	4
-----------------------------	---

秀光コース	倉橋 真司
-------	-------

(2)令和4年度実施の「新学習指導要領」に向けての取り組み

＝「観点別評価」のための「評価規程」改訂と「評価システム」作りについて＝	19
--------------------------------------	----

カリキュラム・マネージャー	小松 敦
---------------	------

(3)情報科学コースにおけるslackの活用について

情報科学コース	吉野 裕貴
---------	-------

能動的学修におけるICT活用	27
----------------	----

情報科学コース	佐々木りせ
---------	-------

(4)外国語コースにおける韓国語課外活動報告

外国語コース	尹 惠靖
--------	------

(5)英進進学コース ICT推進の取り組みについて

英進進学コース	五十嵐春祐
---------	-------

(6)「総合的な探究の時間」におけるデジタル教材の活用について

フレックス 技能開発コース	佐藤 佳蓮
---------------	-------

(7)保健体育科の観点別評価についての研究報告

技能開発コース	地崎 大知
---------	-------

(8)数学の授業における教材への取り組み

数学検定講座について	48
フレックスコース	零石 利光

Ⅱ 令和3年度 研修報告

外国語コース

第2年次 松島SDGs探究研修報告	54
岩渕 奈央	

Ⅲ その他

英進進学コース

各教科教育センターのブラッシュアップについて	66
英進進学コース	金澤 瞭

編集後記

2023年3月 第38号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

(1)令和4年度「東和蛭雪校舎研修」のまとめ

東和蛭雪校舎担当	佐々木邦治
----------	-------

(2)高等学校「地理総合」におけるドローンを活用した授業実践

特別進学コース	伊藤 恵
---------	------

I 研究報告

(1)秀光中学校・秀光コース

国際バカロレア ディプロマプログラム「言語A：文学」授業実践報告	18
----------------------------------	----

秀光コース	横山 佳絵
-------	-------

(2)情報科学コース

対面授業でのClass活用の可能性	22
-------------------	----

情報科学コース	佐々木りせ
---------	-------

(3)令和4年度 外国語コース

Stanford e-Sendai Ikuei 報告	26
----------------------------	----

外国語コース	今川 里菜
--------	-------

(4)観点別評価の実践

英進進学コース	竹ヶ原孝則
---------	-------

(5)エナジードの導入

フレックス・技能開発コース	針生 清人
---------------	-------

(6)情報BUについて

教科センター情報担当	日野 彰
------------	------

(7)ICTを積極的に活用し双方向性を重視した授業

社会科コンダクター	小松 敦
-----------	------

(8)スラックで英作文を指導してみた！

英語科コンダクター	御代 力夫
-----------	-------

(9)教育×メタバースの試行から見えた成果と課題

広域通信課程 ILC青森	村上 淳
--------------	------

Ⅱ 令和4年度 研修報告

外国語コース

第2年次 ハワイ研修	57
武田由紀子、テリー	

情報科学コース	
第3年次 沖縄研修旅行	67
	武田 若葉
英進進学コース	
第3年次 沖縄研修旅行	70
	松井 有生
フレックス・技能開発コース	
第2年次 沖縄研修旅行	76
	河原愛利沙

Ⅲ その他

編集後記

2024年3月 第39号

巻頭言	加藤 雄彦
-----	-------

トピック

(1)仙台育英学園沖縄高等学校について	1
仙台育英学園沖縄高等学校	庄司 昌弘
(2)情報科学コースの取り組み「情報科学コースが宮城 を変える」	5
東京都市大学准教授	森 朋子

I 研究報告

(1)情報科学コース	
「学校設定科目プログラミング授業について」	9
情報科学コース	高橋 良太
	日野 彰
(2)シジュウカラガン復活プロジェクト報告	14
外国語コース	布施 莉彩
(3)仙台大学大学院での授業報告	19
英進進学コース	田辺 巧
(4)ICTを活用した授業について	24
英進進学コース	及川 まり
(5)主体的な学びの支援ツールの有効性と数学の授業 展開の研究	28
技能開発コース	舘 和廣
(6)教員1年目の実践と展望	46
特別進学コース	佐藤 宏成
(7)「IBDPにおけるICTを活用し主体的学習を重視した 授業実践」	50
社会科コンダクター	小松 敦
(8)令和5年度数学科ブラッシュアップ研修・研究授業 報告	59
数学科コンダクター	牛来 生人
(9)令和5年度 ILC 沖縄 eフレックスコース	
探究学習プログラムの報告	62
広域通信課程 ILC 沖縄	與那城慧太
(10)コンピテンシー測定ツール「Ai GROW」の活用事例	70
仙台育英学園沖縄高等学校	栗本 崇雅

Ⅱ 令和5年度 研修報告

外国語コース	
第1年次 ハワイ研修	74
	鈴木 杏子
	川村くるみ
情報科学コース	
第3年次 沖縄研修旅行	80
	菅 光朗
英進進学コース	
第3年次 沖縄研修旅行	83
	八代 杏里
フレックス・技能開発コース	
第3年次 沖縄研修旅行	89
	小原沙希子
秀光コース2・1学年、秀光中学校3学年	
カナダ研修報告	93
秀光中学校3S1担任	伊藤 沙絵

Ⅲ その他

編集後記

編 集 後 記

1986年初版から、今年度の研究紀要で40号となります。第1号を振り返ると、「Ⅰ 各種研修会・研修講座に参加して」と「Ⅱ 昭和60年度職員研修会」の2部構成となっています。Ⅰにおいては、全国各地で行われた研究集会や研修会に参加しての内容報告、アメリカでの社会研修講座についての報告が寄稿されています。また、Ⅱでは、先生方が行った授業研究の学習指導案や校内研修のまとめが収録されています。さらに2001年第16号より、トピック、Ⅰ 研究報告、Ⅱ 研修報告の現在の形式に落ち着きました。今年度である2025年からは、より多くの方に、本学園の研究への取り組みをご覧いただけるよう、冊子での研究紀要の発刊から、SNS（ホームページ）での公開に変更となります。「トピック」において、学校としての研究や先生方個人の研究の紹介。「研究報告」として、各コースや各教科での研究実践の紹介。また、「研修報告」として、仙台育英学園沖縄高校との交流授業、外国語コースでのハワイ研修を掲載いたしました。トピックや研究報告は、内容の大きな変更はありませんが、これまで各コースで実施されてきた研修旅行については、どなたでも、各コース別に生徒の活動の様子が目で見えるように、写真や映像を中心とした構成に大きく変更いたしましたので、ぜひご覧下さい。

本学園の教職員はもちろん、すべての本学園関係の方々に、ご一読いただき本学園の理解の一助になればと考え、今年度から研究紀要の内容は、本学園のHPにアップすることといたしました。

今後も先生方の研究や研修の内容が、本学園の生徒達に還元でき、生徒の学びが一層深まることを祈念いたします。ご多用中、寄稿して下さった先生方に心から感謝いたします。

研究紀要40号編集担当 岡崎 徹郎

発 行：秀光中学校・仙台育英学園高等学校

所在地：〒983-0045 宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目4-1

電 話：022-256-4141

研究紀要40号

巻 頭 言 加藤 雄彦

トピック

- (1) 宮城教育大学大学院博士論文（ダイジェスト版）
「専門性を有する移住者の定住に関する実証的研究」について（報告）
..... 秀光中学校
仙台育英学園沖縄高等学校 校長 加藤 聖一
- (2) 仙台大学大学院修士論文（ダイジェスト版）
「高校運動部活動における指導者及び部員の満足感を規定する要因について」
..... 英進進学コース 田辺 巧
- (3) BTEC（Business and Technology Education Council）プログラムの紹介
..... BTEC センター長 千葉 慎
- (4) 仙台育英学園沖縄高等学校について（第2部）
..... 仙台育英学園沖縄高等学校 教頭 庄司 昌弘

I 研究報告

教科教育センター

- (1) 「企業の教育プログラム」を活用した授業実践
..... 社会科コンダクター 小松 敦
- (2) 令和6年度国語科BrushUp研修会報告
..... 国語科コンダクター 須藤 尚
- (3) クリエイティブな教材研究 ～ AIの活用とその創造性～
..... 特別進学コース 安部 宏紀
- (4) 第二外国語・中国語授業における実践事例
..... 外国語コース 王 霄漢
- (5) Copilot（コパイロット）の実践について
..... 英進進学コース 五十嵐春祐
吉野 裕貴
- (6) 研究紀要第39号（2024）「主体的な学びの支援ツールの有効性と数学の授業展開の研究」
の継続研究 ～ Canva の活用～ 技能開発コース 館 和廣
- (7) 「学校設定科目で学ぶ」資格取得を見据えて
..... 仙台育英学園沖縄高等学校 外間 智行

II 令和6年度 研修報告

情報科学コース

沖縄校との交流会報告 情報科学コース 布施 晃伸

外国語コース

第1年次 ハワイ研修報告 外国語コース 武田由紀子
我妻 紗菜

III その他

総目録（第1～39号）

編集後記